

平成19年度

科学研究費補助金公募要領

(特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費)

平成18年9月1日

文部科学省

目 次

I	公募の概要	1
1	科学研究費補助金の目的・性格	1
2	研究種目	2
3	文部科学省と独立行政法人日本学術振興会の関係	2
4	文部科学省が公募を行う研究種目のスケジュール	3
5	科研費に関するルール	4
II	公募の内容	5
1	各研究種目に共通するルール	5
(1)	応募資格	5
(2)	補助金の適正な使用等	6
(3)	重複応募の制限	7
(4)	研究組織	7
(5)	経費	8
(6)	公募の対象とならない研究計画	8
(7)	応募書類の作成及び提出	9
(8)	応募に関する相談	9
(9)	個人情報の取扱い	9
(10)	審査の方法・着目点等	9
2	各研究種目ごとのルール	10
(1)	特別推進研究	10
①	対象	10
②	応募金額	10
③	研究期間	10
④	採択予定課題数	10
⑤	重複応募の制限	10
	別表1 「特別推進研究」の研究代表者に関する重複応募の制限	12
	別表2 「特別推進研究」の研究分担者に関する重複応募の制限	13
⑥	応募書類の提出	14
⑦	応募等の時期	14
⑧	提出書類	14
(7)	応募情報 (Web入力項目)	14
(4)	応募内容ファイル	14
	別添1-1 電子申請システムを利用した「特別推進研究」の応募の手続	15
(2)	特定領域研究	17
①	新規の研究領域	17
(7)	目的	17
(4)	対象	17
(ウ)	応募金額	17
(エ)	研究期間 (領域設定期間)	17
(オ)	研究領域の構成	17
(カ)	採択予定領域数	18
(キ)	重複応募の制限	18
	別表3 「特定領域研究」の新規の研究領域の研究代表者に関する重複応募の制限	19
	別表4 「特定領域研究」の新規の研究領域の研究分担者に関する重複応募の制限	20
(7)	応募方法	21
	別添1-2 電子申請システムを利用した「特定領域研究 (新規の研究領域)」 の応募の手続	22

②継続の研究領域	27
(7)「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域	27
(a)対象	27
(b)研究領域の設定期間内における応募書類の提出時期	27
(c)応募方法	27
別表5 「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧	28
(4)「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域	29
(a)対象	29
(b)研究領域の設定期間内における応募書類の提出時期	29
(c)応募方法	29
別表6 「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧	30
別添2 特定領域研究の研究概要	32
(4)重複応募の制限	50
別表7 「特定領域研究」の継続の研究領域の研究代表者に関する重複応募の制限	51
別表8 「特定領域研究」の継続の研究領域の研究分担者に関する重複応募の制限	52
③平成18年度に設定期間が終了する研究領域	53
(7)対象	53
(4)応募資格者	53
(7)対象となる経費	53
(1)応募金額	53
(4)重複応募の制限	53
(4)応募方法	53
別表9-1 平成18年度に設定期間が終了する研究領域一覧 (「公募研究」を設けていない研究領域)	54
別表9-2 平成18年度に設定期間が終了する研究領域一覧 (「公募研究」を設けている研究領域)	55
別添1-3 電子申請システムを利用した「特定領域研究(継続の研究領域及び終了研究領域)」 の応募の手続	56
(3)特別研究促進費	58
①突発的に発生した災害等に関する緊急の研究	58
②年複数回応募の試行	58

III 研究機関が行う事務 59

1 応募資格の確認	59
2 研究代表者への確認	59
3 応募に係る手続	59
4 研修会・説明会の実施状況等の報告	59
別紙1 応募書類の取りまとめ等	60
別紙2 応募書類及び提出部数	65

IV 参考資料 66

1 平成18年度科学研究費補助金の交付状況	66
2 予算額等の推移	68
3 平成18年度研究種目一覧	69
4 平成19年度科学研究費補助金 系・分野・分科・細目表	70
5 「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧	72

問合せ先 87

<別冊>

平成19年度科学研究費補助金公募要領（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費）

（応募書類の様式・記入要領）

○研究者が作成する様式

1 特別推進研究

研究計画調書

<前半部分・応募情報（Web入力項目）（画面イメージ）>

応募情報（Web入力項目）画面イメージ

<後半部分・応募内容ファイル（添付ファイル項目）>

様式S-1-1 研究計画調書（新規）

様式S-1-2 研究計画調書（継続）

2 特定領域研究

（1）新規領域

特定領域計画書

<前半部分・応募情報（Web入力項目）（画面イメージ）>

応募情報（Web入力項目）画面イメージ

<後半部分・応募内容ファイル>

様式S-1-3

研究計画調書

<前半部分・応募情報>

応募情報（Web入力項目）画面イメージ

<後半部分・応募内容ファイル（添付ファイル項目）>

様式S-1-4 研究計画調書（計画研究（新規領域））

（2）継続領域及び終了研究領域

研究計画調書

<前半部分・応募情報（Web入力項目）（画面イメージ）>

応募情報（Web入力項目）画面イメージ

<後半部分・応募内容ファイル>

様式S-1-5 研究計画調書（計画研究（継続）、終了研究領域）

様式S-1-6 研究計画調書（公募研究（新規））

様式S-1-7 研究計画調書（計画研究（新規））

3 各種目共通

研究分担者承諾書

様式C-1-1 研究分担者承諾書（他機関用）

様式C-1-2 研究分担者承諾書（同一機関用）

○研究機関が作成する様式

（応募書類関係）

様式T-1-1 応募書類の提出書「特定領域研究」（新規領域）

様式T-1-2 応募書類の提出書

様式T-2-1 研究計画調書の表紙

様式T-3 内部監査等の実施状況報告書の提出書

様式T-4 科学研究費補助金事務担当者名簿

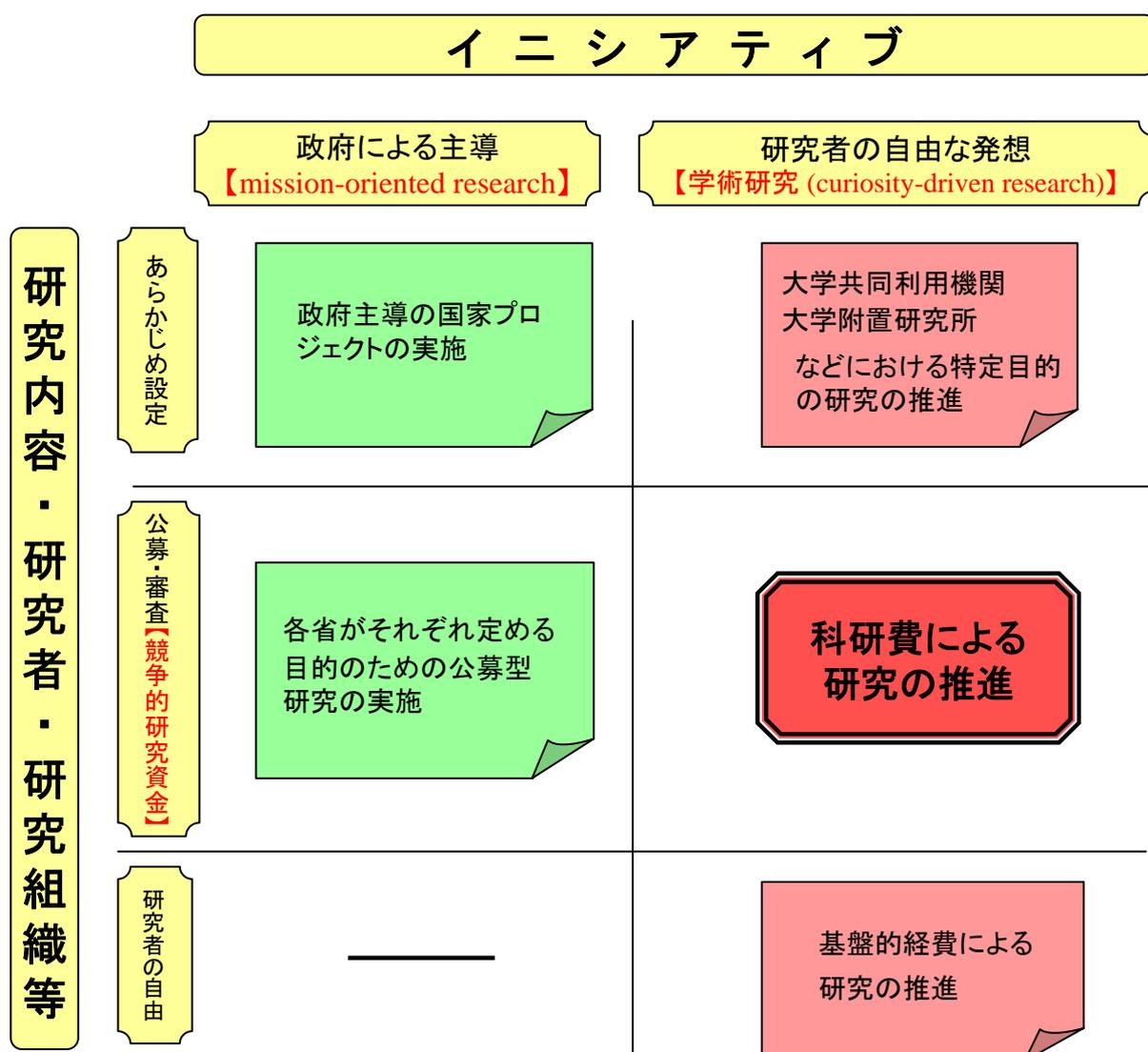
様式T-5 検収（納品検査）の実施体制に関する整備状況報告書

I 公募の概要

1 科学研究費補助金の目的・性格

科学研究費補助金（科研費）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

＜政府による研究推進の分類と「科研費」の位置づけ＞



※ 科研費(1,895億円)は、政府全体の科学技術関係経費(約3.6兆円)の約5%、政府全体の競争的研究資金(約4,700億円)の約40%を占めています

2 研究種目

研究者に補助金が交付され、研究機関が研究者に代わってその管理及び諸手続を行うものは、次の研究種目です。

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
特別推進研究	国際的に高い評価を得ている研究であって、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究 (期間3～5年、1課題5億円程度を目安とするが、制限は設けない)
特定領域研究	我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取組が必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定して機動的かつ効果的に研究の推進を図る (期間3～6年、単年度当たりの目安1領域 2千万円～6億円程度)
基盤研究	1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究 基盤研究 (S) (期間5年、1課題 5,000万円以上1億円程度まで) 1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究 (期間2年～4年) (応募総額によりA・B・Cに区分) (A) 2,000万円以上 5,000万円以下 (B) 500万円以上 2,000万円以下 (C) 500万円以下
萌芽研究	独創的な発想、特に意外性のある着想に基づく芽生え期の研究 (期間1～3年、1課題 500万円以下)
若手研究	37歳以下の研究者が1人で行う研究 (期間2～4年、応募総額によりA・Bに区分) (A) 500万円以上 3,000万円以下 (B) 500万円以下 (スタートアップ)研究機関に採用されたばかりの研究者が1人で行う研究 (期間2年、年間150万円以下)
特別研究促進費	緊急かつ重要な研究課題の助成
特別研究員奨励費	日本学術振興会の特別研究員(外国人特別研究員を含む。)が行う研究の助成 (期間3年以内)
学術創成研究費	科学研究費補助金等による研究のうち特に優れた研究分野に着目し、当該分野の研究を推進する上で特に重要な研究課題を選定し、創造性豊かな学術研究の一層の推進を図る (推薦制 期間5年)

3 文部科学省と独立行政法人日本学術振興会の関係

平成10年度までは、文部省(現文部科学省)においてすべての研究種目の公募・審査・交付業務が行われていましたが、平成11年度から独立行政法人日本学術振興会(以下「日本学術振興会」という。)への移管を開始しており、現在は、将来の完全移管に向けた過渡期にあります。現時点での公募・審査・交付業務は、次のように行われており、今後も徐々に、移管が進められる予定です。

研究種目	応募・審査	交付
	(公募要領の作成主体、応募書類の提出先)	(交付内定・決定通知を行う主体、交付申請書・各種手続書類等の提出先)
第1種科研費(この公募要領により応募を行うもの)		
特別推進研究 特定領域研究 特別研究促進費	文部科学省	文部科学省
第2種科研費		
萌芽研究 若手研究(A・B)	日本学術振興会	文部科学省
第3種科研費		
基盤研究 若手研究(スタートアップ) 特別研究員奨励費 学術創成研究費	日本学術振興会	日本学術振興会

4 文部科学省が公募を行う研究種目のスケジュール

平成18年 9月	特別推進 研究	特定領域研究		特別研究 促進費
		継続の研究領域 終了研究領域	新規の研究領域	
	【各研究機関に公募要領送付】（9月上旬）			
11月	【提出期間】11月13日（月）～16日（木）		【応募者の所属する研究機関の担当者 による確認及び承認期限】11月16日（木） 【特定領域計画書（冊子）提出期間】 11月28日（火）～29日（水）	
平成19年 2月		審査		
3月		↓		
4月	審査	↓	審査	4月以降 ・応募受付 ・審査 ・交付内定 ・交付決定（送金）
5月	↓	交付内定		
6月	交付内定	交付決定		
7月	↓	（送金）	↓	
8月	交付決定（送金）		交付内定	
			↓	
			交付決定（送金）	
			↓	

5 科研費に関するルール

(1) 科研費は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」（昭和30年法律第179号）及び「科学研究費補助金取扱規程」（文部省告示）等の適用を受けるものです。

(2) 科研費には、次の3つのルールがあります。

①応募ルール：応募・申請に関するルール

②評価ルール：事前評価（審査）・中間評価・事後評価に関するルール

③使用ルール：交付された科研費の使用に関するルール

(3) 科研費の3つのルールは、第1種科研費、第2種科研費、第3種科研費ごとに次のように適用されます。

	応募ルール	評価ルール	使用ルール
第1種科研費	文部科学省 公募要領	文部科学省 科学研究費補助金における評価に関する規程	文部科学省 【研究者向け】補助条件 【研究機関向け】科学研究費補助金の使用について各研究機関が行うべき事務等
第2種科研費	日本学術振興会 公募要領	日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤研究等）における審査に関する規程等	日本学術振興会 【研究者向け】補助条件 【研究機関向け】科学研究費補助金の使用について各研究機関が行うべき事務等
第3種科研費	日本学術振興会 公募要領	日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤研究等）における審査に関する規程等	日本学術振興会 【研究者向け】補助条件 【研究機関向け】科学研究費補助金の使用について各研究機関が行うべき事務等

II 公募の内容

1 各研究種目に共通するルール

(1) 応募資格

①応募資格

応募資格は、次のア)～エ)のすべての要件を満たすことです。また、応募時点においてこれら4つの要件をすべて満たしていることが所属する研究機関（注1）において確認されていることが必要です。

<研究者に係る要件>

- ア) 研究機関に、当該研究機関の研究活動を行うことを職務に含む者として、所属する者であること（有給・無給、常勤・非常勤、フルタイム・パートタイムの別を問わない。また、研究活動以外のものを主たる職務とする者も含む。）
- イ) 当該研究機関の研究活動に実際に従事していること（研究の補助は除く。）

<研究機関に係る要件>

- ウ) 補助金が交付された場合に、その研究活動を、当該研究機関の活動として行わせること
- エ) 補助金が交付された場合に、機関として補助金の管理を行うこと

注1. 科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第2条に規定される研究機関

- 1) 大学及び大学共同利用機関
- 2) 文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの
- 3) 高等専門学校
- 4) 文部科学大臣が指定する機関

②応募する研究者（研究代表者）

科研費への応募は、応募資格を有する者が研究代表者（7頁(4)研究組織①参照）となって行ってください。

③複数の研究機関に所属する研究者

複数の研究機関において応募資格を有する場合には、それぞれの研究機関から応募することができます。

④研究者名簿への登録

既に研究者番号を有する研究者であっても、平成19年度科学研究費補助金に応募するためには、平成18年10月20日までに、応募しようとする研究機関がとりまとめる研究者名簿に登録されていなければなりません。平成18年9月2日から11月16日（応募書類提出期限）までの採用・異動予定者についても同様に、当該研究者名簿に登録されていなければなりません。

(2) 補助金の適正な使用等

①補助金の適正な使用

科研費は、国民の貴重な税金等でまかなわれています。科研費の交付を受ける研究者には、法令及び研究者使用ルール（補助条件）にしたがい、これを適正に使用する義務が課せられています。このため、交付申請時には、補助金の不正な使用を行わないことを確認します。

また、科研費の適正な使用に資する観点から、補助金の管理は、研究者が所属する研究機関がこれを行うこととされており、各研究機関が行うべき事務（機関使用ルール）が定められています。採択後にこれらのルールが適用されることを十分にご理解の上、応募してください。

②応募資格の停止（交付対象からの除外）

応募資格を有する研究者であっても、科研費に関する不正な使用を行った研究者等については、ア)からのとおり、一定期間、補助金を交付しないこととしています。なお、これらに該当する研究者については、氏名、研究者番号、交付停止期間を公表することがあります。

ア) 不正な使用等を行った研究者（共謀した者を含む。）の場合（注1）

- ・他の用途への使用を行っていなかった場合には、補助金を返還した年度の翌年度及び翌々年度
- ・他の用途への使用を行っていた場合には、補助金を返還した年度の翌年度から程度に応じて2～5年

注1 科研費以外の競争的資金（他府省所管分を含む）で不正な使用等を行い、一定期間、当該資金の交付対象から除外される研究者についても、ア)に該当する者として取扱います。

イ) 不正な使用等を行った研究者と共同して研究を行っていた研究代表者及び研究分担者の場合 （平成16年度以降交付の科研費に適用）

- ・不正な使用を行った研究者が他の用途への使用を行っていたか否かにかかわらず、補助金を返還した年度の翌年度（新規の研究課題のみ対象）

ウ) 不正に科研費を受給した研究者の場合（共謀した者を含む。）

- ・補助金を返還した年度の翌年度から5年間

③関係法令等に違反した場合の取扱

応募書類に記載した内容が虚偽であったり、関係法令・指針等に違反し、研究計画を実施した場合には、補助金の交付をしないことや、補助金の交付を取り消すことがあります。

(3) 重複応募の制限

- ① 重複応募の制限のルールには、次の3つがあります。
 - ア) 双方の応募研究課題とも審査に付されない。
 - イ) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない。
 - ウ) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択された場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する。
- ② 複数の研究機関において応募資格を有する者が、複数の研究機関からそれぞれ同時に応募する場合であっても、重複応募の制限は、当該応募資格を有する者（研究代表者又は研究分担者）に着目して適用されます。
- ③ 「特別推進研究」、「特定領域研究」及び「特別研究促進費」の応募資格を有する者は、「奨励研究」（注）に応募してはなりません。

注. 「奨励研究」とは、教育・研究機関の職員、企業の職員又はこれら以外の者で科学研究を行っている者が一人で行う研究を対象としています。（公募は、例年、補助金を交付する年度の前年度の11月に日本学術振興会が行います。）
- ④ 日本学術振興会の「特別研究員」及び「外国人特別研究員」は、今回公募する研究種目には応募してはなりません。
- ⑤ 各研究種目ごとの重複応募の制限は、「2 各研究種目ごとのルール」の次の該当頁を参照してください。
 - ・「特別推進研究」： 10頁
 - ・「特定領域研究（新規の研究領域）」： 18頁
 - ・「特定領域研究（継続の研究領域）」： 50頁
 - ・「特別研究促進費」： 58頁
- ⑥ 多数の研究計画に参加することにより、研究代表者又は研究分担者としての責任が果たせなくなることがないようにしてください。
- ⑦ 「競争的研究資金の不合理な重複及び過度の集中の排除等に関する指針」（平成17年9月9日競争的研究資金に関する関係府省連絡会申し合わせ）に基づき、競争的研究資金の不合理な重複又は過度の集中を避けるために必要な範囲で、応募内容について、他府省を含む他の競争的研究資金担当課（独立行政法人である配分機関を含む。）に情報提供する場合があります。また、不合理な重複又は過度の集中が認められた場合には、補助金を交付しないことがあります。

(4) 研究組織

①研究代表者

- ア) 研究代表者は、補助事業者であり、研究計画の遂行（研究成果のとりまとめを含む。）に関してすべての責任を持つ研究者です。

なお、研究期間中に応募資格の喪失、外国出張その他の理由により、研究代表者としての責任を果たせなくなることが見込まれる者は、研究代表者となることを避けてください。
- イ) 研究代表者は、研究計画の性格上、必要があれば研究分担者（②参照）及び研究協力者（③参照）とともに研究組織を構成することができます。
- ウ) 研究代表者は、研究組織を構成する場合には、研究分担者との関係を明らかにするため、当該研究分担者が異なる研究機関に所属する者の場合にあつては「研究分担者承諾書（他機関用）」を、同じ研究機関に所属する者の場合にあつては「研究分担者承諾書（同一機関用）」を必ず徴し、保管しておかなければなりません。

②研究分担者

- ア) 研究分担者は、補助事業者であり、研究代表者と共同して研究計画の遂行に中心的役割を果たすとともに、その遂行について責任を持つ研究者で、応募資格を有する者でなければなりません。

せん。

なお、研究期間中に応募資格の喪失、外国出張その他の理由により、研究分担者としての責任を果たせなくなることが見込まれる者は、研究分担者となることを避けてください。

イ) 研究分担者は、研究代表者と同一の研究機関に所属する者であるか否かを問いません。

③研究協力者

研究協力者は、研究代表者及び研究分担者以外の者で研究計画に随時参加し、その研究への協力をする者です。

(例：日本学術振興会の特別研究員、外国の研究機関に所属する研究者（海外共同研究者）、応募資格を有しない企業の研究者 等)

(5) 経費

① 対象となる経費（直接経費）

研究計画の遂行に必要な経費及び研究成果の取りまとめに必要な経費です。

注. 研究計画のいずれかの年度において、「設備備品費」、「旅費」、又は「謝金等」のいずれかの経費が90%を超える研究計画の場合には、当該経費の研究遂行上の必要性について、研究計画調書に記載しなければなりません。

② 対象とならない経費

次の経費は対象となりません。

ア) 建物等の施設に関する経費（直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付費等のための経費を除く。）

イ) 机、いす、複写機等、研究機関で通常備えるべき物品を購入するための経費

ウ) 補助事業遂行中に発生した事故・災害の処理のための経費

エ) その他、間接経費（注）を使用することが適切な経費

注. 研究計画の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費（直接経費の30%に相当する額）であり、研究代表者が所属する研究機関が使用するものです。

文部科学省が公募を行う研究種目のうち、「特別推進研究」には間接経費が措置されますが、研究代表者は、間接経費を応募書類に記載する必要はありません。

③ 研究分担者に配分する分担金

研究代表者は、異なる研究機関に所属する者を研究分担者として加える研究であって、当該研究分担者に補助金の一部（分担金）を配分しないと研究遂行上大きな支障がある場合には、分担金を配分することができます。

④ 補助金の使用に当たっての留意点

応募に当たっては、研究期間を通じた一連の計画を作成し提出していただきますが、採択後の研究活動は、当該研究期間における各年度ごとの補助事業として取扱いますので、例えば、補助事業の年度と異なる年度の経費の支払に対して科研費を使用することはできません。

なお、当該年度の補助事業が、交付決定時には予想し得なかったやむを得ない事由に基づき、年度内に完了しない見込みとなった場合には、文部科学大臣を通じて財務大臣へ繰越承認要求を行い、財務大臣の承認を得た上で、当該経費を翌年度に繰り越して使用することができます。

(6) 公募の対象とならない研究計画

次の研究計画は公募の対象としていません。

- ① 単に既製の研究機器の購入を目的とする研究計画
- ② 他の経費で措置されるのがふさわしい大型研究装置等の製作を目的とする研究計画
- ③ 商品・役務の開発・販売等を直接の目的とする研究計画（商品・役務の開発・販売等に係る市場動向調査を含む。）
- ④ 業として行う受託研究
- ⑤ 研究期間のいずれかの年度における研究経費の額が10万円未満の研究計画

(7) 応募書類の作成及び提出

各研究種目の応募書類の作成方法は次のとおりです。重複応募の制限の確認及び審査資料の作成は、研究計画調書の応募情報に基づき行うことから、記入漏れ、誤記入、応募書類相互の内容の不一致等により、当該応募研究課題が審査に付されないことや審査の結果に影響することがありますので、作成に当たっては十分注意してください。また、各研究種目に係る研究計画調書等の応募書類を全て提出しなければ、当該応募研究課題は審査に付されないもので、十分注意してください。

研究種目		応募書類の作成方法		
		研究計画調書		特定領域計画書
		前半(※1)	後半(※2)	
特別推進研究		電子申請システムにより「応募情報(Web入力項目)」に入力	電子申請システムにより「応募内容ファイル(添付ファイル項目)」に入力	
特定領域研究	新規の研究領域(※3)	電子申請システムにより「応募情報(Web入力項目)」に入力	電子申請システムにより「応募内容ファイル(添付ファイル項目)」に入力	電子申請システムにより「応募情報(Web入力項目)」に入力し、「応募内容ファイル」の様式をダウンロードし作成するとともに、左記の研究計画調書を綴じ込む
	継続の研究領域 終了研究領域	電子申請システムにより「応募情報(Web入力項目)」に入力するとともに印刷	「応募内容ファイル」の様式をダウンロードし作成	

※1 研究課題名、応募額、等応募研究課題に係る基本データ、研究組織に係るデータ等

※2 研究目的、研究計画・方法等の研究計画の内容に係る事項

※3 「研究計画調書」は、各計画研究の研究代表者が作成してください。また、「特定領域計画書」は、「新規の研究領域」の領域代表者が作成してください。

(8) 応募に関する相談

「特別推進研究」及び「特定領域研究」(新規の研究領域)の応募に関しては、文部科学省の学術調査官(注)(プログラム・オフィサー)に相談をすることができますので、希望者は、文部科学省研究振興局学術研究助成課にお問い合わせください(87頁「問合先」参照)。

注. 学術に関する事項について調査、指導及び助言に当たる大学等の研究者(文部科学省組織規則第53条、第62条)。科学研究費補助金の審査・評価に当たる審査会の議事運営、応募者からの相談への対応、審査結果に係る補足情報の提供等を行う。

(9) 個人情報の取扱等

応募書類に含まれる個人情報は、競争的研究資金の不合理な重複や過度の集中の排除、科学研究費補助金の業務のために利用(データの電算処理及び管理を外部の民間企業に委託して行わせるための個人情報の提供を含む。)する他、「政府研究開発データベース」への入力のため内閣府に提供する予定です。

なお、採択された研究課題については、報道発表資料及び国立情報学研究所のデータベース等により研究課題名、研究代表者氏名、交付予定額等を公開します。

(10) 審査の方法・着目点等

「評価ルール」(「科学研究費補助金における評価に関する規程」(平成14年11月12日科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会決定))を参照してください。

「評価ルール」は、文部科学省のホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)でご覧いただけます。

なお、特定領域研究については、着目点等を一部改正しています。

2 各研究種目ごとのルール

(1) 特別推進研究

① 対象

国際的に高い評価を得ている研究をより一層推進するために、研究費を重点的に交付することにより、格段に優れた研究成果が期待される一人又は比較的少人数の研究者で組織する研究計画

② 応募金額

1 研究課題の応募金額の総額は、5 億円程度までを目安とするが、制限は設けない

③ 研究期間

3～5 年間（左記以外の研究期間の応募は審査に付さない）

④ 採択予定課題数

おおむね十数件程度（極めて厳選されたもの）

⑤ 重複応募の制限

(7) 研究代表者（別表 1 12 頁参照）

(a) 「(7) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合

別表 1 の「×」に該当する場合

(b) 「(1) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない」場合

別表 1 の「△」及び「▲」に該当する場合

(c) 「(4) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択された場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合

別表 1 の「■」に該当する場合

7) 「特別推進研究」の研究代表者は、「特定領域研究」（研究領域の研究期間終了後の研究成果の取りまとめのための研究課題（以下「成果取りまとめ課題」という。）を除く。）、「基盤研究」、「萌芽研究」、「若手研究」及び「学術創成研究費」の研究の実施及び研究への参画を行ってはなりません。

4) 上記「7)」の「特別推進研究」の研究代表者が、次の要件をすべて満たす研究課題の研究代表者である場合には、上記「7)」の取扱にしたがった上で、当該研究課題のそれまでの研究成果を取りまとめ、研究成果報告書等を平成 20 年 6 月 20 日～30 日までの間に提出しなければなりません。

研究代表者は、当該研究課題の研究成果報告書等を作成するための経費を、「特別推進研究」の応募研究課題に含めて応募しなければなりません。

(要件)

- ・ 補助条件により研究期間終了後に研究成果報告書等の提出義務があるもの
- ・ 既に 2 年度分の研究が終了しているもの
- ・ 平成 19 年度が研究期間の最終年度に当たるもの

(d) 重複応募の制限の特例（研究計画最終年度前年度の応募）

7) 「特別推進研究又は基盤研究の研究課題のうち研究期間が 4 年以上のもので、平成 19 年度が研究期間の最終年度に当たる研究課題（継続研究課題）の研究代表者」が、当該研究の進展を踏まえ、研究計画を再構築することを希望する場合には、「研究計画最終年度前年度の応募」として応募することができます。

なお、1 つの継続研究課題を基に、この特例により新たに応募できる研究課題数は、1 件に限ります。

4) 研究計画最終年度前年度の応募により、新たに応募することができる研究種目は、「特別推進研究」、「基盤研究（S）」、「基盤研究（A・B）」（審査区分「一般」又は「海外学術調査」）又は「基盤研究（C）」です。

- り) 研究計画最終年度前年度の応募による新規の応募研究課題と、その基になる継続研究課題との間において、重複応募の制限は適用されません。
ただし、これらの研究課題と、他の応募研究課題（他の継続研究課題を含む）との間においては、重複応募の制限が適用されます。
- え) 当該応募研究課題が採択された場合には、その基となった継続研究課題に係る平成19年度の補助金は交付されませんが、研究代表者は、当該継続研究課題の研究成果報告書等を平成20年6月20日～30日までの間に提出しなければなりません。
研究代表者は、当該研究課題の研究成果報告書等を作成するための経費を、当該応募研究課題に含めて応募しなければなりません。

(イ) 研究分担者（別表2 13頁参照）

- (a) 「(7) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合
別表2の「×」に該当する場合
- (b) 「(4) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない」場合
別表2の「△」及び「▲」に該当する場合
- (c) 「(9) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択された場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合
別表2の「■」に該当する場合

「特別推進研究」の研究代表者に関する重複応募の制限

1. 同一研究者が、研究代表者又は研究分担者として応募できる「特別推進研究」の研究課題は、新規・継続を問わず、1件に限る。
2. 上記「1」に加え、新規に研究代表者として応募しようとする者及び継続の研究代表者（A欄）には、B欄の研究種目との間で、次表の重複応募の制限が課される。

B欄	特別推進研究	特定領域研究										基盤研究										萌芽研究		若手研究			特別研究促進費 (年複数回応募)		学術創成研究費		特別研究員奨励費・奨励研究						
		計画研究										公募研究		S		A				B				C		A							B		スタートアップ		
		総括班		支援班		調整班		その他								一般		海外学術調査		一般		海外学術調査				新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続		
A欄	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	
特別推進研究	新規	代表者	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	継続	代表者	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	

注1. 代表者として応募する「特別推進研究」と、「成果取りまとめ課題」との間で、重複応募の制限は課されない。

注2. 表の見方

- 「×」 : A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されない
- 「△」 : A欄の「特別推進研究」の応募研究課題のみ審査に付される
- 「▲」 : B欄の「特別推進研究」の応募研究課題のみ審査に付される
- 「■」 : A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されるが、A欄の「特別推進研究」の応募研究課題が採択された場合には、B欄の研究課題については次のとおりとする。
 代表者 : 当該研究課題の研究を実施してはならない
 分担者 : 当該研究課題の研究に加わってはならない
- 「ー」 : 公募要領に定めるルールにしたがえば、A欄、B欄の重複応募はあり得ないなど、重複の状況により対応が異なる

「特別推進研究」の研究分担者に関する重複応募の制限

1. 同一研究者が、研究代表者又は研究分担者として応募できる「特別推進研究」の研究課題は、新規・継続を問わず、1件に限る。
2. 上記「1」に加え、新規に研究分担者として応募しようとする者及び継続の研究分担者（A欄）には、B欄の研究種目との間で、次表の重複応募の制限が課される。

B欄 A欄			特別推進研究		特定領域研究																学術創成研究費				特別研究員奨励費 ・ 奨励研究					
					計 画 研 究												公 募 研 究													
			総括班				支援班				調整班				そ の 他				新規		継続		新規		継続					
			新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続		
代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者			
特別推進研究	新規	分担者	×	×	▲	▲	■		■		■		■	■	■	■		■		■	■		■	■	■	■	—	—	—	—
	継続	分担者	△	△	—	—	△		—		△		■	—	—	△		—		△		—		△	■	—	—	—	—	

注1. 分担者として応募する「特別推進研究」と、「成果取りまとめ課題」、「基盤研究」、「萌芽研究」、「若手研究」及び「特別研究促進費（年複数回応募の試行）」との間で、重複応募の制限は課されない。

注2. 表の見方

「空欄」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付される

「×」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されない

「△」：A欄の「特別推進研究」の応募研究課題のみ審査に付される

「▲」：B欄の応募研究課題のみ審査に付される

「■」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されるが、A欄の「特別推進研究」の応募研究課題が採択された場合には、B欄の研究課題については次のとおりとする

代表者：当該研究課題の研究を実施してはならない

分担者：当該研究課題の研究に加わってはならない

「—」：公募要領に定めるルールにしたがえば、A欄、B欄の重複応募はあり得ないなど、重複の状況により対応が異なる

⑥ 応募書類の提出

新規・継続ともに、毎年度、応募書類を提出してください。

平成18年度の交付内定通知において、平成19年度以降の交付予定額を通知している研究課題であっても、次の「⑦応募等の時期」及び「⑧提出書類」による応募がなければ、平成19年度以降の交付予定を取り消します。

応募書類は、日本学術振興会の「電子申請システム」(<http://www.shinsei.jsps.go.jp/>) を利用し、応募しようとする研究代表者の所属研究機関を通して提出してください。「電子申請システム」を利用した応募の手続方法等については別添1-1(15、16頁)を参照してください。

⑦ 応募等の時期

特別推進研究に係る応募に係る日程は以下のとおりです。研究代表者は、所属する研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めてください。

平成18年 8月下旬～	必要に応じ、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書」及び「ID・パスワード」を発行
9月上旬 ～11月中旬	各研究機関から研究者へ「ID・パスワード」を発行
9月上旬～	各研究者による研究計画調書の作成 (応募内容ファイル(添付ファイル項目)の様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得することができます。)

11月16日(木) 研究計画調書等の応募内容の承認処理の締め切り(応募締め切り)

⑧ 提出書類

研究計画調書は、応募情報(Web入力項目)と応募内容ファイル(添付ファイル項目)で構成されていますので、作成に当たっては注意してください。

なお、応募内容ファイルの添付ファイルはワード形式またはPDF形式によるものに限りません。

(ア) 応募情報(Web入力項目)

- ・ 研究課題名等応募研究課題に係る基本データ
- ・ 研究組織に係るデータ 等

(イ) 応募内容ファイル(添付ファイル項目)

- ・ 研究目的、研究計画等(新規研究課題と継続研究課題で入力項目が異なりますので注意してください。)

電子申請システムを利用した「特別推進研究」の応募の手続

「特別推進研究」については、日本学術振興会電子申請システム（以下「電子申請システム」という。）により応募してください。

「電子申請システム」を利用するに際しては、以下の手続が必要となります。

(1) 研究機関が行う事前手続

- ① 応募を予定している研究者がいるが、研究機関用の電子証明書及びID・パスワードを有していない場合は、「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」と返信用封筒（「A4」3枚が入る返送先が記載されているもの）を同封のうえ、日本学術振興会システム管理課に提出（提出された依頼書に基づき、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書及びID・パスワード」を送付します。）してください。
 - ※1. 既に電子証明書及びID・パスワードを取得している研究機関は、再度発行依頼書を提出する必要はありません。
 - ※2. 科学研究費補助金の各研究種目毎に電子証明書及びID・パスワードを取得する必要はありません。
 - ※3. 「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」の様式は、「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jps.go.jp/>）から取得してください。
- ② 研究機関用の電子証明書及びID・パスワードを取得後、研究代表者として応募を予定している研究者に対し、研究機関においてID・パスワードを付与してください。

なお、研究機関が研究者に対しID・パスワードを付与する時点で、当該研究者が、研究機関の研究者名簿に登録されていることが必要です。

一度付与されたID・パスワードは研究機関を異動しない限り使用可能です。（パスワードを変更した場合を除く。）

(2) 研究者が行う手続

- ① 「特別推進研究」に研究代表者として応募する研究者は、所属する研究機関から付与されたID・パスワードで日本学術振興会の「電子申請システム」にアクセス（<http://www-shinsei.jps.go.jp/>）し、応募情報（Web入力項目）を入力するとともに、事前に作成した応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付することにより、研究計画調書（PDFファイル）を作成してください。
 - ※ 応募内容ファイル（添付ファイル項目）の様式はID・パスワードの取得前でも文部科学省の科学研究費補助金ホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm）から取得することができます。
- ② 作成した研究計画調書（PDFファイル）の内容に不備がなければ、完了処理を行うことで所属する研究機関に研究計画調書を提出したことになります。

(3) 研究機関が行う手続

- ① 電子申請システムホームページにアクセスし、研究代表者が作成した研究計画調書の情報を取得し、その内容等について確認してください。
- ② 内容等に不備のないすべての研究計画調書について承認処理を行ってください。

研究機関による承認がなされた研究計画調書のみ、「電子申請システム」により提出（送信）されたこととなります。研究機関により承認された研究計画調書については、その内容について承認後に変更することはできません。

また、本システムで使用する電子証明書やID・パスワードについては研究機関や個人を確認するものであることから、その取扱、管理についても十分留意の上、応募の手続きを行ってください。

なお、電子申請についての詳細は、電子申請システムホームページ「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jps.go.jp/>）をご参照ください。

問合せ先

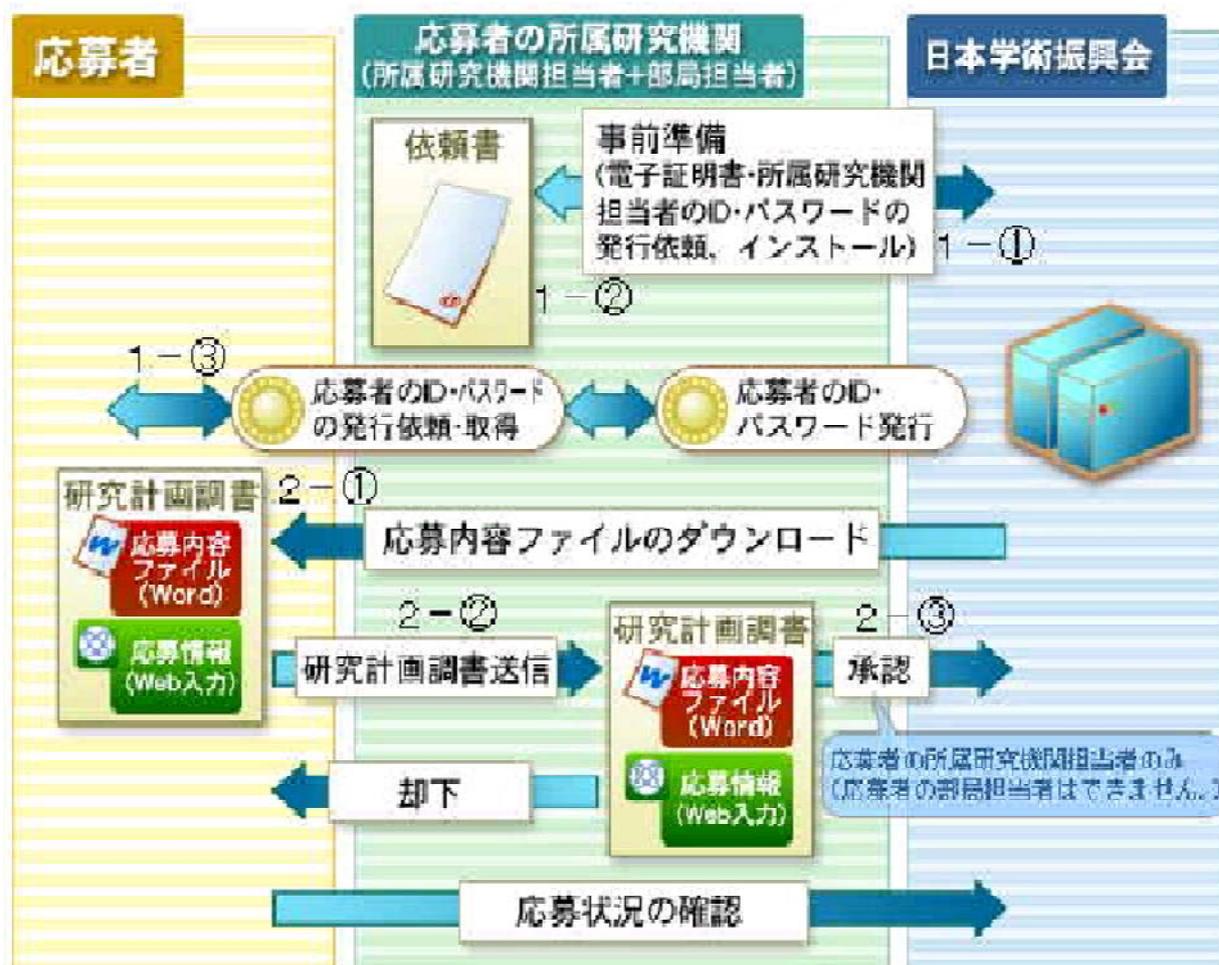
電子申請システムの利用に関すること：日本学術振興会総務部システム管理課

電話 コールセンター 0120-556739（フリーダイヤル）、03-3263-1902, 1913

公募の内容に関すること：文部科学省研究振興局学術研究助成課 電話 03-5253-4111（内線4095）

（公募に関するお問い合わせは研究機関を通じて行ってください）

電子申請手続きの概要（特別推進研究）



【応募者（研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 1-① 必要に応じ、応募者の所属研究機関担当者は、電子証明書（通信するために必要なデータ）の発行申請依頼を、郵送にて日本学術振興会システム管理課宛送付する。
- 1-② 日本学術振興会から応募者の所属研究機関に電子証明書とID・パスワードを発行し、郵送する。（8月下旬～）
- 1-③ 応募者の所属研究機関担当者は、応募者にID・パスワードを発行する。

【応募者（研究代表者）】

- 2-① 応募者は受領したID・パスワードで「電子申請システム」にアクセスし、応募情報（Web入力項目）を入力、応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付することで、研究計画調書（PDFファイル）を作成する。
- 2-② 応募者が作成した研究計画調書に不備が無ければ、完了操作を行うことで所属研究機関担当者に研究計画調書を提出したことになる。

【応募者（研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 2-③ 応募者の所属研究機関担当者が承認することで、研究計画調書は日本学術振興会に提出（送信）される。

※ 詳細は電子申請システムホームページ（<http://www-shinsei.jps.go.jp/>）内から「操作手引」をダウンロードしてください。

(2) 特定領域研究

①新規の研究領域

(7) 目的

我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取り組みが必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定して、一定期間、研究の進展等に応じて機動的に推進し、当該研究領域の研究を格段に発展させること

(4) 対象

学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取り組みが必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域で、次のような特性を持つもの

- (a) その領域全体の学術的水準が高く、研究の格段の発展が期待できる研究領域
- (b) 研究の発展段階の観点からみて成長期にあり、研究の一層の発展が期待される研究領域
- (c) 学術の整合性ある発展の観点からみて重要であるが立ち遅れており、その進展に特別の配慮を必要とする研究領域
- (d) その領域の研究の発展が他の研究領域の研究の発展に大きな波及効果をもたらす等、学術研究における先導的又は基盤的意義を有する研究領域
- (e) 社会的諸課題の解決に密接な関連を有しており、これらの解決を図るため、その研究成果に対する社会的要請の高い研究領域

(7) 応募金額

1 研究領域の応募金額の総額に制限は設けないが、応募金額の目安は、次のとおり

- (a) 比較的大規模グループにより研究の推進を図るもの…単年度当たり2億円から6億円程度
- (b) 機動的な中規模グループにより研究の推進を図るもの…単年度当たり2千万円から2億円程度

(E) 研究期間（領域設定期間）

3～6年（左記以外の研究期間の応募は審査に付さない）

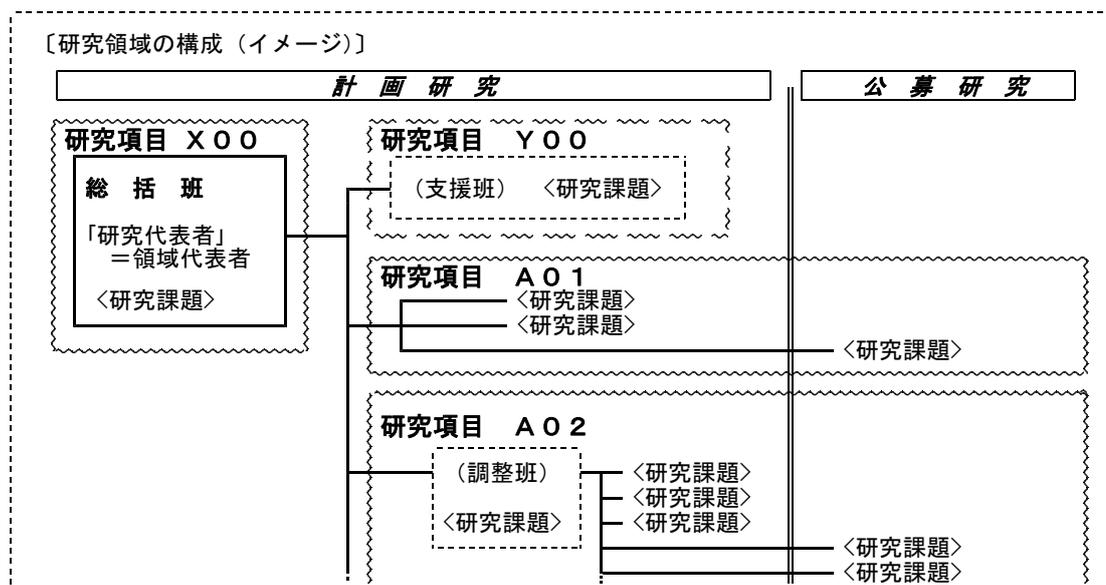
(オ) 研究領域の構成

「特定領域研究」の研究領域を構成する研究課題の種別は、次のとおりです。

区分	内容
計画研究	研究領域の研究を最も効果的に進めるため、領域代表者（「総括班」の研究代表者）が、あらかじめ当該研究を行う者を組織し、計画的に進める研究（総括班、支援班及び調整班による計画を含む）
総括班	研究領域の全体的な研究方針の策定、各研究項目の企画調整等を行う組織（実際の研究を行ってはならない） 組織の構成員は、①研究代表者（＝当該研究領域の領域代表者）、②研究分担者（＝当該研究領域の「計画研究」の研究代表者のみで構成）、③研究協力者（＝当該研究領域の事務的業務を担当する応募資格を有する者及び当該研究領域の評価担当者）に限る。
支援班	研究領域の研究支援活動（研究領域内で共用するための設備・装置の購入・開発・運用、実験試料・資材の提供など）を、効率的かつ効果的に行うため、必要がある場合にのみ設ける組織（実際の研究を行ってはならない） なお、「支援班」の研究代表者は、必ず「総括班」の研究分担者にならなければならない。
調整班	研究領域に総括班・支援班以外に複数の研究項目を設けた場合に、当該研究項目内の各「計画研究」及び「公募研究」の連絡調整等を行うため、必要がある場合にのみ設ける組織（実際の研究を行ってはならない） 組織の構成員は、当該研究項目の「計画研究」の研究代表者に限る。
公募研究	一人又は少数の研究者が、研究領域の「計画研究」と併せて当該研究領域の研究を一層推進するために行う研究であり、当該研究領域の設定後に公募する。

注1. 研究領域には、必ず「総括班」を1つ設けなければならない。（「総括班」を設けていない場合には、応募研究領域は審査に付さない）

2. 「計画研究」（「支援班」、「調整班」を含む）及び「公募研究」を適宜必要に応じ設け、
適当数の研究項目を設けることができる。
3. 調整班は、研究項目内に複数の研究課題がある場合に、研究項目毎に1つのみ設けるこ
とができる。



(カ) 採択予定領域数

おおむね20領域程度（極めて厳選されたもの）

(キ) 重複応募の制限

(a) 研究代表者（別表3 19頁参照）

ア) 「(ア) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合

別表3の「×」に該当する場合

イ) 「(イ) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない」場合

別表3の「▲」に該当する場合

ウ) 「(ウ) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択された場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合

別表3の「□」及び「■」に該当する場合

エ) 重複応募の制限の特例（研究領域最終年度前年度の応募）

「平成19年度が研究領域の研究期間の最終年度に当たる研究領域の計画研究の研究代表者が、当該研究領域の推進を踏まえ、研究領域を再構築することを希望する場合には、別表3の重複応募の制限にかかわらず、「研究領域最終年度前年度の応募」として応募することができます。（領域代表者は、応募する研究領域の平成19年度分は総括班のみ設定し、総括班以外の計画研究は平成20年度から設定してください。）

なお、これ以外の場合は、別表3の重複応募の制限が適用されます。

(b) 研究分担者（別表4 20頁参照）

ア) 「(ア) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合

別表4の「×」に該当する場合

イ) 「(イ) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択された場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合

別表4の「□」に該当する場合

(7) 応募方法

(a) 応募等の時期

「領域代表者」は、研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めて下さい。

「計画研究の研究代表者」(総括班、調整班、支援班の計画研究の代表者を含む。)は、領域代表者から伝達される研究計画調書の提出スケジュール、研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めてください。

時 期	領域代表者	計画研究の研究代表者
8月下旬～	必要に応じ、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書」及び「ID・パスワード」を発行	
9月上旬	・日本学術振興会から「仮領域番号」を発行 ・計画研究の研究代表者に「仮領域番号」と研究計画調書の提出(送信)スケジュールを伝達	・領域代表者に「仮領域番号」及び計画研究の研究計画調書の提出(送信)スケジュールを確認
9月上旬～	・各研究機関から研究者へ「ID・パスワード」を発行(11月中旬まで)	
9月上旬～	・「特定領域計画書」(冊子)の作成(応募情報(Web入力項目)の入力、応募内容ファイルの作成、各計画研究の研究計画調書の確定及び取りまとめ) ・応募内容ファイルの様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得できます。	・各研究者による研究計画調書の作成(応募情報のWeb入力及び応募内容ファイルの作成) ・応募内容ファイルの様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得できます。
11月16日(木)	・応募情報(Web入力項目(PDFファイル))及び各計画研究の研究計画調書(PDFファイル)の提出(承認処理)の締め切り	・11月16日(木)より前の日で領域代表者から伝達された日までに、研究計画調書を提出
11月29日(水)	・「特定領域計画書」(冊子)の提出締め切り	—————

(b) 応募書類

応募書類	提出部数
・特定領域計画書 (様式S-1-3, S-1-4を含む冊子)	70部(正本1部・副本69部)
・様式S-1-4 研究計画調書	「特定領域計画書」(冊子)に綴じる

注1. 領域代表者が作成する「特定領域計画書」(冊子)は、①応募情報(Web入力項目)、②様式S-1-3の応募内容ファイル(応募内容ファイルはダウンロードして作成)及び③様式S-1-4の研究計画調書(注2)で構成されていますので、作成に当たっては注意してください。「電子申請システム」を利用した応募情報の入手方法等については、別添1-2(22～26頁)を参照してください。

「特定領域計画書」(冊子)には、領域代表者及び領域代表者の所属研究機関が確定・承認した研究計画調書(研究代表者の所属研究機関で確認処理されたもの。23頁参照)を綴じ、正本には表紙の右上に「正」と記入してください。

なお、領域代表者及び領域代表者の所属研究機関が確定・承認していない研究計画調書は審査に付されません。

注2. 計画研究の研究代表者が作成する研究計画調書(様式S-1-4)は、別途、応募情報(Web入力項目)(※1)と応募内容ファイル(添付ファイル項目)(※2)で構成されていますので、作成に当たっては注意してください。領域代表者及び領域代表者の所属研究機関が確定・承認していない研究計画調書は審査に付されません。

応募内容ファイルの添付ファイルはワード形式またはPDF形式によるものに限ります。

※1 応募情報(Web入力項目)・・・研究課題名等応募研究課題に係る基本データ、研究組織に係るデータ等

※2 応募内容ファイル(添付ファイル項目)・・・研究目的、研究計画等

(c) 提出期間

領域代表者は、所属する研究機関が指定する期日までに、応募書類を取りまとめ、所属する研究機関に提出して下さい。(各研究機関から文部科学省への提出期間は、62頁を参照して下さい。)

電子申請システムを利用した「特定領域研究（新規の研究領域）」の応募の手続

「特定領域研究（新規の研究領域）」については、特定領域計画書（冊子）に綴じ込む応募情報（Web入力項目）及び研究計画調書を日本学術振興会電子申請システム（以下「電子申請システム」という。）により提出してください。

「電子申請システム」を利用するに際しては、以下の手続が必要となります。

（１） 研究機関が行う事前手続

- ① 応募を予定している研究者がいるが、研究機関用の電子証明書及びID・パスワードを有していない場合は、「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」を返信用封筒（「A4」3枚が入る返送先が記載されているもの）を同封のうえ、日本学術振興会システム管理課に提出（提出された依頼書に基づき、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書及びID・パスワード」を送付します。）してください。
 - ※ 1. 既に電子証明書及びID・パスワードを取得している研究機関は、再度発行依頼書を提出する必要はありません。
 - ※ 2. 科学研究費補助金の各研究種目毎に電子証明書及びID・パスワードを取得する必要はありません。
 - ※ 3. 「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」の様式は、「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jpsps.go.jp/>）から取得してください。
- ② 研究機関用の電子証明書及びID・パスワードを取得後、領域代表者、計画研究の研究代表者として応募を予定している研究者に対し、研究機関においてID・パスワードを付与してください。なお、研究機関が研究者に対しID・パスワードを付与する時点で、当該研究者が、研究機関の研究者名簿に登録されていることが必要です。一度付与されたID・パスワードは研究機関を異動しない限り使用可能です。（パスワードを変更した場合を除く。）

（２） 領域代表者が行う事前手続

「特定領域研究（新規の研究領域）」に応募する領域代表者は、所属する研究機関から付与されたID・パスワードで日本学術振興会の「電子申請システム」にアクセス（<http://www-shinsei.jpsps.go.jp/>）し、仮領域番号発行情報を入力し「仮領域番号」を取得するとともに、計画研究の研究代表者となる者に「仮領域番号」及び領域代表者への研究計画調書の提出スケジュールを伝達してください。

（３） 計画研究の研究代表者が行う手続

- ① 「特定領域研究（新規の研究領域）」に応募する計画研究の研究代表者は、所属する研究機関から付与されたID・パスワードで日本学術振興会の「電子申請システム」にアクセス（<http://www-shinsei.jpsps.go.jp/>）し、応募情報（Web入力項目）を入力するとともに、事前に作成した応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付することにより、研究計画調書（PDFファイル）を作成してください。
 - ※ 応募内容ファイル（添付ファイル項目）の様式はID・パスワードの取得前でも文部科学省の科学研究費補助金ホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm）から取得することができます。
- ② 作成した研究計画調書（PDFファイル）の内容に不備がなければ、完了処理を行うことで所属する研究機関に研究計画調書を提出したことになります。

（４） 計画研究の研究代表者が所属する研究機関が行う手続

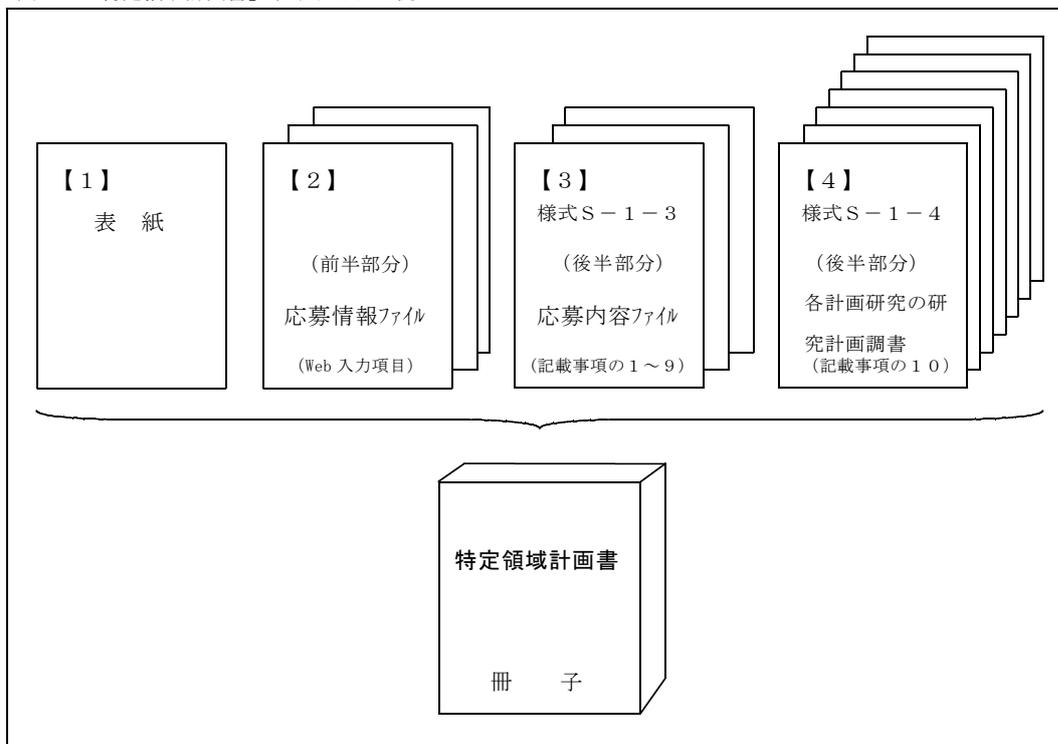
- ① 電子申請システムホームページにアクセスし、計画研究の研究代表者が作成した研究計画調書の情報を取得し、その内容等について確認してください。

- ② 内容等に不備のない研究計画調書について確認処理を行ってください。
 研究機関による確認がなされた研究計画調書のみ、「電子申請システム」により領域代表者に提出（送信）されたこととなります。研究機関により確認された研究計画調書の内容については、領域代表者が却下した場合を除き、確認後に変更することはできません。
 また、本システムで使用する電子証明書やID・パスワードについては研究機関や個人を確認するものであることから、その取扱、管理についても十分留意の上、応募の手続きを行ってください。
 なお、電子申請についての詳細は、電子申請システムホームページ「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jspss.go.jp/>）をご参照ください。

（５）領域代表者が行う手続

- ① 「特定領域研究（新規の研究領域）」に応募する領域代表者は、所属する研究機関から付与されたID・パスワードで日本学術振興会の「電子申請システム」にアクセス（<http://www-shinsei.jspss.go.jp/>）し、計画研究の研究代表者から提出された研究計画調書（PDFファイル）の内容等について確認してください。
- ② 内容等に不備のない各研究計画の研究計画調書（PDFファイル）について確定処理を行ってください。「研究領域最終年度前年度に応募」の場合には、総括班を除く計画研究の初年度の費目について、全ての金額欄が「0」となっていることを必ず確認の上、確定処理を行ってください。
- ③ 「電子申請システム」にアクセスし、応募情報（Web入力項目）を入力し、応募情報（Web入力項目（PDFファイル））を作成してください。
- ④ 作成した応募情報（Web入力項目（PDFファイル））の内容に不備がなければ、完了処理を行うことで所属する研究機関に応募情報（Web入力項目（PDFファイル））及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）を提出したことになります。
- ⑤ 電子申請システムにより、特定領域計画書の表紙（PDFファイル）を出力し、片面で印刷してください。（図1【1】）
- ⑥ 電子申請システムにより、領域代表者が所属する研究機関が承認した特定領域計画書の前半部分（「応募情報ファイル」（Web入力項目（PDFファイル）））を出力し、両面で印刷してください。（図1【2】）
- ⑦ 特定領域計画書の後半部分（様式S-1-3）の1～9までの記載事項を、文部科学省の科学研究費補助金ホームページから取得したWordファイル様式に記述し、両面で印刷してください。（図1【3】）
- ⑧ 「（4）計画研究の研究代表者が所属する研究機関が行う手続」の確認処理を終え、領域代表者が確定した各計画研究の研究計画調書（様式S-1-4）について、特定領域計画書の研究組織に記載された順番に整理してください。（図1【4】）
- ⑨ 上記⑤～⑧の順番で取りまとめて冊子体にし、所属する研究機関に提出してください。（図1参照）

図1 「特定領域計画書」取りまとめの例



(6) 領域代表者が所属する研究機関が行う手続

- ① 電子申請システムホームページにアクセスし、領域代表者が作成した応募情報（Web入力項目（PDFファイル））（図1【2】）及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）（図1【4】）の情報を取得し、その内容等について確認してください。
- ② 内容等に不備のないすべての応募情報（Web入力項目（PDFファイル））（図1【2】）について承認処理を行ってください。

応募情報（Web入力項目（PDFファイル））（図1【2】）について、研究機関による承認がなされた場合のみ、「電子申請システム」により応募情報（Web入力項目（PDFファイル））（図1【2】）及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）（図1【4】）が提出（送信）されたこととなります。研究機関により承認された応募情報（Web入力項目（PDFファイル））及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）については、その内容について承認後に変更することはできません。

また、本システムで使用する電子証明書やID・パスワードについては研究機関や個人を確認するものであることから、その取扱、管理についても十分留意の上、応募の手続きを行ってください。

なお、電子申請についての詳細は、電子申請システムホームページ「電子申請のご案内」（<http://www.shinsei.jstps.go.jp/>）をご参照ください。

- ③ 「(5) 領域代表者が行う手続」⑨により、領域代表者から特定領域計画書（冊子）が提出された場合には、内容等に不備がないか確認し、電子申請システムにより出力（印刷）した表紙（様式T-1-1）を添付して、特定領域計画書（冊子）を文部科学省へ提出してください。

問合せ先

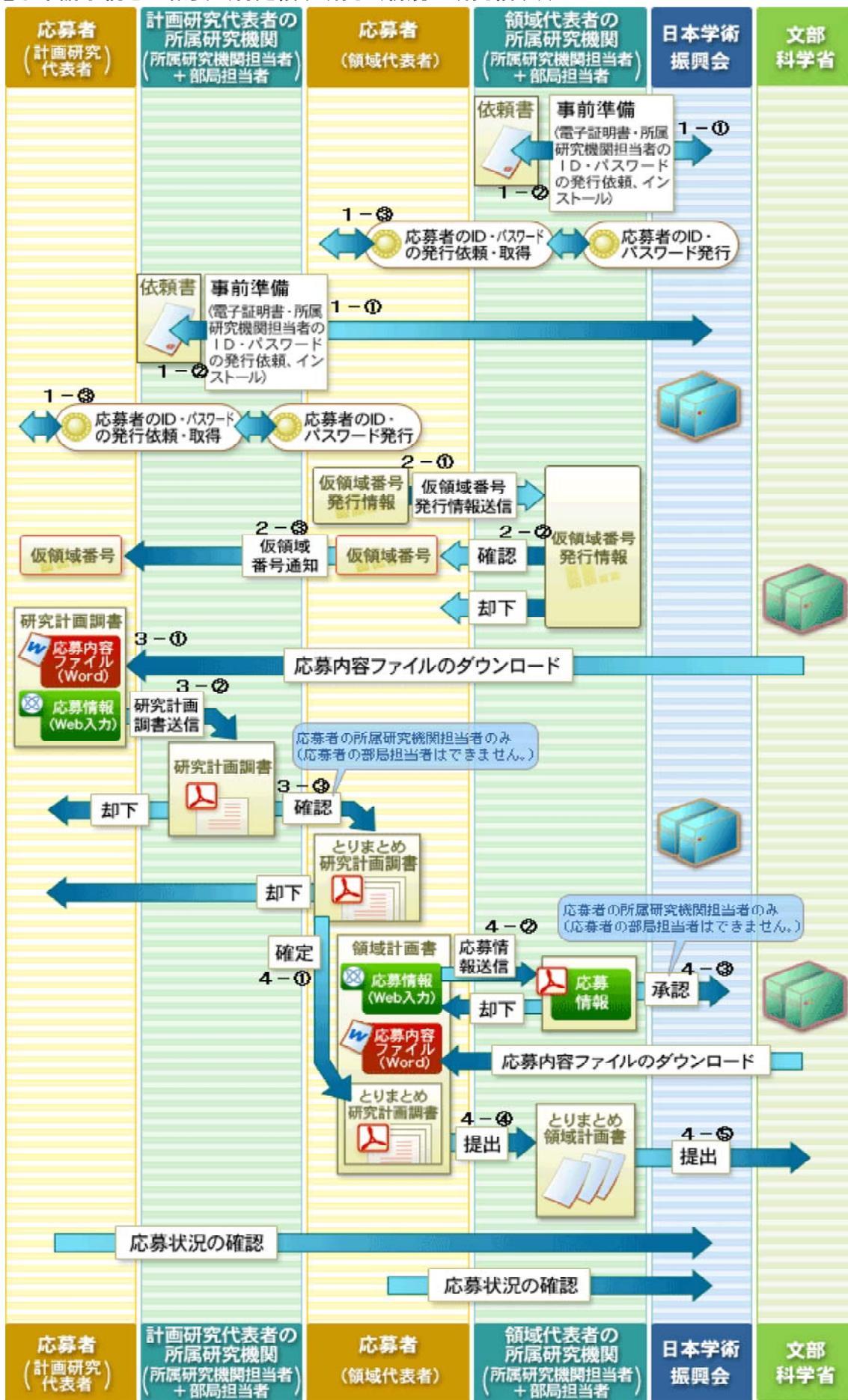
電子申請システムの利用に関すること：日本学術振興会総務部システム管理課

電話 コールセンター 0120-556739(フリーダイヤル)、03-3263-1902, 1913

公募の内容に関すること：文部科学省研究振興局学術研究助成課 電話 03-5253-4111 (内線4087)

(公募に関するお問い合わせは研究機関を通じて行ってください)

電子申請手続きの概要（特定領域研究（新規の研究領域））



【応募者（領域代表者・計画研究の研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 1-① 応募者の所属研究機関担当者は、電子証明書（通信するために必要なデータ）の発行申請依頼を、郵送にて日本学術振興会システム管理課宛送付する。
- 1-② 日本学術振興会から応募者の所属研究機関に電子証明書とID・パスワードを発行し、郵送する。（8月下旬～）
- 1-③ 応募者の所属研究機関担当者は、応募者にID・パスワードを発行する。

【応募者（領域代表者）】

- 2-① 応募者は受領したID・パスワードで「電子申請システム」にアクセスし、仮領域番号発行情報を入力する。

【応募者（領域代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 2-② 応募者の所属研究機関担当者は、応募者からの仮領域番号発行情報を確認する。

【応募者（領域代表者）】

- 2-③ 応募者は受領した仮領域番号及び領域代表者への研究計画調書の提出スケジュールを計画研究の研究代表者に伝達する。

【応募者（計画研究の研究代表者）】

- 3-① 応募者は受領したID・パスワードで「電子申請システム」にアクセスし、応募情報（Web入力項目）を入力、応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付することで、研究計画調書（PDFファイル）を作成する。
- 3-② 応募者が作成した研究計画調書（PDFファイル）に不備が無ければ、完了操作を行うことで所属研究機関担当者に研究計画調書を提出したことになる。

【応募者（計画研究の研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 3-③ 応募者の所属研究機関担当者が確認することで、研究計画調書（PDFファイル）は領域代表者に提出（送信）される。

【応募者（領域代表者）】

- 4-① 計画研究の研究代表者から提出された各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）の内容等について確認し、不備が無ければ、確定処理を行う。
- 4-② 「電子申請システム」にアクセスし、応募情報（Web入力項目）を入力し、応募情報（Web入力項目（PDFファイル））を作成する。作成した応募情報（Web入力項目（PDFファイル））に不備が無ければ、完了処理を行うことで所属研究機関担当者に応募情報（Web入力項目（PDFファイル））及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）を提出したことになる。

【応募者（領域代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 4-③ 応募者の所属研究機関担当者が承認することで、応募情報（Web入力項目（PDFファイル））及び各計画研究の研究計画調書（PDFファイル）は日本学術振興会に提出（送信）される。

【応募者（領域代表者）】

- 4-④ 特定領域計画書（冊子）を作成し、所属する研究機関に提出する。

【応募者（領域代表者）の所属する研究機関担当者】

- 4-⑤ 特定領域計画書（冊子）を文部科学省に提出する。

※ 詳細は電子申請システムホームページ (<http://www-shinsei.jps.go.jp/>) 内から「操作手引」をダウンロードしてご覧ください。

②継続の研究領域

(7)「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域

(a)対象

平成15年度から平成18年度の間研究を開始した研究領域のうち、別表5(28頁)で示す19の研究領域に係る「計画研究」(注)の研究課題

注。「(2)①新規の研究領域 (a)研究領域の構成」(17頁)を参照。

(b)研究領域の設定期間内における応募書類の提出時期

研究領域の 設定期間	研究領域の設定期間内の年度				
	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
4年間	—	○	—	—	—
5年間	—	—	○	—	—
6年間	—	○	—	○	—

注1。「○」を付した時期に応募書類を提出する。

2.「計画研究」については、当該研究領域の設定期間終了までの交付予定額を通知するが、上記「注1.」に示す提出時期に応募がなければ、平成19年度以降の交付予定を取り消す。

3.「○」を付していない時期に応募書類を提出する研究領域は、「研究計画の大幅な変更を行う場合」に限る。研究計画の大幅な変更を行う場合には、予め当該研究領域の領域代表者の了解を得た上で応募すること。

(c)応募方法

7)応募等の時期

研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めてください。

8月下旬～ 必要に応じ、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書」及び「ID・パスワード」を発行

9月上旬～11月中旬 各研究機関から研究者へ「ID・パスワード」を発行

9月上旬～ 各研究者による研究計画調書の作成(応募情報のWeb入力及び応募内容ファイルの作成)

応募内容ファイルの様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得できます。

11月16日(木) 応募締め切り

1)応募書類

応募書類	提出部数
・様式S-1-5 研究計画調書(計画研究(継続))	13部

注1. 継続の研究領域に、新規の研究課題を応募する場合には、予め当該研究領域の領域代表者を通じて文部科学省研究振興局学術研究助成課の了解を得た上で、「様式S-1-7」を使用して応募すること。

注2. 研究計画調書の前半部分は、応募情報(Web入力項目)(※1)を出力(印刷)して使用してください。「電子申請システム」を利用した応募情報の入力方法等については、別添1-3(56、57頁)を参照してください。

※1 応募情報(Web入力項目)…研究課題名等応募研究課題に係る基本データ、研究組織に係るデータ等

注3. 研究計画調書の後半部分は、応募内容ファイル(※2)をダウンロードして作成してください。

※2 応募内容ファイル…研究目的、研究計画・方法等の研究計画の内容に係る事項

2)提出期間

研究代表者は、所属する研究機関が指定する期日までに、当該研究機関に応募書類を提出してください(各研究機関から文部科学省への提出期間は、63頁を参照してください。)

「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期にあたる研究領域一覧（19研究領域）

領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間
431	最高エネルギー宇宙線の起源－デカジュール粒子による宇宙物理の開拓－	最高宇宙線	平成15年度～平成20年度
435	スタグナントスラブ：マントルダイナミクスの新展開	地球深部スラブ	平成16年度～平成20年度
436	異常量子物質の創製－新しい物理を生む新物質－	異常量子物質	平成16年度～平成20年度
437	太陽系外惑星科学の展開	系外惑星	平成16年度～平成20年度
438	ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ研究	アクチュエータ	平成16年度～平成20年度
439	高温ナノイオニクスを基盤とするヘテロ界面制御フロンティア	ナノイオニクス	平成16年度～平成20年度
440	希土類系物質のパノスコピック形態制御と高次機能設計	希土類形態制御	平成16年度～平成20年度
443	次世代量子シミュレータ・量子デザイン手法の開発	量子デザイン	平成17年度～平成20年度
444	炭素資源の高度分子変換	高度分子変換	平成17年度～平成20年度
445	生体分子群デジタル精密計測に基づいた細胞機能解析：ライフサーベイヤをめざして	ライフサーベイヤ	平成17年度～平成20年度
446	次世代共役ポリマーの超階層制御と革新機能	超階層制御	平成17年度～平成20年度
447	新世代光通信へのイノベーション－革新的な光デバイスを基点として－	新世代光通信	平成17年度～平成20年度
456	情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究	情報爆発IT基盤	平成17年度～平成22年度
508	生命秩序の膜インターフェイスを制御するソフトな分子間相互作用	膜インターフェイス	平成15年度～平成20年度
509	生体ナノシステムの制御	生体ナノシステム	平成16年度～平成20年度
510	細胞核ダイナミクス	核ダイナミクス	平成16年度～平成20年度
511	植物の環境適応戦略としてのオルガネラ分化	オルガネラ分化	平成16年度～平成20年度
512	性分化機構の解明	性分化	平成16年度～平成20年度
607	法化社会における紛争処理と民事司法	民事紛争全国調査	平成15年度～平成20年度

(イ)「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域

(a) 対象

平成15年度から平成18年度の間、研究を開始した研究領域のうち、別表6(30、31頁)で示す35の研究領域に係る「公募研究」(注)の研究課題

注. 「公募研究」とは、研究領域の「計画研究」と併せて当該研究領域の研究を一層推進するために行うことが必要と認められた研究であり、当該研究領域が研究を開始した後、公募する。「(2)①新規の研究領域 (オ) 研究領域の構成」(17頁)を参照。

(b) 研究領域の設定期間内における応募書類の提出時期

研究領域の設定期間	研究領域の設定期間内の年度				
	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
3年間	○	—	/	/	/
4年間	○	○	—	/	/
5年間	○	—	○	—	/
6年間	○	○	—	○	—

注1. 「○」を付した時期に応募書類を提出する。

- 別表6「研究領域一覧」及び別添2「特定領域研究の研究概要」(32～49頁)において、公募研究の期間が「2年間」となっている研究領域においては、研究期間が1年間の応募研究課題は審査に付さない。
- 「○」を付していない時期に応募書類を提出する研究領域は、「研究計画の大幅な変更を行う場合」に限る。「研究計画の大幅な変更を行う場合」には、予め当該研究領域代表者の了解を得た上で応募すること。

(c) 応募方法

ア) 応募等の時期

研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めてください。

8月下旬～ 必要に応じ、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書」及び「ID・パスワード」を発行

9月上旬～11月中旬 各研究機関から研究者へ「ID・パスワード」を発行

9月上旬～ 各研究者による研究計画調書の作成(応募情報のWeb入力及び応募内容ファイルの作成)

応募内容ファイルの様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得できます。

11月16日(木) 応募締め切り

イ) 応募書類

応募書類	提出部数
・様式S-1-6 研究計画調書(公募研究)	13部

注1. 研究計画調書の前半部分は、応募情報(Web入力項目)(※1)を出力(印刷)して使用してください。「電子申請システム」を利用した応募情報の入力方法等については、別添1-3(56、57頁)を参照してください。

※1 応募情報(Web入力項目)…研究課題名等応募研究課題に係る基本データ、研究組織に係るデータ等

注2. 研究計画調書の後半部分は、応募内容ファイル(※2)をダウンロードして作成してください。

※2 応募内容ファイル…研究目的、研究計画・方法等の研究計画の内容に係る事項

ウ) 提出期間

研究代表者は、所属する研究機関が指定する期日までに、当該研究機関に応募書類を提出してください(各研究機関から文部科学省への提出期間は、63頁を参照してください。)

「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧（35研究領域）

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	概要の頁	公募研究の期間	件数(程度)	応募金額(単年度当たり)
1	125	代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築：21世紀の日本語研究の基盤整備	日本語コーパス	平成18年度～平成22年度	32	2年間	5	300万円程度まで
2	431	最高エネルギー宇宙線の起源－テカジュール粒子による宇宙物理の開拓－	最高宇宙線	平成15年度～平成20年度	32	2年間	4	200万円上限
3	435	スタグナントスラブ：マントルダイナミクスの新展開	地球深部スラブ	平成16年度～平成20年度	33	2年間	6 3	200万円上限（A01及びA02） 200万円上限（A03）
4	436	異常量子物質の創製－新しい物理を生む新物質－	異常量子物質	平成16年度～平成20年度	33	2年間	10 10	400万円上限（実験的研究） 200万円上限（理論的研究）
5	437	太陽系外惑星科学の展開	系外惑星	平成16年度～平成20年度	34	2年間	3 6	600万円程度 200万円程度
6	438	ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ研究	アクチュエータ	平成16年度～平成20年度	34	2年間	22	500万円上限
7	439	高温ナノイオニクスを基盤とするヘテロ界面制御フロンティア	ナノイオニクス	平成16年度～平成20年度	35	2年間	20	400万円程度
8	440	希土系物質のパノスコピック形態制御と高次機能設計	希土形態制御	平成16年度～平成20年度	35	2年間	25	220万円上限
9	443	次世代量子シミュレータ・量子デザイン手法の開発	量子デザイン	平成17年度～平成20年度	36	2年間	4 8	600万円程度（発展的研究：実験・理論） 200万円程度（萌芽的研究：理論）
10	444	炭素資源の高度分子変換	高度分子変換	平成17年度～平成20年度	36	2年間	65	300万円以下
11	445	生体分子群デジタル精密計測に基づいた細胞機能解析：ライフサーベイヤをめざして	ライフサーベイヤ	平成17年度～平成20年度	37	2年間	48	300万円上限
12	446	次世代共役ポリマーの超階層制御と革新機能	超階層制御	平成17年度～平成20年度	37	2年間	20	200万円程度
13	447	新世代光通信へのイノベーション－革新的な光デバイスを基点として－	新世代光通信	平成17年度～平成20年度	38	2年間	12	500万円上限
14	456	情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究	情報爆発IT基盤	平成17年度～平成22年度	38	2年間	10 33	800万円程度 400万円程度
15	457	巨大ひずみが開拓する高密度格子欠陥新材料	巨大ひずみ	平成18年度～平成20年度	39	2年間	7 5	300万円程度上限（実験研究） 180万円程度上限（理論研究）
16	458	シリコンナノエレクトロニクスの新展開－ポストスケールテクノロジー－	ポストスケール	平成18年度～平成21年度	39	1年間	15	300万円程度
17	459	元素相乗系化合物の化学	元素相乗系	平成18年度～平成21年度	40	1年間	40	300万円以下
18	460	均一・不均一系触媒化学の概念融合による協奏機能触媒の創成	協奏機能触媒	平成18年度～平成21年度	40	1年間	60	250万円程度

「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧（35研究領域）

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	概要の頁	公募研究の期間	件数(程度)	応募金額(単年度当たり)
19	461	実在系の分子理論	分子理論	平成18年度～平成21年度	41	1年間	40	250万円程度
20	462	海洋表層・大気下層間の物質循環リンケージ	大気海洋物質循環	平成18年度～平成22年度	41	2年間	4	600万円程度上限
							8	300万円上限
21	463	非平衡ソフトマター物理学の創成：メソスコピック系の構造とダイナミクス	ソフトマター物理	平成18年度～平成22年度	42	2年間	10	700万円上限（実験的研究）
							10	300万円上限（理論的研究）
22	464	窒化物光半導体のフロンティア材料潜在能力の極限発現	窒化物の新展開	平成18年度～平成22年度	42	2年間	8	500万円程度
23	465	マイクロ波励起・高温非平衡反応場の科学－炭酸ガス排出抑制型新材料創成反応方法の開発－	電磁波非平衡加熱	平成18年度～平成22年度	43	2年間	3	1000万円上限（実験研究）
							2	300万円上限（理論研究）
24	466	フレーバー物理の新展開	フレーバー物理	平成18年度～平成23年度	43	1年間	10	200万円程度
25	467	広視野深宇宙探査によるダークエネルギーの研究	ダークエネルギー	平成18年度～平成23年度	44	1年間	10	200万円程度
26	508	生命秩序の膜インターフェイスを制御するソフトな分子間相互作用	膜インターフェイス	平成15年度～平成20年度	44	2年間	30	400万円程度
27	509	生体ナノシステムの制御	生体ナノシステム	平成16年度～平成20年度	45	2年間	15	400万円上限
28	510	細胞核ダイナミクス	核ダイナミクス	平成16年度～平成20年度	45	2年間	12	500万円程度
29	511	植物の環境適応戦略としてのオルガネラ分化	オルガネラ分化	平成16年度～平成20年度	46	2年間	20	400万円程度
30	512	性分化機構の解明	性分化	平成16年度～平成20年度	46	2年間	10	200万円程度
							20	500万円程度
31	520	感染現象のマトリックス	感染マトリックス	平成18年度～平成22年度	47	2年間	14	1000万円程度
							32	500万円程度
32	521	膜超分子モーターの革新的ナノサイエンス	革新的ナノバイオ	平成18年度～平成22年度	47	2年間	20	400万円程度
33	522	植物の生殖過程におけるゲノム障壁	植物ゲノム障壁	平成18年度～平成22年度	48	2年間	10	400万円程度
34	523	タンパク質分解による細胞・個体機能の制御	タンパク質分解	平成18年度～平成22年度	48	2年間	20	400万円程度
35	524	セルセンサーの分子連関とモダリティシフト	細胞感覚	平成18年度～平成22年度	49	2年間	12	400万円上限

特定領域研究の研究概要

1 代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築 : 21世紀の日本語研究の基盤整備

領域略称名：日本語コーパス
 領域番号：125
 設定期間：平成18年度～平成22年度
 領域代表者：前川 喜久雄
 所属機関：独立行政法人国立国語研究所

本研究領域では、日本語のコーパス言語学的研究の基盤を整備するために、現代日本語の書き言葉コーパスを構築し、同時に、構築したコーパスの有効性を日本語研究の基礎と応用の両面において評価する。

研究項目A01においては書籍を対象とした5000万語規模の書き言葉コーパスを構築する。このコーパスと、同時期に国立国語研究所が構築する予定のコーパス群とをあわせて運用することによって、日本語書き言葉の全体を対象とした均衡コーパス(balanced corpus)が利用できるようになる。

研究項目B01では、日本語学、日本語教育学、国語教育、国語施策、辞書編集、自然言語処理の各領域においてA01で構築されたコーパスを利用した研究を推進して、コーパスの有効性を明らかにするとともに、コーパスの実装面に關する問題をA01にフィードバックする。

このため、次の研究項目において、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は公募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は300万円程度までとする。採択目安件数は、概ね5件程度を予定している。

研究内容の詳細については、領域のホームページ(http://www2.kokken.go.jp/tokutei_corpus/)を、またコーパスの設計と実装については<http://www2.kokken.go.jp/kotonoha/>を参照すること。なお、平成19年度においては本領域で構築するコーパスが未だ十分な分量に達していないので、既存コーパスの利用を考慮した研究計画となっていることが望ましい。

(研究項目)

B01 コーパスの評価

2 最高エネルギー宇宙線の起源 —デカジュール粒子による宇宙物理の開拓—

領域略称名：最高宇宙線
 領域番号：431
 設定期間：平成15年度～平成20年度
 領域代表者：福島 正己
 所属機関：東京大学・宇宙線研究所

極高エネルギー宇宙線は、宇宙空間を伝播中に背景放射と反応してエネルギーを失う。このために、10の20乗電子ボルト付近にエネルギー限界があると考えられているが、AGASA空気シャワーアレイによる観測では、この限界を超える空気シャワー(super-GZK宇宙線)を10例以上観測している。本研究領域では、super-GZK宇宙線の起源解明を目指して、AGASAの10倍を超える観測感度を持ち、宇宙線粒子種の同定情報を得ることのできる「宇宙線望遠鏡」を建設しているが、平成19年4月には装置が完成し、観測を開始する予定である。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円を上限とする。採択目安件数は、概ね4件程度を予定している。

特に、最高エネルギー宇宙線の起源に関わる宇宙物理学及び天文学的研究、極高エネルギー宇宙線の加速・伝播などに関する理論的研究、空気シャワーの絶対エネルギー較正法の開発、極高エネルギー宇宙線の新たな観測方法の試験などの研究提案を期待する。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ

(<http://taws100.icrr.u-tokyo.ac.jp/kakenhi/>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 大気蛍光望遠鏡の建設とステレオ観測法の確立
- A02 地表検出器の開発とAGASA検出器による較正
- B01 Super-GZK問題の解決と最高エネルギー宇宙線の化学組成測定
- B02 最高エネルギー粒子放射源の同定による粒子線天文学の確立
- B03 最高エネルギー宇宙線の高信頼度シミュレーション手法の開発

(平成17年度公募研究 平均配分額 1,825千円 最高配分額 2,700千円)

3 スタグナントスラブ：マントルダイナミクスの新展開

領域略称名：地球深部スラブ
領域番号：435
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：深尾 良夫
所属機関：独立行政法人・海洋研究開発機構

本領域は、「スタグナントスラブ」の概念をキーワードに、地球物理観測、超高圧地球科学、計算機科学の先端グループが結集し、5年間でマントルダイナミクス研究に新展開をもたらすことを目的に設定された。具体的には、(1)極東ロシア域とフィリピン海域において長期アレー地震・電磁気観測を実施して、カムチャッカから日本を経てマリアナに至る世界最大の沈み込み帯に沿ってスタグナントスラブの全貌をイメージングする。(2)沈み込むスラブが滞留したり滞留の後に崩落するメカニズムをマントル物質に関する高温高圧実験により明らかにする。(3)世界最速コンピューター（地球シミュレータ）による対流モデリングを行う。これらの結果を合わせて、スタグナントスラブの滞留と崩落のメカニズムを明らかにし、スラブの滞留と崩落がプレート運動史ひいては地球史に及ぼす影響の解明を目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円を上限とする。採択目安件数は、研究項目A01及びA02では、各計画研究が実施する観測や既存の観測網から得られるデータの解析に独自の発想で取り組む研究を概ね6件程度、研究項目A03については、高圧科学の分野で計画研究と連携し領域全体への貢献が期待できる研究を概ね3件程度を予定している。なお、研究項目A04（計算機モデリング）の公募研究課題は、必ず他の研究項目と連携した内容であることが求められる。

詳しくは、本領域のホームページ (<http://ohpju.eri.u-tokyo.ac.jp/tokutei/>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 地震学的イメージング
- A02 海域観測によるイメージング
- A03 物質科学的モデリング
- A04 計算機モデリング

(平成17年度公募研究 平均配分額 1,312千円 最高配分額 1,800千円)

4 異常量子物質の創製 —新しい物理を生む新物質—

領域略称名：異常量子物質
領域番号：436
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：秋光 純
所属機関：青山学院大学

最近、日本での相次ぐ新物質の発見、特に多くの新超伝導体の発見により、固体物理学は大きな活況を呈している。一方、今までの概念を覆す興味ある伝導現象も数多く見つかっている。磁場により電気分極が生じたり、電場により磁化が生じたりするという現象はその一例である。また、光誘起相転移や光ドーピングなど、光に対し巨大な応答を示す現象も次々見つかっている。そのような系では、本来低温極限でしか発現しなかったような量子効果が100K付近の高温においても発現する。本研究ではそのような物質を「異常量子物質」と呼ぶ。これら諸現象は互いに強く相関しており、その底流をなす新しい物理学の確立が求められている。我々は、今後の物理学の発展方向として、異常量子性が顕著に現れる①エキゾチック超伝導 ②異常磁気伝導 ③巨大応答 の三領域を選定し、「新しい異常量子物質の創製」をキーワードに集中的に研究する。研究項目A01では、より高温の超伝導/エキゾチックな超伝導体を、実験・理論の緊密な連携により設計・創製し、その発現機構の解明を目指す。研究項目A02では、磁性と伝導が密接に関連した新量子物質を開発し、そこに内在する異常伝導現象の解明と制御を目指す。研究項目A03では、揺らぎの程度をはるかに超えるスケールのエネルギー量子を注入することによって、巨大応答を示す異常量子物質の開発と、その光応答の理解と制御を目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による独創的、意欲的な2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、実験の場合400万円、理論の場合200万円を上限とし、採択目安件数は、それぞれ概ね10件程度を予定している。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://www.phys.aoyama.ac.jp/~w3-aqm/>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 エキゾチック超伝導
- A02 異常磁気伝導
- A03 巨大光応答

(平成17年度公募研究 平均配分額 2,295千円 最高配分額 3,100千円)

5 太陽系外惑星科学の展開

領域略称名：系外惑星
領域番号：437
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：田村 元秀
所属機関：国立天文台・光赤外研究部

1995年における太陽系外の恒星を周回する木星型巨大惑星の発見を契機に、惑星系研究の場は、もはや太陽系に閉じる必要はなくなった。これまでに発見されている惑星系の多くは私たちの太陽系と似ても似つかず、その多様性を理解するためには、むしろ太陽系以外の惑星系とその形成を理解することが重要である。本領域では、惑星系形成の現場である星周円盤から太陽系外惑星検出に至るまでの観測を系統的に集中して進め、惑星系形成の統合的描像を構築し、太陽系外惑星の直接検出を目指す。その特徴は、地上・スペースの最新気鋭の装置を用いて研究を進めること、開発を含む観測・理論・実験グループが三位一体で融合的研究を進めることにある。これによって「太陽系外惑星科学」と呼ぶべき新しい研究分野を展開する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、系外惑星科学に関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、600万円程度の研究を3件程度、200万円程度の研究を6件程度とする。採択目安件数は、概ね9件程度を予定している。特に、広い分野からの若手研究者の独創的な研究提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.exo-planet.org/>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 観測による系外惑星科学の展開
- A02 理論・実験による系外惑星科学の展開
- A03 技術開発による系外惑星科学の展開

(平成17年度公募研究 平均配分額 1,846千円 最高配分額 3,000千円)

6 ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ研究

領域略称名：アクチュエータ
領域番号：438
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：樋口 俊郎
所属機関：東京大学大学院工学系研究科

次世代アクチュエータの実現は、産業界、先端科学、社会・環境等、多岐の分野にわたり様々なブレイクスルー技術を提供する可能性を持っている。本領域はこのような背景を踏まえて設定されたもので、①将来の応用展開を踏まえた各種次世代アクチュエータの実現と、②アクチュエータ技術全体に共通する基盤技術の発展、確立を目的としている。アクチュエータ研究は多岐にわたる学術分野が統合されて成り立つため、機能性材料や加工法なども含めた広い視野を持ち研究を推進する。

本領域では5つの研究項目を設定し、各研究項目間の連携を密にとりながら研究を進める。研究項目A01では、精密位置決め、プローブ顕微鏡用アクチュエータ、サブナノポジショニングアクチュエータ等の研究を行う。研究項目A02では、ストレージ等情報機器用マイクロアクチュエータ、MEMSアクチュエータ、マイクロ流体素子、微細加工等の研究を行う。研究項目A03では、マイクロロボット、医療用マイクロマシン、アクチュエータ・センサ集積、通信・制御、マイクロチップ実装等の研究を行う。研究項目A04では、ロボット用アクチュエータ、人工筋肉、パワーアクチュエータ、ソフトアクチュエータ、高エネルギー効率、システム軽量化等の研究を行う。研究項目A05では、極低温、高温、超高真空、超クリーン環境、強磁場環境、超低漏洩磁場要求環境等、現状のアクチュエータが動作できない環境におけるアクチュエータの研究を行う。

5つの研究項目は、それぞれ、3つの計画研究と、4つ～5つ程度の公募研究から構成される。このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。

特に、計画研究では想定していない新しい視点に基づいたアクチュエータの研究や、関連する基盤研究が期待される。公募研究の単年度当たりの応募額は、500万円を上限とする。採択目安件数は、概ね22件程度を予定している。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://yokota-www.pi.titech.ac.jp/index-A.html>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 超精密ナノアクチュエータ
- A02 マイクロアクチュエータ
- A03 スマートアクチュエータ
- A04 パワーアクチュエータ
- A05 特殊環境アクチュエータ

(平成17年度公募研究 平均配分額 3,384千円 最高配分額 7,400千円)

7 高温ナノイオニクスを基盤とするヘテロ界面制御 フロンティア

領域略称名：ナノイオニクス
領域番号：439
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：山口 周
所属機関：東京大学大学院工学系研究科

イオンと電子が同時に移動できる混合伝導体やイオン伝導体が金属などの異質な物質とヘテロ接触すると、界面近傍に空間電荷層や表面電荷が生じ、イオン・欠陥によるナノスケールの緩和である「ナノイオニクス」現象が起こる。現在ではナノスケールでヘテロ界面を空間設計することが可能になってきており、例えば界面の高いイオン欠陥濃度を利用した高速イオン移動や、電荷移動反応場制御による高反応活性や反応選択性など、ナノ構造制御したヘテロ界面を積極的に利用する新しい界面化学機能の開拓が期待されている。本領域ではナノイオニクス現象に基づくヘテロ界面制御の学理確立と応用への展開を目的とする。

このため、次の研究項目について「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する独創的で優れた発想による一人又は少数の研究者からなる2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円程度を予定しているが、研究遂行上の必要がある場合は単年度当り800万円までの研究も少数受け入れる。採択目安件数は、概ね20件程度を予定している。特に新規現象や応用に関連する意欲的で斬新な発想の研究を期待する。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://www.ionics.t.u-tokyo.ac.jp/tokutei/>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 ナノイオニクス現象の基礎特性解明と設計
- A02 ナノイオニクス高速イオン移動固体の創製
- A03 多様なナノイオニクス反応場の構築と設計
- A04 ナノイオニクス応用デバイス・プロセス展開

(平成17年度公募研究 平均配分額 3,387千円 最高配分額 5,800千円)

8 希土類系物質のパノスコピック形態制御と高次機能設計

領域略称名：希土類形態制御
領域番号：440
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：町田 憲一
所属機関：大阪大学先端科学イノベーションセンター

本領域では、学術及び実用面で有用な希土類系物質に対して、原子、イオン及び分子スケール（ナノ領域）の形態ユニットを、マイクロ、メソ、マクロの各レベルで階層的に組み上げることで組織体又は複合体を形成し（パノスコピック形態制御）、希土類の4f電子等に起因する特異な物性や反応性、配位機能などを、ナノ領域での微細設計と加工・組織化により誘発及び増幅させるとともに、高度に設計された階層的組織化又は複合化に基づくEnsemble効果やSynergistic効果を援用し、より高いレベルの高次機能の調和的かつ協奏的発現をめざす。具体的には、下記の研究項目を設定し、(1)希土類系物質に対するパノスコピック形態制御手法の確立と高次機能物性の発現、(2)同形態制御により誘発される電磁物性の評価と更なる高次機能化、(3)同形態制御により誘発される光物性の評価と更なる高次機能化、及び(4)得られた高次機能とそのシステム化、に関して系統的に研究を推進し、新物質相の創製や新規物性の発現を集中的に促すことで、学術面のみならず応用面でも意味のある希土類科学の新たな展開と体系化を図る。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による独創的で示唆に富む2年間の研究を、実験又は理論について公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、220万円を上限とする。採択目安件数は、概ね25件程度を予定している。

(研究項目)

- A01 希土類系物質におけるパノスコピック形態制御と高次機能の発現
- A02 パノスコピック形態制御された希土類系物質の電磁物性とその高次機能設計
- A03 パノスコピック形態制御された希土類系物質の光物性とその高次機能設計
- A04 パノスコピック形態制御された希土類系物質の高次機能とそのシステム設計

(平成17年度公募研究 平均配分額 1,600千円 最高配分額 1,800千円)

9 次世代量子シミュレータ・量子デザイン手法の開発

領域略称名：量子デザイン
領域番号：443
設定期間：平成17年度～平成20年度
領域代表者：赤井 久純
所属機関：大阪大学大学院理学研究科

我が国の科学技術における社会的課題に対応したいずれの分野においても、環境調和型高機能・高性能材料を低環境負荷で効率よく創成・開発できる手法の確立が強く要請されている。これに応える科学技術の発展を目的として、学問的に新しく基礎的でありながら近未来社会に貢献することを戦略とする量子デザインを主題とした研究を推進する。量子デザインの基本は量子シミュレーションであるが、現在用いられている量子シミュレータは物性予測の手段として万全ではなく、①多様な電子相関を統一的に取り入れる手法を導入する、②先端的な材料で要求されるナノからサブミクロンまでの現実構造を扱えるようにする、③電子系の励起が重要になるダイナミクス等を扱えるようにする、などの改良が不可欠である。上記の点を念頭に、本研究では次世代量子シミュレータ及びこれを用いた次世代量子デザイン手法を開発・公開・普及し、これを用いて計算機マテリアルデザインを行う。研究項目A01では従来の量子シミュレーション手法である局所密度近似を超えて、なおかつ現実的な計算時間で有用な結果を得ることのできる計算手法を開発する。研究項目A02では現実物質の機能が集約される最大サイズであるサブミクロンサイズをボトムアップで扱うことのできる量子シミュレータや、ダイナミクス、化学反応を記述することのできる量子シミュレータを開発し、その公開と普及を推進する。研究項目A03では量子シミュレータを高度に用いた計算機マテリアルデザイン手法を発展させるとともに応用研究を行い、環境調和材料、高効率エネルギー変換材料、再生医療材料、安全・安心のためのセンサー材料等の社会的要請が高い材料のデザインを行う。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の先進的かつ意欲的な研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、600万円程度の発展的研究（実験あるいは理論）を4件程度、200万円程度の萌芽的研究（理論）を8件程度、採択目安総件数は概ね12件程度を予定している。理論研究を主体とするが、計算機マテリアルデザインと相補的に実証実験を遂行する実験的研究も対象とする。また、量子化学などの関連分野や学際分野からの応募も期待する。

なお、研究内容の詳細については領域ホームページ (<http://ann.phys.sci.osaka-u.ac.jp/~tokutei>) を参照すること。

(研究項目)

A01 新しい第一原理計算手法の開発
A02 量子シミュレータの開発・公開と普及

A03 計算機マテリアルデザイン

(平成18年度公募研究 平均配分額 2,675千円 最高配分額 4,100千円)

10 炭素資源の高度分子変換

領域略称名：高度分子変換
領域番号：444
設定期間：平成17年度～平成20年度
領域代表者：丸岡 啓二
所属機関：京都大学大学院理学研究科

天然資源の乏しい我が国が、科学技術創造立国として「もの作り」の面において、世界の製薬、化学工業界を牽引し国際優位性を保つためには、一連の有機合成プロセスの開発に必要な基本的合成反応群の開拓が急務であり、その成否は今後の産業界の命運を左右するといっても過言ではない。そこでは従来型有機合成反応の単なる改良ではとても対応できず、今ここで抜本的な知的対策、すなわち、入手容易な炭素資源を有効に活用し、従来、あまり考慮に入れてこなかった「合成力量」、「環境調和」、「原子効率」、「連続化」等のキーワードをもとに、「プロセス有機合成化学」を指向した高度分子変換法を創出するための基礎研究をグループ研究として短期間で強力に推進させる必要がある。この時機を逸すれば欧米の研究に先を越され、これまでの優位を保てないばかりか、後塵を拝することになり、我が国の知的財産の損失にもつながりかねない。本特定領域研究の目的は、「人類の安全と安心のためのもの作り」を目指して、有機合成のプロセス開発に必要な、かつ数十年後に残りうる真に有用な高度分子変換に基づく有機合成反応を新規開拓するとともに、それを可能にする高性能触媒の設計に取り組み、そこから得られた基礎研究成果を「プロセス有機合成化学」に供給する学術支援体制を早急に確立することである。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、それぞれのテーマに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は300万円以下で、先進的かつ意欲的な研究を公募する。特に、比較的若い世代の研究者による挑戦的な研究テーマや斬新なアイデアを積極的に採択する。採択目安件数は、概ね65件程度を予定している。なお、詳細に関しては、本領域のホームページ (<http://kuchem.kyoto-u.ac.jp/yugo/www/index.html>) を参照されたい。

(研究項目)

A01 官能基炭素分子の高度分子変換
A02 炭素小分子の高度分子変換

A03 不活性炭素分子の高度分子変換

A04 π 電子系炭素分子の高度分子変換

(平成18年度公募研究 平均配分額 2,197千円 最高配分額 2,500千円)

11 生体分子群デジタル精密計測に基づいた細胞機能解析 ：ライフサーベイヤをめざして

領域略称名：ライフサーベイヤ
領域番号：445
設定期間：平成17年度～平成20年度
領域代表者：神原 秀記
所属機関：東京農工大学大学院工学教育部

本領域では生命をシステムとして理解し、活用する上で必要となる種々技術及びツールの開発、及びその基礎となる研究を展開する。システムの最小単位である1細胞に注目し、そこに含まれる種々分子をデジタル計測する技術、分子の相互作用をモニターする技術、種々分子プローブ及び関連材料の研究、細胞間相互作用、情報交換の計測技術など生命を統合的に理解する上で必要な技術の開発を目指す。

研究項目A01では、細胞の状態を左右する多様な物質などを認識・センシングできる機能分子の創成及び細胞環境を制御できるバイオフィーマットの開発などを目指す。研究項目A02では1細胞に含まれる蛋白質及び代謝物が時間的・空間的に変化する動態を網羅的に定量解析する技術開発を目指す。そのために、細胞内反応や分子変化の定量的モニタリング、細胞内分子の定量的抽出と標的サンプルの定量分析新技術開発とその1細胞への研究展開を目指す。研究項目A03では細胞間ネットワーク（生体防御、脳神経、臓器機能など）を理解するために細胞が発する信号（電気信号、分子信号など）を統合的に捉える技術開発を行い、細胞内と細胞間情報との関連の解明にせまる。研究項目A04では1つの細胞の中に含まれる全てのmRNAの種類をカウンティングする技術の開発を目指す。この実現にはナノテクノロジー、高分子材料、自己組織化材料、表面改質技術、従来にない高度なプロテオームやメタボローム（ポストゲノム）解析手法の開拓、非侵襲プローブの開発など幅広い分野の協力が必要である。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、300万円を上限とする。採択目安件数は、概ね48件程度を予定している。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.tuat.ac.jp/~surveyor/>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 生体シグナル解析用分子材料群の創製
- A02 細胞内生体分子群の動態シグナルの解析
- A03 細胞間ネットワークシグナルの解析
- A04 ライフサーベイヤをめざしたデジタル精密計測技術の開発

(平成18年度公募研究 平均配分額 2,320千円 最高配分額 4,300千円)

12 次世代共役ポリマーの超階層制御と革新機能

領域略称名：超階層制御
領域番号：446
設定期間：平成17年度～平成20年度
領域代表者：赤木 和夫
所属機関：京都大学大学院工学研究科

非局在化した π 電子や σ 電子をポリマー鎖上に持つ共役ポリマーは、未曾有の機能を内包している。その材料としての働きや機能は、ポリマーの高次構造や組織形態に大きく依存する。有機ポリマーと無機ポリマーとの複合材料、あるいは有機ポリマーと生体ポリマーとの会合体においても、ファンデルワールス力や水素結合力などの分子間相互作用を基盤にした超階層構造により、その物性や機能が大きく左右されることが広く認識されている。生体系においては、階層的に独立した分子や組織が協同的に作用し精巧な機能を生み出している。光・電子デバイスにおいても機能を最大限に引き出すには、分子材料を単純に積層、配列するだけではなく、独立した機能を有する分子材料を高次に組織化し階層性を大域的に制御することが重要である。

本領域では、卓越した分子設計と反応・重合設計を基盤とし、従前にはない斬新な共役ポリマーを創成し、ポリマーの階層構造制御や次元性をはじめとするトポロジー制御、モルホロジーや結晶構造の大域的な制御を目指す。また、共役ポリマーのサブミクロンからナノメートルレベルでの微細加工や積層構造、機能や応答の精密制御を行い、次世代の光・電子材料への展開を図る。さらに、電子・光機能を基軸として、これらを高度にシステム化した生体機能や極限性能をも視野に入れ、革新機能を達成する条件を追究する。本研究では、共役ポリマー及びその関連物質群に焦点を当て、次代を切り拓く革新的な電子・光・磁気機能の創出を目指して、化学と物理、基礎と応用、あるいは理学と工学との垣根を越えた学際的な研究を推進する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円程度とする。採択目安件数は、概ね20件程度を予定している。特に若手研究者による、独創的な新規共役ポリマーの合成、萌芽的な階層制御や革新機能の提案を期待する。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.choukaisou.com/>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 次世代共役ポリマーの創成
- A02 超階層構造の構築
- A03 超光電子機能の制御
- A04 革新機能の探索

(平成18年度公募研究 平均配分額 1,400千円 最高配分額 1,500千円)

13 新世代光通信へのイノベーション ー革新的な光デバイスを基点としてー

領域略称名：新世代光通信
領域番号：447
設定期間：平成17年度～平成20年度
領域代表者：小林 功郎
所属機関：東京工業大学・精密工学研究所

膨大な情報量の伝送を可能にした光通信も、ネットワーク化のためのルーティング等を電気信号処理に依存する現在のシステムでは、インターネットトラフィックの急増とともに、そのボトルネックの顕在化が危惧される。また、これまでは光の強度に情報をのせる伝送技術が中心であったが、将来の柔軟で信頼性の高いネットワークへ発展させるためには、光の位相や量子状態を自在に制御するなど、いわば光の高次機能を発現させる新しい学術基盤の構築と光デバイスのイノベーションが急務である。

本研究領域では、新世代の情報インフラを担う光通信として、大容量で、柔軟かつ安全性の高い光通信ネットワークの実現を目指し、革新的な光機能デバイスの創出を基点として、新世代光通信を切り拓く学術基盤を確立することを目的としている。光の速度・位相・量子状態を制御する新たな機能のイノベーション、超高速光スイッチングや広帯域スペクトル制御を可能にする構造イノベーション、及び光ルーティングなどの柔軟なネットワークを可能とする統合イノベーションを3つの柱として研究を進める。超高速・全光パケット処理の可能性提示など、光通信のボトルネックを解消してさらなる発展の基礎を築き、新世代のグローバルな情報社会への貢献を目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、500万円を上限とする。採択目安件数は、概ね12件程度を予定している。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://www.allopt.pi.titech.ac.jp/~Tokutei/>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 機能イノベーション
- A02 構造イノベーション
- A03 統合イノベーション

(平成18年度公募研究 平均配分額 4,018千円 最高配分額 4,400千円)

14 情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究

領域略称名：情報爆発 IT 基盤
領域番号：456
設定期間：平成17年度～平成22年度
領域代表者：喜連川 優
所属機関：東京大学生産技術研究所

人類によって創出される情報量は2000年以降爆発的に増大していることが明らかになりつつある。本領域は情報爆発時代に向けた先進的なIT基盤技術の構築を目指すものである。爆発する大量で多様な情報から真に必要な情報を効率良く且つ偏りなく安心して取り出す技術、大量情報の管理のための大規模な情報システムを安定・安全に運用するための技術、並びに、人間とのしなやかな対話により誰もが容易に情報を利活用可能とする技術の確立を目指す。更に、多様な情報を活用した先進的なITサービスを人間社会に受け入れやすくするべく社会制度設計も視野に入れ、情報学諸分野における様々な先端的手法を有機的に融合することにより総合的に取り組む。

情報関連全領域からの、情報爆発に関する多様な問題に対しての新しい手法、並びに、社会還元可能な応用などの提案を期待する。本領域では支援班を設け先端の共通研究プラットフォームを構築しており、公募研究者にも積極的に活用出来る環境を整えている。多様な分野の研究者が他には得がたい環境で密に情報共有出来ることが最大の特徴と言える。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、800万円程度の研究を10件、400万円程度の研究を33件程度とする。採択目安件数は、概ね43件程度を予定している。特に情報学を基盤とした独創的な情報技術の創出を目指すため、各研究項目に関わる分野で意欲的な研究を広く公募する。

なお、研究内容の詳細については、領域HP (<http://research.nii.ac.jp/i-explosion>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 情報爆発時代における情報管理・融合・活用基盤
- A02 情報爆発時代における安全・安心ITシステム基盤
- A03 情報爆発時代におけるヒューマンコミュニケーション基盤
- B01 情報爆発時代における知識社会形成ガバナンス

(平成18年度公募研究 平均配分額 3,893千円 最高配分額 7,200千円)

15 巨大ひずみが開拓する高密度格子欠陥新材料

領域略称名：巨大ひずみ

領域番号：457

設定期間：平成18年度～平成20年度

領域代表者：堀田 善治

所属機関：九州大学

金属にひずみを付与することにより、点状（0次元：空孔など）、線状（一次元：転位）、面状（二次元：結晶粒界、双晶、積層欠陥）の異なる次元を有する格子欠陥が導入される。ひずみ量が巨大であれば、導入されるこれらの格子欠陥も莫大な量になる。組織は微細化され、強度や延性が同時に向上するなど特異現象が生じることがある。巨大ひずみの付与は断面積が変化しないECAP、ARB、HPT法などの形状不変加工法で実現可能であり、現在サブミクロンからナノスケールの微細組織がバルク材で制御できる状況にある。

本領域では、形状不変加工プロセスで金属材料に巨大ひずみを付与し、そのときに導入される高密度格子欠陥の役割についての解析と材料特性の評価を併せて行い、巨大ひずみをもたらす特異現象の解明を試みる。特にメカニクスに焦点を絞り、巨大ひずみによる高密度格子欠陥の導入と微細組織形成過程の定量的理解及び巨大ひずみ材料のメカニクスに対する理解を図る。本領域の研究項目A01では、高密度格子欠陥材料の創製とその微細組織形成メカニズムの解明を図り、研究項目A02では、高密度格子欠陥材料の特異な力学応答現象の整理とそれを支配するメカニズムの解明を行う。研究項目A03では、高密度格子欠陥の分類・定量化と特異現象・特異構造に対する役割を明確化する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。

公募研究の単年度当たりの応募額は、実験研究で300万円、理論的研究で180万円程度を上限とする。採択目安件数は、概ね12件程度（実験研究7件、理論研究5件）を予定している。

（研究項目）

A01 高密度格子欠陥の構造化

A02 巨大ひずみ材料のメカニクスの体系化

A03 高密度格子欠陥の階層化

16 シリコンナノエレクトロニクスの新展開 ーポストスケーリングテクノロジーー

領域略称名：ポストスケール

領域番号：458

設定期間：平成18年度～平成21年度

領域代表者：財満 鎮明

所属機関：名古屋大学大学院工学研究科

シリコン超々大規模集積回路（ULSI）は、種々の物理的境界に直面しつつある。次世代のコビタスネット社会を支えるエレクトロニクスの発展のためには、従来の「スケーリング（比例縮小）則」という概念を超えた、新しい技術の開発や指導原理の確立が緊急の課題となっている。そのためには、新規物性／材料／機能の導入やシリコンプラットホームとナノテクノロジーとの融合によるナノスケール CMOS（Nano-CMOS）の革新的機能・性能の向上に加えて、種々の揺らぎ・ばらつきの物理的／技術的要因の解明とその制御を実現し、揺らぎを考慮したデバイス設計へと結びつけるナノデバイスインテグリティ科学の構築が不可欠である。

本領域では、「Nano-CMOS の高性能・新機能化」と「ナノデバイスインテグリティの確立」の二つを柱として研究を遂行し、将来我が国の情報通信産業・半導体産業が世界を先導していくために必要となる材料・プロセス・デバイスに関する基盤技術を開発するとともに、その学問的基礎の確立を行う。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は、300万円程度とする。採択目安件数は、概ね15件程度を予定している。

特に、シリコン ULSI に融合可能な新チャネル技術・新材料技術、自己組織化ナノ構造制御とナノ領域計測、デバイス特性の揺らぎ／信頼性制御とモデリング、さらにこれらの融合技術に関連する研究の提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ（http://alice.xtal.nagoya-u.ac.jp/post_scaling/index.html）を参照すること。

（研究項目）

A01 ナノ物性／ナノ機能探索

A02 ナノ構造化プロセス・デバイス

A03 ナノデバイスインテグリティ

A04 ナノシステム機能インテグレーション

17 元素相乗系化合物の化学

領域略称名：元素相乗系
領域番号：459
設定期間：平成18年度～平成21年度
領域代表者：宮浦 憲夫
所属機関：北海道大学大学院工学研究科

現代の科学と科学技術の発展は、原子レベルで構造制御された機能性物質の創製に依るところが大きい。これは、複数の元素がある種の組成と配列あるいは空間配置に制御されたとき、元素間に様々な相互作用や協同効果が発現し、単一の元素では実現し得ない新たな機能が生まれるからである。本特定領域研究では、複数元素の相乗的な働きによって優れた機能を発現する分子性化合物やそれらの複合体を「元素相乗系化合物」と定義し、その学理と応用を追求することにより、真に独創的な機能性物質群を創造するための複合型元素化学を推進する。主に、立体的・電子的に柔軟で高い機能を発現しやすい高周期元素化合物（遷移元素と典型元素）に焦点をあて、科学と科学技術の発展に資する新反応と新物質を創出することを目的とする。

本領域では以下の三つの研究項目を設定し、項目間の緊密な連携をもとに研究を推進する。研究項目 A01 は、典型元素-遷移元素又は典型元素-典型元素が単結合あるいは多重結合した二中心化合物を対象として、元素間に派生する相乗的協同効果と機能を化合物の構造、物性、反応性をもとに究明する。研究項目 A02 は、精密に構造制御された三核からナノサイズの多核金属錯体や金属クラスターを対象として、多中心元素骨格に起因して発現する新機能と応用を追求する。また、研究項目 A03 は、化学反応における活性中間体や外部刺激応答性錯体など結合の組み換えが柔軟な複合型元素化合物を対象として、有機・無機合成における反応開発あるいは機能性物質開発への応用を探る。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は300万円以下とする。採択目安件数は、概ね40件程度を予定している。特に、若手研究者の独創的・意欲的な提案を期待する。また、対象とする元素など研究内容の詳細については領域ホームページ (<http://es.kuicr.kyoto-u.ac.jp/synergy/>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 二中心元素間相乗系化合物
- A02 多中心元素相乗系化合物
- A03 複合型元素相乗系化合物

18 均一・不均一系触媒化学の概念融合による協奏機能触媒の創成

領域略称名：協奏機能触媒
領域番号：460
設定期間：平成18年度～平成21年度
領域代表者：碓屋 隆雄
所属機関：東京工業大学大学院理工学研究科

高度文明を維持しつつ地球環境負荷を極力低減する科学・技術が強く求められる今日、「ものづくり」に不可欠な触媒化学は、従前の単なる物質変換を支える学術から社会と融和して複合的かつ学際的な学術に生まれ変わる必要がある。本領域では、これまでの分子触媒、多金属触媒、固体触媒及び生体模倣触媒など均一・不均一系触媒の化学において個別に発展して培ってきた英知を協奏的に融合することで、原子・分子レベルで電子構造論や立体構造論と速度論に立脚したあらたな概念である「協奏機能触媒化学」の創出をめざすとともに、協奏機能触媒を用いる高効率触媒反応プロセスの開拓と社会の要請に柔軟に対応でき、安全で環境に負荷をかけない次世代の化学・技術基盤の確立をめざす。

本目的を実現するために、金属錯体を基盤とする分子触媒の高機能・高性能化をめざす「分子機能触媒化学」、分子及び固体触媒研究の学際領域に芽生えている多金属の集積と協同作用によって生み出される新たな機能触媒を開拓する「多金属機能触媒化学」、分子・原子レベルで設計・制御された協奏機能触媒の開拓をめざす「固体機能触媒化学」に加えて、生体触媒機能と人工触媒機能を融合して実用触媒創製の基盤づくりを行う「生体模倣機能触媒化学」の4研究項目を設定している。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は、250万円程度とする。採択目安件数は、概ね60件程度を予定している。特に若手研究者によるこれまでの踏襲型の触媒研究でなく、独創性、先見性に優れた研究とさらに、計算機化学を駆使する触媒機能に関する理論的研究の提案を期待する。

(研究項目)

- A01 分子機能触媒化学
- A02 多金属機能触媒化学
- A03 固体機能触媒化学
- A04 生体模倣機能触媒化学

19 実在系の分子理論

領域略称名：分子理論
領域番号：461
設定期間：平成18年度～平成21年度
領域代表者：榊 茂好
所属機関：京都大学大学院工学研究科

「実在系の分子理論」では「実際に存在する分子をそのまま理論計算する」だけでなく、溶液中のエントロピー、溶媒や置換基などのゆらぎや構造の統計性、核振動のカップリングの評価など、これまで理論的検討が乏しかった因子を正しく評価し、実在系の真の姿にアプローチする。このため、電子状態理論計算の高精度化、高速化、大規模化、量子ダイナミクス理論の深化と大規模化、分子動力学計算の高速化、高精度化を達成し、これらを総合した「実在系の分子理論」を構築する。

主な研究対象として「複合電子系の構造、結合、物性と反応過程」、「ナノスケール分子及び分子集団や超分子系の構造と物性」、「溶液内化学反応ダイナミクス」、「生体系分子の構造と反応」を取り上げ、実在系の分子理論により、それらの微視的かつ本質的な理解並びに反応と物性の予測・制御を達成するための理論的研究を行う。

本特定領域研究の目的を達成するためには、電子状態理論、反応ダイナミクス、分子動力学シミュレーションなどの分野の理論化学研究者の協力が不可欠である。そこで4つの研究項目を組織し、相互に協力して融合的な研究活動を行う。実在系にアプローチすることから、実験化学者の協力が不可欠である。とりわけ、理論化学にとって挑戦的な実験結果、新しい理論や理論的解明を必要とする実験結果などを持つ実験研究者の参加を、物理化学、有機化学、無機化学など分野を問わず、期待する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は、250万円程度とする。採択目安件数は、概ね40件程度を予定している。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://www.riron.moleng.kyoto-u.ac.jp>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 複合電子系分子の構造と反応制御
- A02 次世代分子理論の基礎構築
- A03 化学反応ダイナミクス
- A04 分子集団の時間空間揺らぎ

20 海洋表層・大気下層間の物質循環リンケージ

領域略称名：大気海洋物質循環
領域番号：462
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：植松 光夫
所属機関：東京大学海洋研究所

大気・海洋間の物質循環は、地球規模での人類活動による影響を受け、大気から海洋への物質供給が質・量とも変化しつつある。その変化は海洋表層の物理・化学的環境に影響を与え、海洋生態系が応答する。それに伴って、生物起源気体が生成、海洋大気へ放出され、変質するという過程を経て、海洋大気への物質のフィードバックが変化すると考えられる。

本領域では、北太平洋を中心に一連の大気と海洋の物質循環リンケージについて、海洋表層と大気境界層を研究対象域として物理、化学、生物、気象などの分野が連携して取り組む。研究項目 A01 では大気から海洋への物質供給過程を明らかにし、また、海洋から放出された気体の変質過程の観測を行う。研究項目 A02 では境界面での放出フラックスの直接測定や長期的なフラックス変動を観測する。研究項目 A03 では海洋生態系の応答を海洋表層での大気起源生物利用元素、微生物、植物プランクトン、動物プランクトンに至る連鎖を解明する。これらの観測結果から研究項目 A04 では地球環境変化に対する大気組成と海洋生態系の応答について予測可能とすることを目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に領域研究を推進するとともに、これらを補完する一人又は少数の研究者による2年間の独創的・意欲的な研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、上限600万円程度(4件程度)と、上限300万円(8件程度)とする。採択目安件数は、概ね12件程度を予定している。

(研究項目)

- A01 大気組成変動
- A02 気体交換変動
- A03 海洋生態系動態
- A04 統合モデリング

21 非平衡ソフトマター物理学の創成 ：メソスコピック系の構造とダイナミクス

領域略称名：ソフトマター物理
領域番号：463
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：太田 隆夫
所属機関：京都大学大学院理学研究科

ソフトマターとは高分子、液晶、両親媒性分子、コロイド、生体物質などの物質群に対する総称である。これらに共通の性質は分子の自己集合によってメソスコピックな内部構造が発現することである。この構造形成のメカニズムを解明しダイナミクスを理解することは、21世紀の基礎科学の重要な研究課題であり、産業への多大な波及効果が期待できる。

本領域は、ソフトマター物理学と非平衡物理学の融合的研究により、流動、電場、磁場、応力、光などの外場存在下におけるソフトマターの構造形成と非平衡状態を解明することを目的とする。具体的にはメソスコピック構造の制御を目指した、実験・理論・計算機シミュレーションによる構造とダイナミクスの基礎的研究を行う。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。非平衡ソフトマターの物理学的、化学的、生物学的、工学的視点からの研究、非平衡基礎論や非線形ダイナミクスと関係した研究及び階層性をもつ系の新しい計算機シミュレーション手法による研究などを遂行する研究者、特に若手研究者の応募を歓迎する。

公募研究の単年度当たりの応募額は、実験的研究では700万円、理論的研究では300万円を上限とする。採択目安件数は実験的研究で概ね10件程度、理論的研究で概ね10件程度を予定している。

(研究項目)

- A01 分子凝集構造のダイナミクス
- A02 構造転移のダイナミクス
- A03 非平衡構造のダイナミクス
- A04 理論・モデリング

22 窒化物光半導体のフロンティア －材料潜在能力の極限発現－

領域略称名：窒化物の新展開
領域番号：464
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：名西 徳之
所属機関：立命館大学理工学部

窒化物半導体は、その優れた物理的特徴から、青色発光ダイオード、青紫色レーザなどを実現し、社会の発展に大きく寄与してきた。しかし、窒化物半導体の持つ材料本来のポテンシャルからすれば、これまで開発された技術の適用波長範囲は、そのほんの一部でしかない。

本領域では、材料、物性、デバイスの全ての階層での全波長領域（紫外域～赤外域）にわたる横断的研究に取り組むことによって、「新規結晶成長技術の開発」と「欠陥物理と発光機構、不純物活性化機構の解明」に基づいて、窒化物半導体が本来持つ優れた潜在能力を極限まで引き出し、その適用波長領域の限界を外縁に広げて、超広波長域光エレクトロニクス分野開拓のための基盤技術確立に寄与し、21世紀の課題解決のための重要な科学・技術の基盤を構築しようとするものである。

研究項目 A01 では、低温成長、その場観察、新規基板結晶などを用いて、高品質結晶成長への本質的共通課題解決を目標とする研究を行う。研究項目 A02 では、超広波長域・超高効率発光デバイス物理解明を目標とし、発光ダイナミクス、点欠陥の評価と物理、ナノ・ヘテロ構造物性評価に関する研究を行う。研究項目 A03 では、窒化物半導体紫外発光デバイスの量子効率限界追求を目指す。研究項目 A04 では、窒化物半導体長波長光デバイスの潜在能力開拓・デバイス創製に関する研究を進める。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。

公募研究の単年度当たりの応募額は、500万円程度とする。採択目安件数は、概ね8件程度を予定している。特に、新規なアイデアに満ち溢れる若手研究者が、独創的提案を行い、公募研究代表者として参加することを期待する。

(研究項目)

- A01 結晶成長技術
- A02 物性評価
- A03 短波長デバイス基盤技術
- A04 長波長デバイス基盤技術

23 マイクロ波励起・高温非平衡反応場の科学 —炭酸ガス排出抑制型新材料創成反応方法の開発—

領域略称名：電磁波非平衡加熱
領域番号：465
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：佐藤 元泰
所属機関：核融合科学研究所連携研究推進センター

マイクロ波加熱は、火炎など由来加熱法の単なる代替手段ではなく、微視的な強い非平衡下の反応系という物性学上の新しい領域にあることが明らかになってきた。なぜ非平衡が発生するか、マイクロ波のような光子エネルギー「 $h\nu$ 」の低い電磁界がどのようにして物質の電子構造に働きかけるのか、そのエネルギー経路が、未知の課題として浮上し、各国研究者の注目の的となっている。

本領域では、これを「マイクロ波励起・非平衡反応場」という切り口で捉え、非平衡状態を解明するためのIn-Situな計測手段を整備し、マイクロ波の電場と磁場と物質のエネルギーパス及び非平衡下における微視的な反応を実験的に究明し、その蓄積したデータを説明する理論の構築を目指す。この学術的成果を基にして、マイクロ波の高度利用を推進、重工業では最も省エネルギー効果の大きい製鉄事業、ハイテク分野では金属ガラスの焼結などの機能材料等、21世紀を担う革新的製造技術を創成する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらの計画研究のもとで「非平衡状態における（ミクロな）界面のダイナミクス」、「遍歴電子など分子磁性と低エネルギーフォトンの相互作用、吸収過程」（以上テーマで、実験中心の応募はA01、理論中心はA03を選択）及び「その応用的研究」（A05）について、一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、平均700万円程度（実験研究1000万円上限、理論研究300万円上限）とする。採択目安件数は、概ね5件程度（実験3件程度、理論2件程度）を予定している。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://phonon.nifs.ac.jp>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 マイクロ波選択加熱を使った非平衡動的過程のIn-Situ計測実験研究
- A03 マイクロ波と分子磁性相互作用の理論・分子動力学研究
- A05 新規マイクロ波加熱法の高度利用による環境・省エネルギー・材料プロセスの開発

24 フレーバー物理の新展開

領域略称名：フレーバー物理
領域番号：466
設定期間：平成18年度～平成23年度
領域代表者：山中 卓
所属機関：大阪大学大学院理学研究科

万物は、6種類のクォークと6種類のレプトン、という素粒子から構成されており、これらの素粒子の種類を「フレーバー」と呼ぶ。さらに、これらのフレーバーの間には「フレーバー混合」という現象が弱い相互作用によって起き、粒子・反粒子の非対称性を生むなどしている。しかし、これらのフレーバー構造の真の理解は未だに得られておらず、ニュートリノ振動の発見などにより、フレーバー混合の謎はますます深まっている。さらに、超対称理論のような標準理論を越える物理での新たなフレーバー混合により、クォークやレプトンのフレーバー混合現象において標準理論の予測からのズレが起きることが期待される。したがって、クォーク、レプトン両者の全てのフレーバーについて、実験と理論の両面からフレーバー混合を研究し、統一的理解を得る。

このため、次の研究項目について、「計画研究」によって重点的に研究を推進するとともに、一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円程度とする。採択目安件数は、概ね10件程度を予定している。

特に、各研究項目の研究を深めるために必要とされる、理論と実験の基礎研究、さらに将来の高エネルギー加速器実験に備えるための新しい実験技術の開発、加速器を用いた実験の提案、さらに新しい加速器技術の開発などの研究の提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/~taku/flavor/>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 $K_L \rightarrow \pi^0 \nu \nu$ 崩壊から探るフレーバー混合と新しい物理
- A02 BファクトリーにおけるBとタウフレーバー物理の研究
- A03 陽子反陽子衝突実験CDFによるトップとボトム・フレーバーの物理
- A04 大強度ニュートリノビームを使ったニュートリノフレーバー振動の研究
- A05 タウニュートリノの直接検出によるニュートリノフレーバーの研究
- A06 フレーバー混合における標準理論を越える物理の理論的研究

25 広視野深宇宙探査によるダークエネルギーの研究

領域略称名：ダークエネルギー
領域番号：467
設定期間：平成18年度～平成23年度
領域代表者：唐牛 宏
所属機関：自然科学研究機構 国立天文台

ここ10年の宇宙観測でもっとも顕著な発見は、膨張宇宙が加速していること、またその説明として、これまでも宇宙に大量に存在しているが目に見えない物質ダークマター(Dark Matter)のエネルギー密度の2倍以上の量の「ダークエネルギー(Dark Energy)」と呼ばれる正体不明の場、真空のエネルギーが存在していることが明らかになってきたのである。

本領域は、すばる望遠鏡の主焦点に超広視野カメラHyperSuprimeを新設し、ダークエネルギーの性質解明を目的とする。カメラを開発製作して銀河の広視野撮像・測光の大規模サーベイを行う開発・観測研究と、得られたデータをカタログ化してダークエネルギー、ダークマターが銀河分布やその形状に与える影響を定量的に解析し、これを理論モデルと比較することでダークエネルギーの存在及びその時間変化を追及する理論研究からなる。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、本研究によって実現される超広視野サーベイデータを最も有効に活用する研究への広がり期待し、一人又は少数の研究者による1年間の研究を公募する。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円程度を予定しているが、研究遂行上の必要がある場合は、単年度当たり400万円までの応募についても考慮する。採択目安件数は、概ね10件程度を予定している。

特に、計画研究とは全く異なる系統誤差と統計誤差を持つ相補的かつ有効な、超新星を用いたダークエネルギーの研究、銀河/銀河形態と銀河団/大規模構造の形成と進化に関する研究、大規模サーベイデータの取得・解析・カタログ化の手法に係る研究、本領域の国際的展開を強化する共同研究、などを期待しているが、これにとらわれずサーベイデータの多目的活用につながる研究を公募対象とする。

(研究項目)

- A01 重力レンズ効果を用いたダークマター探査
- A02 重力レンズ効果を用いたダークエネルギーの研究
- B01 銀河分布を用いたダークエネルギーの研究
- B02 重力レンズ効果による暗黒物質分布と宇宙の構造形成史の解明

26 生命秩序の膜インターフェイスを制御するソフトな分子間相互作用

領域略称名：膜インターフェイス
領域番号：508
設定期間：平成15年度～平成20年度
領域代表者：阿久津 秀雄
所属機関：大阪大学蛋白質研究所

生体分子による生命秩序形成において、秩序高度化の要はさまざまなレベルの秩序を繋ぐ生体膜のインターフェイスである。ここでは、情報や物質の交換を通して膜内外の秩序が有機的に結びつけられている。膜インターフェイスの機能発現は、複合体の形成、構造変化の誘起そして新たな相互作用の形成という過程で進むところに特徴がある。ここでの相互作用は、安定複合体の形成のような強固なものとは異なっており、ソフトな分子間相互作用と定義できる。この相互作用は必ずしも強くはないが、正確な相互認識と確実なインターフェイス機能の実現を特徴としている。

本領域ではソフトな分子間相互作用という新しい視点を踏まえつつ、膜インターフェイスを制御する分子メカニズムを構造生物学的な立場から解明する。この目的を達成するために、構造生物学、バイオインフォマティクス、細胞生物学、分子生物学等、さまざまな分野の研究者が密接に協力して研究を進める。研究対象としては生体膜における情報変換と物質輸送を中心的に取り上げる。新しい研究法の開発も重視する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による、2年間の意欲的な研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は400万円程度とする。採択目安件数は概ね30件程度を予定している。

特に、優れた若手による独創的研究の提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.protein.osaka-u.ac.jp/biophys/priority/index.html>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 生命秩序の膜インターフェイスにおける信号変換の制御
- A02 生命秩序の膜インターフェイスにおける物質移動の制御
- A03 生命秩序の膜インターフェイスを制御するソフトな分子間相互作用の新規な解析法

(平成17年度公募研究 平均配分額 3,142千円 最高配分額 3,500千円)

27 生体ナノシステムの制御

領域略称名：生体ナノシステム
領域番号：509
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：樋口 秀男
所属機関：東北大学先進医工学研究機構

細胞の機能制御には多数のタンパク質が関与するために、タンパク質個々の機能制御だけでは細胞機能の再構築が困難である。細胞レベルの理解とタンパク質分子レベルの理解とをつなぐためには、分子と細胞の中間に位置する、多種類のタンパク質からなる複合体「ナノシステム」とこれらがさらにネットワーク状に統合された「高次ナノシステム」の理解が重要である。本領域の目的は、タンパク質分子の制御機能と細胞の制御機能とを関連づけて理解すると同時に、細胞の制御機構を統合的に理解することである。そのために、運動タンパク質を中心として構築されたナノシステムの構造と制御機能を解明し、より高次のナノシステムの制御を基本制御過程に分解して理解し、細胞機能の制御の統合的な理解へとつなげる。古くから研究が進められているCaやリン酸化による制御に加え、“力”を制御因子の一つとして扱うのが本領域の特長である。

本領域では研究項目を3つに分け、研究項目(A01)では、精製した複数の運動タンパク質やDNA制御タンパク質等を用いてナノシステムを再構築し、1種類のナノシステムの運動や転写の制御メカニズムを解明する。研究項目(A02)では、精製したタンパク質だけでなく、細胞内の複数のナノシステムで構成された高次ナノシステムの制御を理解する。研究項目(A03)では、細胞内の輸送や運動に関与するナノシステムの時空間解析を行い、高次ナノシステムで得られた結果と照らし合わせ統合的な理解をおこなう。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円を上限とする。採択目安件数は、概ね15件程度を予定している。なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.cir.tohoku.ac.jp/higuchi-p/NanoSystem/index.htm>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 ナノシステムの構築と制御機構
- A02 高次ナノシステムの制御
- A03 細胞内ナノシステムの統合

(平成17年度公募研究 平均配分額 2,673千円 最高配分額 3,200千円)

28 細胞核ダイナミクス

領域略称名：核ダイナミクス
領域番号：510
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：米田 悦啓
所属機関：大阪大学大学院生命機能研究科

細胞増殖、発生・分化、生殖、老化など、ゲノム機能に密接に関連した生命活動の理解のためには、ゲノムが納められている細胞核の構造とその構築原理を知ることが必要不可欠である。一方、近年のゲノム解析の進展により、「核膜病」と総称される、核膜内膜や核ラミナのタンパク質の変異が原因となる遺伝病をはじめとして、様々な疾患が核タンパク質の異常によって引き起こされることが分かってきた。また、再生医学の進展に重要な核のリプログラミングの問題など、細胞核の構造と機能に直結した課題は枚挙に暇がない。

本領域では、従来の分子細胞生物学、生化学、分子遺伝学の手法に、最新のイメージング技術を組み合わせることにより、ゲノム機能を支える基盤としての細胞核構造のダイナミクスを解析し、核の高次構造（アーキテクチャー）がどのように構築され、それが様々な生命現象の機能発現にどのように関与しているかを統合的に理解することを目指す。細胞核の構築と機能を理解するという本領域は、細胞分裂、細胞周期、細胞増殖・分化、個体の発生や老化はもちろんである。環境応答や進化の問題にまで幅広く関連するため、学際的・横断的な研究を展開する必要があると考える。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、独創的なアプローチで細胞核の機能解析や可視化・画像解析・シミュレーション技術の画期的革新に挑戦しようとする一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、500万円程度とする。採択目安件数は、概ね12件程度を予定している。

特に、若手研究者による独創的・革新的研究や、様々な専門領域の研究者による細胞核に焦点を当てた斬新な学際的研究の提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ(<http://www.nuclear-dynamics.jp>)を参照すること。

(研究項目)

- A01 細胞核ダイナミクスの研究

(平成17年度公募研究 平均配分額 3,106千円 最高配分額 3,700千円)

29 植物の環境適応戦略としてのオルガネラ分化

領域略称名：オルガネラ分化
領域番号：511
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：西村 幹夫
所属機関：自然科学研究機構基礎生物学研究所

植物は細胞内のオルガネラを柔軟に変化させることによって環境変化に適応している。こうしたオルガネラ分化の柔軟性は、オルガネラの相互作用を通して植物の環境適応能を形成し、植物という生命体の環境適応に固有の特徴を与えている。植物の環境適応戦略を理解する上で、従来の静的な解析によって形成されたオルガネラ観とは異なった動的な植物オルガネラの理解が急務である。本特定領域研究では、植物オルガネラの分化、誘導、相互作用を基盤として、植物個体の示す精緻な環境応答メカニズムの解明をめざす。研究のアプローチとしては、オルガネロームをはじめとする特徴あるポストゲノム解析拠点を本領域で設定しており、これを駆使して研究を推進する。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円程度とする。採択目安件数は概ね20件程度を予定している。なお、動的オルガネラ分化に関する課題に厳密に合致するものではなくても、関連がある意欲的なテーマ、特に植物個体の示す高次機能発現機構をオルガネラ機能に基づいて解明をめざす公募研究の応募を歓迎する。研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.nibb.ac.jp/organelles/>) を参照すること。

(研究項目)

A01 オルガネラ分化による環境適応メカニズム

(平成17年度公募研究 平均配分額 2,600千円 最高配分額 3,400千円)

30 性分化機構の解明

領域略称名：性分化
領域番号：512
設定期間：平成16年度～平成20年度
領域代表者：諸橋 憲一郎
所属機関：自然科学研究機構基礎生物学研究所

生物は二つの性(雄と雌)を獲得することで、有性生殖を確立した。この生殖のプロセスは、次世代に遺伝情報を受け継ぐことで種の存続を可能にしたばかりでなく、遺伝的多様性を生み出す原動力となった。従って、雌雄の分化こそが地球上の多様な種の繁栄を可能にした基本原理であり、性の分化は極めて重要な研究対象である。一般に、個体の性分化は生殖腺の性決定に始まり、次いで雌雄生殖腺で産生される性ホルモンの作用を通じ、脳を含む体全体へと広がる。この性分化の過程は動物種間における多様性、及び雄性化シグナルと雌性化シグナルのバランスの上に成り立つ可塑性を特徴とする。また一方で、このような古典的概念にとらわれない新たな視点、すなわち細胞自律的な性の確立の重要性も指摘されている。本領域においてはこのような特徴に着目することで、性分化の包括的理解を通じ、その普遍的分子メカニズムの解明を目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は公募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、200万円程度(10件程度)及び500万円程度(20件程度)としており、採択目安件数は、3研究項目の合計で概ね30件程度を予定している。特に若手研究者の独創的かつ挑戦的な研究提案を期待する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.nibb.ac.jp/seibunka/>) を参照のこと。

(研究項目)

A01 性分化の分子基盤の解析
A02 脳の性分化と行動の解析
A03 性分化異常症の解析

(平成17年度公募研究 平均配分額 2,909千円 最高配分額 5,000千円)

31 感染現象のマトリックス

領域略称名：感染マトリックス
領域番号：520
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：野本 明男
所属機関：東京大学大学院医学系研究科

感染現象は、病原微生物と宿主の間に形成される生命現象である。この生命現象は、病原微生物の分子群と宿主の分子群との間に生じる数多くの生物学的反応の結果として成立している。本研究では、個体における病原微生物の感染・増殖・体内伝播に対し、正又は負に影響を与える宿主分子を発見し、その感染現象における機能を明らかにすることを目的とする。微生物分類に従い、代表的な病原微生物をウイルス、細菌、寄生虫の中から選び（縦糸の研究）、その増殖・生活環、病原性発現（横糸の研究）のマトリックス的研究をモデル研究として展開する。さらに感染に対する宿主の応答機構を分子レベルで明らかにすることにより、広く感染現象の成立に関する理解を深めると共に、この分野の人材育成システムの構築を目指す。病原微生物という外来性因子を道具として使う本領域のような研究から、他の研究領域からは見えにくい生命を支える重要なメカニズムを明らかにすることも目的である。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、1000万円程度（14件程度）と500万円程度（32件程度）とし、採択目安件数は、概ね46件程度を予定している。

(研究項目)

(ウイルスの増殖・生活環と病原性発現機構)

- A01 DNAウイルス
- A02 プラス鎖RNAウイルス及び二本鎖RNAウイルス
- A03 マイナス鎖RNAウイルス
- A04 レトロウイルス (HIV、その他)

(寄生虫の増殖・生活環と病原性発現機構)

- C01 マラリア原虫
- C02 その他の原虫
- C03 蠕虫

(細菌の増殖・生活環と病原性発現機構)

- B01 細胞外増殖性グラム陽性菌
- B02 細胞外増殖性グラム陰性菌
- B03 細胞内寄生細菌及び抗酸菌
- B04 細菌毒素

(感染と宿主応答)

- A05 ウイルス感染
- B05 細菌感染
- C04 寄生虫感染

32 膜超分子モーターの革新的ナノサイエンス

領域略称名：革新的ナノバイオ
領域番号：521
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：野地 博行
所属機関：大阪大学・産業科学研究所

ATP合成酵素やべん毛モーターなど、膜超分子モーターに関する研究は、化学反応やイオン流に伴うダイナミックな構造変化を原子レベルで詳細に議論する、先端的なタンパク質科学へと発展した。本領域では、マイクロ・ナノ加工技術 (MEMS, microTAS)、1分子3次元計測技術、膜タンパク質1分子可視化技術、超分子構造解析技術、そして、タンパク質の構造変化とそれに伴う電子状態を計算する分子シミュレーション技術などの専門家が、創造的な共同研究を促進することを計画している。例えば、1分子計測と量子化学計算の連携研究、1分子操作と超微小チャンバーを組み合わせたモーターの反応効率測定、1分子操作と1分子蛍光偏光測定を組み合わせた分子内部の構造変化検出などである。このような戦略的共同研究により、原子レベルでの膜超分子モーターの動作と制御機構を理解することを目指す。

本領域研究はエネルギー変換を担うタンパク質の構造機能相関に関する基礎研究である。計画研究では膜超分子モーターの研究に特化した研究を推進するが、公募研究においてはこれにとらわれることなく、タンパク質の構造機能相関に関する良質な研究を募集する。主にエネルギー変換を担う生体分子 (トランスポーター、イオンポンプ、分子モーターなど) に関する研究を想定しているが、それ以外のタンパク質に関する研究も可能である。また、タンパク質研究のための新しい方法論も募集する。マイクロデバイス、イメージング技術、構造解析、シミュレーションなどの技術開発や、タンパク質のダイナミクスに関する理論研究、人工分子機械の開発など、本領域研究を触発するような提案も待ちたい。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円程度とする。採択目安件数は、概ね20件程度を予定している。

(研究項目)

- A01 膜超分子モーターの分子機構の解明
- A02 膜超分子モーターを解析する1分子ナノバイオ技術の創出
- A03 構造解析と分子シミュレーション

33 植物の生殖過程におけるゲノム障壁

領域略称名：植物ゲノム障壁
領域番号：522
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：倉田 のり
所属機関：国立遺伝学研究所

ゲノムは生物種固有の設計図である。ゲノムには、他の生物種のゲノムと容易には混ざり合わない仕組み、すなわち「ゲノム障壁」が存在することで種としての同一性を維持している。人類は、古代より膨大な植物種を交雑し、ゲノム障壁を打破できる希少な組合せを見出すことで、異種ゲノムを融合し、新たな植物種を生み出してきた。しかしこの有史以来の育種は、ゲノム障壁の実体が不明であるために、効率的な育種技術とはなり得ていない。論理に基づく作物育種のためには、花粉・胚嚢形成、受粉、受精、種子形成の不全として観察される植物の「ゲノム障壁」機構を分子レベルで解明する必要がある。

本領域では、生殖過程に潜む一連の「ゲノム障壁」制御遺伝子の機能と相互作用を統合的に研究し、「ゲノム障壁」機構の全容解明を目指す。本研究成果は、植物ゲノム障壁・生殖機構の理解に止まらず、異種ゲノムを有する遠縁種間ハイブリッド作物作出の基盤的技術の提供にもつながる。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。

公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円程度とする。採択目安件数は、概ね10件程度を予定している。なお、挙げられている具体的な研究課題に厳密に合致するものではなくても、関連がある意欲的なテーマの公募研究の応募は歓迎する。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.nig.ac.jp/labs/PlantGenBarr/index.html>) を参照すること。

(研究項目)

A01 植物ゲノム障壁の分子メカニズム

34 タンパク質分解による細胞・個体機能の制御

領域略称名：タンパク質分解
領域番号：523
設定期間：平成18年度～平成22年度
領域代表者：水島 昇
所属機関：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

タンパク質分解は不要・有害分子の除去を行っているだけでなく、さまざまな生体機能を積極的にコントロールしていることが明らかとなっている。従ってタンパク質分解は、いわゆるセントラルドグマに続く重要な生体機能制御系として捉えることができる。細胞内には主要なタンパク質分解系として、「ユビキチン・プロテアソーム系」、「オートファジー・リソソーム系」、「カルパイン系」などが存在する。タンパク質分解研究はそれぞれの分解系ごとに独立した研究領域としてその基盤を構築し、めざましい発展を遂げてきた。一方、近年の細胞生物学、代謝生理学、病態生理学などの研究成果から、これらの分解系が密接に連携していることも明らかとなり、より統合的なアプローチが生命現象の理解や病態形成機構の解明に必要であると考えられる。

本領域では、急速に発展するタンパク質分解のこのような研究背景を踏まえ、タンパク質分解による細胞・個体機能制御を統合的に理解することを目的とする。特に、分解制御の分子機構の解明と、分解系の連携を視野に入れた生物学的意義の解明を目指す。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円程度とする。採択目安件数は、概ね20件程度を予定している。特に、バイオロジーの視点に立ったタンパク質分解研究の提案を期待する。また、細胞や個体機能に直結する場合は、必ずしも細胞内分解系に限らず、細胞外や細胞膜内分解系についても対象とする。

なお、研究内容の詳細については、領域ホームページ (<http://www.rinshoken.or.jp/ER/PRBP/index.html>) を参照すること。

(研究項目)

A01 タンパク質分解による細胞・個体機能の制御

35 セルセンサーの分子連関とモーダルシフト

領域略称名：細胞感覚

領域番号：524

設定期間：平成18年度～平成22年度

領域代表者：富永 真琴

所属機関：自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター

細胞は、それを取り巻く環境の変化の中で、その環境情報を他のシグナルに変換し、細胞質・核や周囲の細胞に伝達することによって環境変化にダイナミックに対応している。さらに、細胞で得られた感覚情報は生物個体の生存適応に必要な個体の感覚情報へと統合される。

本領域では、細胞外環境情報の検出及びシグナル変換に関わる細胞感覚分子群をセルセンサーとして総括することにより、細胞外環境情報の受容をセルセンサーが空間・時間・種間においてダイナミックにその動作機構、環境情報種、感受性や発現の様相などを変えること（モーダルシフト）によって実現される生存応答及び個体の生存適応というベクトルの中で捉えて、セルセンサーのセンシング機構解明から「細胞感覚」研究の新たな展開を目指す。セルセンサーのモーダルシフトを理解するために、特に、以下の視点で研究を進める。セルセンサーをセンシングモジュールの統合体と捉えて、モジュール間の相互作用に焦点をあててセルセンサーの新規動作機構を解明する(A01)。また、1つのセルセンサー単独で情報をセンスするのではなく、セルセンサーのセンサー・センサー間相互連関、セルセンサーと他の蛋白質との相互連関から情報統合がなされることに焦点をあててセンシング機構を解明する(A02)。さらに、セルセンサーが環境適応と生存応答のためにどのようにセンサー自身を変化させているかに焦点をあててセンシング機構を解明する(A03)。

このため、次の研究項目について、「計画研究」により重点的に研究を推進するとともに、これらに関連する一人又は少数の研究者による2年間の独創的な研究を公募する。1年間の研究は応募の対象としない。公募研究の単年度当たりの応募額は、400万円を上限とする。採択目安件数は、概ね12件程度を予定している。

なお、研究の詳細については、領域ホームページ (<http://www.nips.ac.jp/cellsensor>) を参照すること。

(研究項目)

- A01 セルセンサーの新規動作機構
- A02 センサー・センサー相互連関と情報統合
- A03 セルセンサーの環境適応と生存応答

(ウ)重複応募の制限

(a)研究代表者（別表7 51頁参照）

- ア)「(ア) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合
別表7の「×」に該当する場合
- イ)「(イ) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない」場合
別表7の「△」及び「▲」に該当する場合
- ウ)「(ウ) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択となった場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合
別表7の「□」及び「■」に該当する場合

(b)研究分担者（別表8 52頁参照）

- ア)「(ア) 双方の応募研究課題とも審査に付されない」場合
別表8の「×」に該当する場合
- イ)「(イ) ルールで定められた一方の応募研究課題が審査に付されない」場合
別表8の「△」及び「▲」に該当する場合
- ウ)「(ウ) 双方の応募研究課題とも審査に付されるが、双方が採択となった場合には、ルールで定められた一方の研究課題の研究のみ実施する」場合
別表8の「□」に該当する場合

「特定領域研究」の継続の研究領域の研究代表者に関する重複応募の制限

※ 新規の研究領域については、別表3（19頁）、別表4（20頁）を参照してください。

1. 同一研究者が、計画研究の研究代表者として応募できる研究領域数は、1件に限る（支援班に係る研究課題を除く。）。
2. 継続の研究領域の計画研究（支援班に係る研究課題を除く。）の研究代表者は、他の研究領域の研究課題（支援班に係る研究課題を除く。）の研究代表者として応募してはならない。
3. 同一研究者が、同一研究領域に応募できる研究課題数は1件に限る（ただし、総括班、支援班及び調整班に係る研究課題を除く。）。この場合、計画研究であるか、公募研究であるか、研究代表者であるか、研究分担者であるかを問わない。
4. 上記「1～3」に加え、継続の研究領域の新規課題に研究代表者として応募しようとする者及び継続課題の研究代表者（A欄）には、B欄の研究種目との間で、次表の重複応募の制限が課される。

A欄			B欄			特定領域研究																				特別推進研究		若手研究 スタートアップ		学術創成研究費		特別研究員奨励費 ・ 奨励研究											
						A欄と同一の研究領域										左記以外の研究領域																											
						計画研究					公募研究					計画研究					公募研究																						
						総括班		支援班		調整班		その他			新規		継続			総括班		支援班		調整班												その他			新規		継続		
						新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続											新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者	代表者	分担者												
継続の研究領域	計画研究	総括班	新規	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
		継続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
	支援班	新規	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
		継続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
	調整班	新規	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
		継続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
	その他	新規	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
		継続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
	公募研究	新規	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
		継続	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										

注1. 継続の研究領域に、代表者として応募する計画研究・公募研究と、「基盤研究」、「萌芽研究」、「若手研究（A・B）」及び「特別研究促進費（年複数回応募の試行）」との間で、重複応募の制限は課されない。

注2. 表の見方

- 「空欄」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付される
- 「×」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されない
- 「△」：A欄の応募研究課題のみ審査に付される
- 「▲」：B欄の応募研究課題のみ審査に付される
- 「□」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されるが、B欄の「特別推進研究」の応募研究課題が採択された場合には、A欄の「特定領域研究」の研究課題の研究を実施してはならない
- 「■」：A欄、B欄の応募研究課題とも審査に付されるが、A欄の「特定領域研究」の研究課題が採択された場合には、B欄の「若手研究スタートアップ」の研究課題の研究を実施してはならない。
- 「-」：公募要領に定めるルールにしたがえば、A欄、B欄の重複応募はあり得ないなど、重複の状況により対応が異なる

③平成18年度に設定期間が終了する研究領域

(7) 対象

平成18年度に設定期間が終了する別表9-1(54頁)及び別表9-2(55頁)の研究領域(以下「終了研究領域」という。)

(イ) 応募資格者

終了研究領域の領域代表者

(ロ) 対象となる経費

終了研究領域の研究成果の取りまとめを行うための経費

(エ) 応募金額

- ア) 「公募研究」を設けていない8研究領域(別表9-1) 150万円以内
- イ) 「公募研究」を設けている12研究領域(別表9-2) 300万円以内

(オ) 重複応募の制限

終了研究領域の領域代表者(総括班の研究代表者)が、研究成果の取りまとめを行うために応募する場合には、研究代表者及び研究分担者について、同一の研究種目及び他の研究種目との間で重複応募の制限は課されません。

(カ) 応募方法

(a) 応募等の時期

研究機関が行う諸手続の期限等に留意して、研究代表者の手続を進めてください。

8月下旬～ 必要に応じ、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書」及び「ID・パスワード」を発行

9月上旬～11月中旬 各研究機関から研究者へ「ID・パスワード」を発行

9月上旬～ 各研究者による研究計画調書の作成(応募情報のWeb入力及び応募内容ファイルの作成)

応募内容ファイルの様式は、「ID・パスワード」取得前でも文部科学省科学研究費補助金ホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm)から取得できます。

11月16日(木) 応募締め切り

(b) 応募書類

応募書類	提出部数
・様式S-1-5 研究計画調書(終了研究領域)	2部

注1. 研究計画調書の前半部分は、応募情報(Web入力項目)(※1)を出力(印刷)して使用してください。「電子申請システム」を利用した応募情報の入力方法等については、別添1-3(56、57頁)を参照してください。

※1 応募情報(Web入力項目)…研究課題名等応募研究課題に係る基本データ、研究組織に係るデータ等

注2. 研究計画調書の後半部分は、応募内容ファイル(※2)をダウンロードして作成してください。

※2 応募内容ファイル…研究目的、研究計画・方法等の研究計画の内容に係る事項

(c) 提出期間

領域代表者は、所属する研究機関が指定する期日までに、当該研究機関に応募書類を提出してください(各研究機関から文部科学省への提出期間は、63頁を参照してください。)

平成18年度に設定期間が終了する研究領域一覧（「公募研究」を設けていない研究領域）（8の研究領域）

領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	領域代表者名（研究機関）
606	資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築—象徴系と生態系の連関をとおして—	資源人類学	14～18	内堀 基光（東京外国語大学）
763	超弦理論と場の理論のダイナミクス	弦と場の理論	13～18	二宮 正夫（京都大学）
764	赤道大気上下結合	赤道大気上下結合	13～18	深尾 昌一郎（京都大学）
766	分子プログラミング—分子レベルの情報処理機構の設計論—	分子計算設計論	14～18	萩谷 昌己（東京大学）
768	マイクロ・ナノバイオメカニクスの開拓	ナノバイオメカ	15～18	和田 仁（東北大学）
769	分子スピン：ナノ磁石から生体スピン系まで	分子スピン	15～18	阿波賀 邦夫（名古屋大学）
770	障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究	情報福祉の基礎	16～18	市川 熹（千葉大学）
840	ストレス応答シグナル伝達経路の制御機構	ストレスシグナル	14～18	斎藤 春雄（東京大学）

平成18年度に設定期間が終了する研究領域一覧（「公募研究」を設けている研究領域）（12の研究領域）

領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	領域代表者名（研究機関）
008	新世紀型理数科系教育の展開研究	理数科系教育	14～18	増本 健（東北大学）
397	RNA情報発現系の時空間ネットワーク	RNA情報網	13～18	中村 義一（東京大学）
398	植物発生における軸と情報の分子基盤	植物の軸と情報	13～18	福田 裕穂（東京大学）
399	タンパク質の一生：細胞における成熟、移動、品質管理	タンパク質の一生	13～18	吉田 賢右（東京工業大学）
417	光機能界面の学理と技術－光エネルギーを有効利用するサステイナブルケミストリー	光機能界面	13～18	藤嶋 昭（神奈川科学技術アカデミー）
421	ブラックホール天文学の新展開	ブラックホール	14～18	牧島 一夫（東京大学）
422	火山爆発のダイナミクス	火山爆発	14～18	井田 喜明（兵庫県立大学）
424	多次元医用画像の知的診断支援	知的画像診断支援	15～18	小畑 秀文（東京農工大学）
432	分子系の極微構造反応の計測とダイナミクス	極微構造反応	16～18	増原 宏（大阪大学）
501	幹細胞の可塑性と未分化性維持機構	幹細胞	14～18	中内 啓光（東京大学）
502	糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節	グライコミクス	14～18	古川 鋼一（名古屋大学）
503	免疫監視の基盤とその維持・制御	免疫監視	15～18	渡邊 武（理化学研究所）

電子申請システムを利用した「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募の手続

「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募情報については、日本学術振興会電子申請システム（以下「電子申請システム」という。）により提出してください。

「電子申請システム」を利用するに際しては、以下の手続が必要となります。

（１）研究機関が行う事前手続

- ① 応募を予定している研究者がいるが、研究機関用の電子証明書及び I D ・パスワードを有していない場合は、「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」を返信用封筒（「A 4」3 枚が入る返送先が記載されているもの）を同封のうえ、日本学術振興会システム管理課に提出（提出された依頼書に基づき、日本学術振興会から「研究機関用の電子証明書及び I D ・パスワード」を送付します。）してください。
 - ※ 1. 既に電子証明書及び I D ・パスワードを取得している研究機関は、再度発行依頼書を提出する必要はありません。
 - ※ 2. 科学研究費補助金の各研究種目毎に電子証明書及び I D ・パスワードを取得する必要はありません。
 - ※ 3. 「日本学術振興会電子申請システム電子証明書発行依頼書（科学研究費補助金用）」の様式は、「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jstps.go.jp/>）から取得してください。
- ② 研究機関用の電子証明書及び I D ・パスワードを取得後、研究代表者として応募を予定している研究者に対し、研究機関において I D ・パスワードを付与してください。
 なお、研究機関が研究者に対し I D ・パスワードを付与する時点で、当該研究者が研究機関の研究者名簿に登録されていることが必要です。
 一度付与された I D ・パスワードは研究機関を異動しない限り使用可能です。（パスワードを変更した場合を除く。）

（２）研究者が行う手続

- ① 「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」に研究代表者として応募する研究者は、所属する研究機関から付与された I D ・パスワードで日本学術振興会の「電子申請システム」にアクセス（<http://www-shinsei.jstps.go.jp/>）し、応募情報（W e b 入力項目）を入力してください。
- ② 作成した応募情報（W e b 入力項目）を印刷し、別途ダウンロードした様式により作成し、印刷した応募内容ファイルの上に付けて研究計画調書を作成し、所属する研究機関に提出してください。

（３）研究機関が行う手続

- ① 応募者から提出された研究計画調書について、内容等に不備がないかを確認してください。
- ② 電子申請システムホームページにアクセスし、提出された研究計画調書の版数がチェックリストに記載された版数と同じであることを確認してください。
- ③ 内容等に不備のないすべての研究計画調書について、チェックリストの確定処理を行ってください。
- ④ 研究計画調書をチェックリストの順に並べ替え、電子申請システムより出力（印刷）した表紙（様式 T - 2 - 1）を添付してください。
- ⑤ 研究計画調書を、文部科学省へ提出してください。
 研究機関によるチェックリストの確定処理がなされた応募情報のみ、「電子申請システム」による応募情報が提出（送信）されたこととなります。研究機関によりチェックリストの確定処理がされた応募情報については、その内容について確定後に変更することはできません。
 また、本システムで使用する電子証明書や I D ・パスワードについては研究機関や個人を確認するものであることから、その取扱、管理についても十分留意のうえ、応募の手続を行ってください。
 なお、電子申請についての詳細は、電子申請システムホームページ「電子申請のご案内」（<http://www-shinsei.jstps.go.jp/>）をご参照ください。

問合せ先

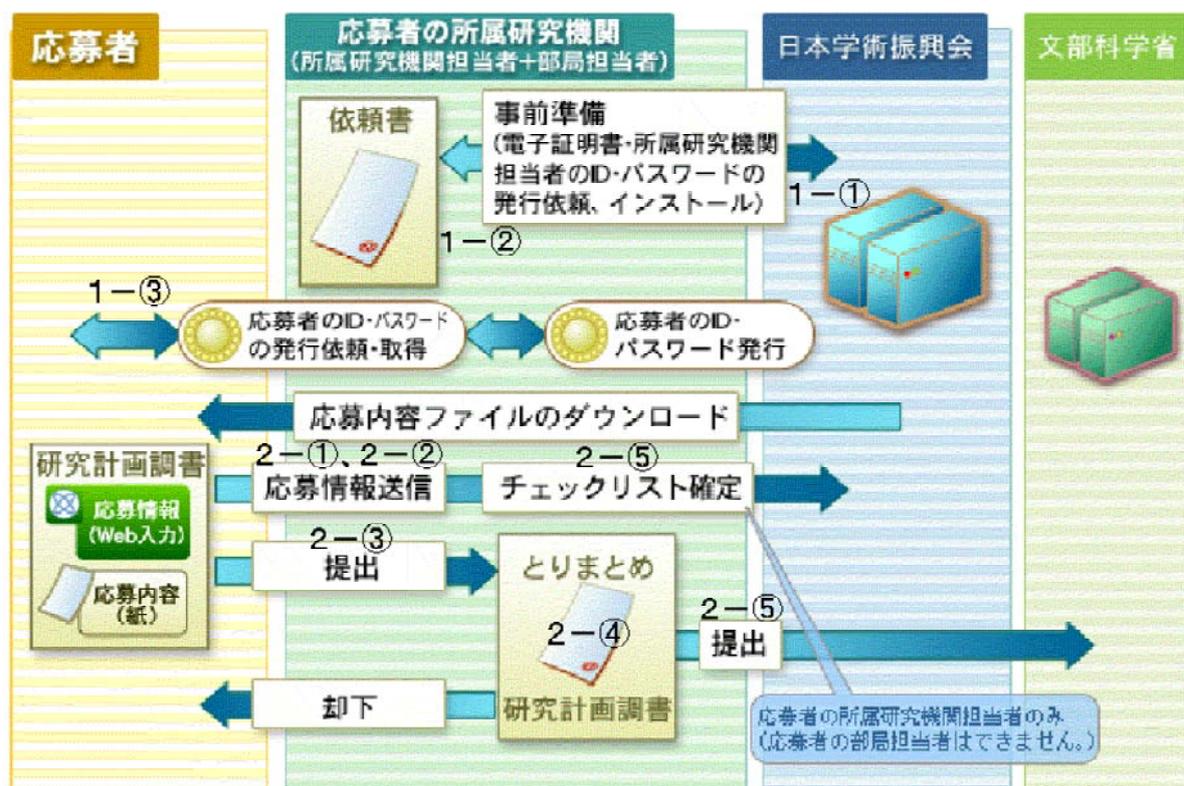
電子申請システムの利用に関すること：日本学術振興会総務部システム管理課

電話 コールセンター0120-556739（フリーダイヤル）、03-3263-1902, 1913

公募の内容に関すること：文部科学省研究振興局学術研究助成課 電話 03-5253-4111（内線4087）

（公募に関するお問い合わせは、研究機関を通じて行ってください）

電子申請手続きの概要（特定領域研究（継続の研究領域及び終了の研究領域））



【応募者（研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 1-① 必要に応じ、応募者の所属研究機関担当者は、電子証明書（通信するために必要なデータ）の発行申請依頼を、郵送にて日本学術振興会システム管理課宛送付する。
- 1-② 日本学術振興会から応募者の所属研究機関に電子証明書とID・パスワードを発行し、送付する。（8月下旬～）
- 1-③ 応募者の所属研究機関担当者は、応募者にID・パスワードを発行する。

【応募者（研究代表者）】

- 2-① 応募者は受領したID・パスワードで、「電子申請のご案内」から電子申請システムにアクセスし、応募情報（Web入力項目）を入力する。
- 2-② 応募者が作成した応募情報（Web入力項目）に不備がなければ、完了操作を行うことで所属研究機関担当者に応募情報（Web入力項目）を提出したことになる。
- 2-③ 応募者は、作成した応募情報（Web入力項目）を印刷し、別途ダウンロードした様式により作成し、印刷した応募内容ファイルの上に付けて研究計画調書を作成し、所属する研究機関に提出する。

【応募者（研究代表者）の所属する研究機関の担当者】

- 2-④ 応募者の所属研究機関担当者は、応募者から提出された研究計画調書について、内容等に不備がないかを確認する。
- 2-⑤ 応募者の所属研究機関担当者は、応募情報が一覧表示された「チェックリスト」を確定し、応募情報を日本学術振興会に提出（送信）するとともに研究計画調書を文部科学省に提出する。

※ 詳細は電子申請システムホームページ（<http://www.shinsei.jps.go.jp/>）内から「操作手引」をダウンロードしてください。

(3) 特別研究促進費

①突発的に発生した災害に関する緊急の研究

他の研究種目の応募書類の提出時には予想できなかった研究課題（突発的に発生した災害に関する研究など）であり、かつ、平成19年度に実施しなければならない緊急の研究課題（早急に研究を開始しないと対象が滅失してしまう研究など）であって、極めて重要なものが発生した場合には、文部科学省研究振興局学術研究助成課（電話03-6734-4095）に、研究機関を通じて連絡・相談してください。

なお、上記の緊急の研究課題に関して「特別研究促進費」に応募しようとする研究代表者及び研究分担者については、同一の研究種目及び他の研究種目との間で重複応募の制限は課されません。

②年複数回応募の試行

「特別研究促進費」（年複数回応募の試行）については、本公募要領では対象としていません。別途通知予定の「平成19年度科学研究費補助金公募要領【特別研究促進費（年複数回応募の試行）】」により応募してください。

Ⅲ 研究機関が行う事務

1 応募資格の確認

応募書類に記載された研究代表者及び研究分担者が、文部科学省の「平成19年度科学研究費補助金公募要領（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費）」（以下「公募要領」という。）に定める応募資格を有する者であるとともに、「研究者名簿」に登録されているか確認すること。

また、補助金の不正な使用に伴う補助金の交付対象から除外されている者でないことを確認すること。

2 研究代表者への確認

応募書類に記載された研究代表者及び研究分担者が、公募要領に定める「Ⅱ 公募の内容」を確認した上で応募書類を作成していることを確認すること。

3 応募に係る手続

次の手続を行うこと。

- (1) 電子申請システムを利用した応募の手続（別添1-1（15頁）、別添1-2（22頁）及び別添1-3（56頁）参照）
- (2) 公募要領の内容の周知
- (3) 別紙1による応募書類の確認・取りまとめ及び文部科学省への提出

4 研修会・説明会の実施状況等の報告

(1) 研修会・説明会の実施状況の報告

補助金の不正な使用を防止するため、研究者及び事務職員を対象として実施した、研修会・説明会の実施状況及び結果について、様式T-3「内部監査等の実施状況報告書の提出書」により文部科学省及び日本学術振興会に報告すること。

(2) 無作為抽出による内部監査の実施状況の報告

内部監査の実施状況及び結果について、様式T-3「内部監査等の実施状況報告書の提出書」により文部科学省及び日本学術振興会に報告すること。

(3) 研究機関における事務担当者の報告

科学研究費補助金に係る事務担当者を、様式T-4「科学研究費補助金事務担当者名簿」により文部科学省及び日本学術振興会に報告すること。

(4) 研究機関における検収体制の整備状況についての報告

検収（納品検査）体制の整備状況について、様式T-5「検収（納品検査）の実施体制に関する整備状況報告書」により文部科学省及び日本学術振興会に報告すること。

(5) 研究機関の変更等の報告

次の事項のいずれかについて変更等を予定している場合には、その内容を速やかに文部科学省に報告すること。

- ① 研究機関の廃止又は解散
- ② 研究機関の名称及び住所並びに代表者の氏名
- ③ 研究機関の設置の目的、業務の内容、内部組織を定めた法令、条例、寄附行為その他の規約に関する事項

応募書類の取りまとめ等

1 応募書類の取りまとめ

(1) 特別推進研究

別添 1-1 「電子申請システムを利用した「特別推進研究」の応募の手続」(15頁)に定める「(1) 研究機関が行う事前手続」及び「(3) 研究機関が行う手続」を行うこと。

(2) 特定領域研究（新規の研究領域）

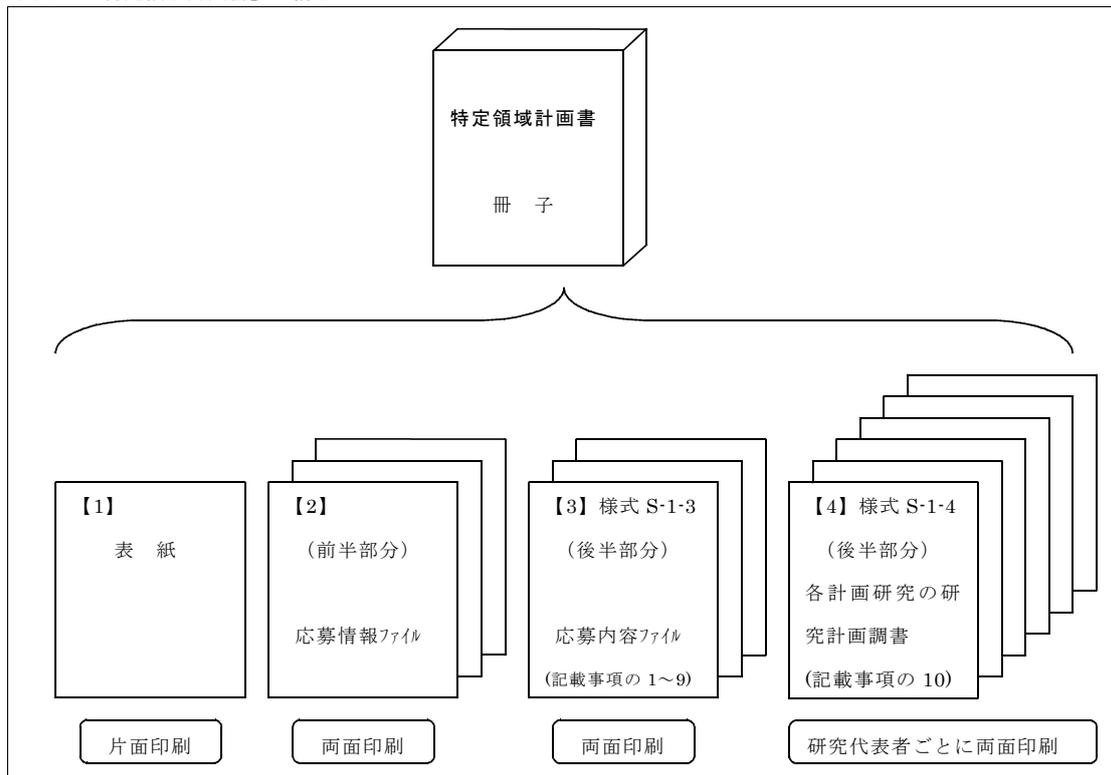
別添 1-2 「電子申請システムを利用した「特定領域研究(新規の研究領域)の応募の手続」(22～24頁)に定める「(1) 研究機関が行う事前手続」及び「(4) 計画研究の研究代表者が所属する研究機関が行う手続」を行うこと。また、領域代表者が所属する研究機関においては、「(1) 研究機関が行う事前手続」及び「(4) 計画研究の研究代表者が所属する研究機関が行う手続」に加えて、「(6) 領域代表者が所属する研究機関が行う手続」を行い、以下の手順にしたがって、領域代表者から提出される「特定領域計画書(冊子)」のとりまとめを行うこと。

① 特定領域計画書の確認

「特定領域計画書」が次の順番でまとめられ、製本されていることを確認すること(図2参照)

- ・ 特定領域計画書表紙【1】(片面印刷)
- ・ 特定領域計画書の前半部分(「応募情報ファイル」(Web入力項目))【2】(両面印刷)
- ・ 特定領域計画書後半部分(様式S-1-3)の1～9までの記載事項【3】(両面印刷)
- ・ 研究計画調書【4】(様式S-1-4を研究代表者ごとに両面印刷し、特定領域計画書の研究組織に記載された順番に整理)

図2 「特定領域計画書」の構成



② 特定領域計画書（冊子）のとりまとめ

領域代表者ごとに特定領域計画書(冊子)をまとめる〔70部〕。

(3) 特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）

別添 1-3 「電子申請システムを利用した「特定領域研究(継続の研究領域及び終了研究領域)」の応募の手続」(56頁)に定める「(1) 研究機関が行う事前手続」及び「(3) 研究機関が行う手続」

を行うとともに、以下の手順にしたがって研究計画調書の取りまとめを行うこと。

①研究計画調書の確認

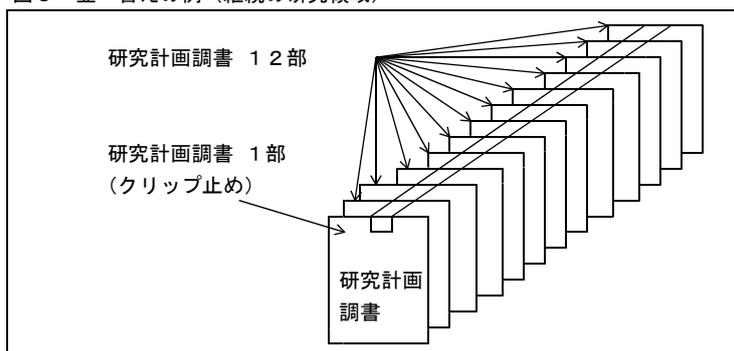
研究計画調書は、所定の用紙と同一規格とし、次の点を確認すること。

- (a) 研究計画調書の前半部分に、当該研究計画に係る応募情報（Web入力項目）を出力（印刷）して使用し、ダウンロードした様式により作成した応募内容ファイルとあわせて一つの研究計画調書を作成しているか。
- (b) 「チェックリスト」（別添1～3「電子申請システムを利用した「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募の手続」（56頁）に定める「(3) 研究機関が行う手続」参照）に記載されている版数と計画調書に記載されている版数が同一であるか。
- (c) 前半部分（応募情報）と後半部分（応募内容ファイル）がそれぞれ両面印刷されており、後半部分（応募内容ファイル）については、先頭ページがおもて面になっているか。
- (d) 研究計画調書の左横がのり付けされているか（クリップ止めした研究計画調書1部はのり付けの必要はない。）。
- (e) 左横所定の箇所に2ヶ所穴が開いているか。
- (f) 所定の用紙に正しく複写されているか。

②研究計画調書ごとのまとめ

- (a) 継続の研究領域の研究計画調書は、各研究課題ごとに、上から
 - ・クリップ止めした（のり付けしない）研究計画調書〔1部〕
 - ・研究計画調書〔12部〕の順にまとめ、クリップでとめる。（図3参照）

図3 並べ替えの例（継続の研究領域）



- (b) 終了研究領域の研究計画調書は、各研究課題ごとに、上から
 - ・クリップ止めした（のり付けしない）研究計画調書〔1部〕
 - ・研究計画調書〔1部〕の順にまとめ、クリップでとめる。

③研究計画調書の取りまとめ

研究計画調書の取りまとめは、次の要領に従うこと。

- (a) 上記「②(a)及び(b)」でまとめた各研究計画調書を、「チェックリスト」（別添1～3「電子申請システムを利用した「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募の手続」（56頁）に定める「(3) 研究機関が行う手続」参照）と同じ順番で並べ替える。
- (b) 上記「(a)」で並べ替えた研究計画調書を
 - ア) 継続研究課題
 - イ) 新規研究課題に分ける。
- (c) 上記「(b)」で分けた「ア) 継続研究課題」及び「イ) 新規研究課題」のそれぞれに「研究計画調書の表紙」（様式T-2-1）（別添1～3「電子申請システムを利用した「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募の手続」（56頁）に定める「(3) 研究機関が行う手続」参照）を添付し、所定の左横に2ヶ所穴を開け、綴りひもでとじる。（用紙はA4判（縦長）90kg程度を用いること。）

2 応募書類の提出

(1) 文部科学省に提出する応募書類の一覧は、別紙2（65頁）のとおりです。応募書類の提出に当たっては、電子申請システムにより応募情報の提出処理（「チェックリスト」の確定処理。別添1-2「電子申請システムを利用した「特定領域研究（新規の研究領域）の応募の手続」（22頁）及び別添1-3「電子申請システムを利用した「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）の応募の手続」（56頁）に定める「(3) 研究機関が行う手続」参照）を行うとともに、次の要領に従って下さい。

①「特定領域研究（新規の研究領域）」に関する書類

- ・「応募書類の提出書」（様式T-1-1）を、公募要領「Ⅲ 研究機関が行う事務（59頁参照）」の内容を確認の上、電子申請システムから出力（印刷）し、提出すること。
- ・「1 応募書類の取りまとめ(2)②」（60頁）で取りまとめた「特定領域計画書」を、まとめて提出すること。

②「特定領域研究（継続の研究領域及び平成18年度に設定期間が終了する研究領域）」に関する書類

- ・「応募書類の提出書」（様式T-1-2）を、公募要領「Ⅲ 研究機関が行う事務（59頁参照）」の内容を確認の上、電子申請システムから出力（印刷）し、提出すること。
- ・「1 応募書類の取りまとめ(3)③」（61頁）で取りまとめた「研究計画調書」を、まとめて提出すること。

③「内部監査等の実施状況報告書の提出書」（様式T-3）

別紙1-1、別紙1-2及び別紙2をあわせて作成の上、提出すること。

④「科学研究費補助金事務担当者名簿」（様式T-4）

応募の有無にかかわらず、すべての研究機関において作成の上、提出すること。なお、採択された研究課題については、当該補助金の経理責任者を報告することとなります。

⑤「検収（納品検査）の実施体制に関する整備状況報告書」（様式T-5）

応募の有無にかかわらず、すべての研究機関において作成の上、提出すること。

(2) 特定領域研究（新規の研究領域）の応募書類の提出方法

①応募書類を持参する場合

「特定領域研究（新規の研究領域）」の応募書類は、次の提出期間内に所定の受付場所に提出すること。（継続の研究領域及び終了の研究領域に係る応募書類とは提出期間が異なっているので注意すること。）

(ア) 提出期間： 平成18年11月28日（火）～11月29日（水）
（午前9時30分から正午まで及び午後1時から午後4時30分まで）

(イ) 提出先： 東京都千代田区一番町8番地（住友一番町F Sビル）
独立行政法人日本学術振興会一番町第2事務室
1階会議室（住友一番町ビル内）（予定）
（64頁「受付会場地図」参照）

②応募書類を送付する場合

(ア)「特定領域研究（新規の研究領域）」の応募書類を送付する場合は、配達証明が可能な方法（配達記録、小包、簡易書留、宅配便等）により、余裕を持って発送すること。また、封筒等の表には、「**特定領域計画書在中**」と朱書きし、「**機関番号（5桁）**」を明記すること。

(イ)送付された応募書類は、平成18年11月28日（火）までに発送したことが証明でき、11月30日（木）までに到着したものまで受理する。（特定領域計画書をすべてまとめて提出してください。）

送付先： 〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地（住友一番町F Sビル）
独立行政法人日本学術振興会 研究事業部 研究助成課 気付
「特定領域計画書受付担当」

(3) 特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）の応募書類の提出方法

①応募書類を持参する場合

「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募書類は、次の提出期間内に所定の受付場所に提出すること。（新規の研究領域に係る応募書類とは提出期間が異なっているので注意すること。）

(ア)提出期間： 平成18年11月13日（月）～11月16日（木）
（午前9時30分から正午まで及び午後1時から午後4時30分まで）

(イ)提出先： 東京都千代田区一番町8番地（住友一番町F Sビル）
独立行政法人日本学術振興会一番町第2事務室
1階会議室（住友一番町ビル内）（予定）
（64頁「受付会場地図」参照）

②応募書類を送付する場合

(ア)「特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）」の応募書類を送付する場合は、配達ができる方法（配達記録、小包、簡易書留、宅配便等）により、「第2種・第3種科研費」とは別便で、余裕を持って発送すること。また、封筒等の表には、**「第1種科研費研究計画調査書在中」と朱書きし、「機関番号（5桁）」を明記**すること。

(イ)送付された応募書類は、平成18年11月15日（水）までに発送したことが証明でき、11月17日（金）までに到着したものまで受理する。（一度提出した研究種目に係る研究課題を追加提出することはできません。）

送付先： 〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地（住友一番町F Sビル）
独立行政法人日本学術振興会 研究事業部 研究助成課 気付
「第1種科研費応募書類受付担当」

応募書類受付会場案内図

「特定領域研究」（新規領域、継続領域及び終了研究領域）

(受付会場)

〒102-8471

東京都千代田区一番町8番地（住友一番町F Sビル）

独立行政法人日本学術振興会一番町第2事務室1階会議室（予定）



【 周辺拡大図 】



(第1種科研費 問合先) 文部科学省研究振興局 学術研究助成課 研究費総括係
TEL 03-5253-4111 (内線 4091)

応募書類及び提出部数

応募書類	作成者	提出部数
(ア) 特定領域研究（新規の研究領域）		
(a) 応募書類の提出書（様式T-1-1）…（※）	研究機関	1
(b) 特定領域計画書（冊子）	研究者	各70
(イ) 特定領域研究（継続の研究領域及び終了研究領域）		
(a) 応募書類の提出書（様式T-1-2）…（※）	研究機関	1
(b) 「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる継続の研究領域 ・ 研究計画調書（様式S-1-5） 〔新規研究課題を応募する場合は様式S-1-7〕	研究者	13 （うち、クリップ止めた（糊付けしない） 研究計画調書1部）
(c) 「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる継続の研究領域 ・ 研究計画調書（様式S-1-6）	研究者	13 （うち、クリップ止めた（糊付けしない） 研究計画調書1部）
(d) 平成18年度に設定期間が終了する研究領域 ・ 研究計画調書（様式S-1-5）	研究者	2 （うち、クリップ止めた（糊付けしない） 研究計画調書1部）
(e) 研究計画調書の表紙（様式T-2-1）…（※）	研究機関	
(ウ) 内部監査等の実施状況報告書の提出書（様式T-3） 〔別紙1-1 内部監査の実施状況報告書 別紙1-2 内部監査を実施した研究課題一覧 別紙2 研修会・説明会の実施状況報告書〕	研究機関	1
(エ) 科学研究費補助金事務担当者名簿（様式T-4）	研究機関	1
(オ) 検収（納品検査）の実施体制に関する整備状況報告書（様式T-5）	研究機関	1

注. (※) の様式は、「電子申請システム」より出力（印刷）して使用してください。

IV 参考資料

1 平成18年度科学研究費補助金の交付状況

(1) 新規

平成18年8月現在

研究種目	研究課題数			配分額			1課題あたりの配分額	
	応募 件数	採択 件数	採択率 %	採択分の応募額 円	配分額 円	充足率 %	平均 円	最高 円
科学研究費	[92,377] 97,517	[19,934] 20,925	[21.6] 21.5	[95,236,397,000] 87,840,788,000	[72,209,800,000] 67,477,950,000 【 4,379,880,000 】	[75.8] 76.8	[3,622,444] 3,224,753	[190,300,000] 311,300,000
特別推進研究	[151] 149	[20] 18	[13.2] 12.1	[1,773,022,000] 2,243,896,000	[1,596,200,000] 1,950,700,000 【 585,210,000 】	[90.0] 86.9	[79,810,000] 108,372,222	[190,300,000] 311,300,000
特定領域研究	[9,497] 8,713	[2,186] 1,916	[23.0] 22.0	[22,139,693,000] 12,608,983,000	[16,632,000,000] 10,086,000,000	[75.1] 80.0	[7,608,417] 5,264,092	[177,500,000] 150,000,000
基盤研究(S)	[455] 454	[74] 82	[16.3] 18.1	[2,299,641,000] 2,246,016,000	[1,992,800,000] 1,976,000,000 【 592,800,000 】	[86.7] 88.0	[26,929,730] 24,097,561	[61,800,000] 58,700,000
基盤研究(A)	[2,515] 2,568	[526] 520	[20.9] 20.2	[9,860,305,000] 9,708,354,000	[7,711,000,000] 7,567,900,000 【 2,270,370,000 】	[78.2] 78.0	[14,659,696] 14,553,654	[36,700,000] 33,400,000
基盤研究(B)	[12,098] 12,074	[2,654] 2,725	[21.9] 22.6	[21,927,685,000] 22,477,015,000	[17,090,400,000] 17,510,600,000	[77.9] 77.9	[6,439,488] 6,425,908	[14,900,000] 15,200,000
基盤研究(C)	[30,168] 31,079	[6,410] 6,829	[21.2] 22.0	[15,602,096,000] 16,162,752,000	[11,380,400,000] 11,816,900,000	[72.9] 73.1	[1,775,413] 1,730,400	[3,600,000] 3,600,000
萌芽研究	[16,119] 15,993	[1,801] 1,677	[11.2] 10.5	[4,921,414,000] 4,509,110,000	[3,397,400,000] 3,099,700,000	[69.0] 68.7	[1,886,396] 1,848,360	[3,700,000] 3,700,000
若手研究(A)	[1,245] 1,325	[324] 332	[26.0] 25.1	[3,905,966,000] 3,990,956,000	[3,061,000,000] 3,105,000,000 【 931,500,000 】	[78.4] 77.8	[9,447,531] 9,352,410	[21,600,000] 21,400,000
若手研究(B)	[17,320] 18,089	[5,078] 5,183	[29.3] 28.7	[12,089,975,000] 12,077,134,000	[8,808,600,000] 8,826,500,000	[72.9] 73.1	[1,734,659] 1,702,971	[3,500,000] 3,600,000
若手研究(スタートアップ)	[—] 3,996	[—] 803	[—] 20.1	[—] 1,105,965,000	[—] 1,000,000,000	[—] 90.4	[—] 1,245,330	[—] 1,500,000
奨励研究	[2,809] 3,077	[861] 840	[30.7] 27.3	[716,600,000] 710,607,000	[540,000,000] 538,650,000	[75.4] 75.8	[627,178] 641,250	[980,000] 1,000,000
特別研究促進費 (年複数回応募の試行)	[—] 549	[—] 98	[—] 17.9	[—] 375,371,000	[—] 280,700,000	[—] 74.8	[—] 2,864,286	[—] 15,900,000
研究成果公開促進費	[1,434] 1,571	[760] 768	[53.0] 48.9	[3,601,376,000] 3,502,054,000	[2,866,960,000] 2,824,700,000	[79.6] 80.7	[3,772,316] 3,677,995	[54,500,000] 61,100,000
特別研究員奨励費	[2,452] 2,060	[2,452] 2,060	[100.0] 100.0	[2,891,401,000] 2,431,090,000	[2,406,070,000] 2,143,300,000	[83.2] 88.2	[981,268] 1,040,437	[3,000,000] 3,000,000
学術創成研究費	[86] 80	[20] 21	[23.3] 26.3	[1,878,681,000] 1,799,479,000	[1,644,100,000] 1,673,800,000 【 502,140,000 】	[87.5] 93.0	[82,205,000] 79,704,762	[103,500,000] 106,900,000
合計	[96,349] 101,777	[23,166] 23,872	[24.0] 23.5	[103,607,855,000] 95,948,782,000	[79,126,930,000] 74,400,450,000 【 4,882,020,000 】	[76.4] 77.5	[3,415,649] 3,116,641	[190,300,000] 311,300,000

(注1) []内は、前年度を示す。

(注2) 【 】内は、間接経費(外数)。

(2) 新規+継続

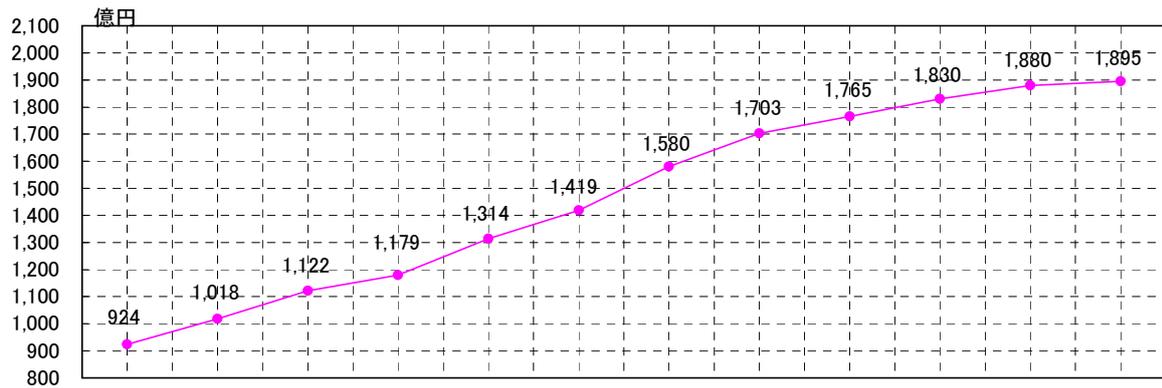
平成18年8月現在

研究種目	研究課題数			配 分 額			1課題あたりの配分額	
	応 募 件	採 択 件	採択率 %	採択分の応募額 円	配分額 円	充足率 %	平 均 円	最 高 円
科学研究費	[118,180] 124,801	[45,648] 48,125	[38.6] 38.6	[166,357,583,000] 167,630,539,906	[142,576,422,790] 145,211,303,906 【 10,252,530,000 】	[85.7] 86.6	[3,123,388] 3,017,378	[300,000,000] 311,300,000
特別推進研究	[215] 212	[84] 81	[39.1] 38.2	[6,840,022,000] 6,664,096,000	[6,445,600,000] 6,350,400,000 【 1,905,120,000 】	[94.2] 95.3	[76,733,333] 78,400,000	[300,000,000] 311,300,000
特定領域研究	[11,254] 10,816	[3,943] 4,018	[35.0] 37.1	[39,514,556,000] 37,928,581,000	[33,469,900,000] 33,369,700,000	[84.7] 88.0	[8,488,435] 8,305,052	[177,500,000] 177,400,000
基盤研究(S)	[704] 713	[316] 336	[44.9] 47.1	[5,925,341,000] 5,858,416,000	[5,618,500,000] 5,588,400,000 【 1,676,520,000 】	[94.8] 95.4	[17,780,063] 16,632,143	[61,800,000] 58,700,000
基盤研究(A)	[3,780] 3,775	[1,771] 1,695	[46.9] 44.9	[19,498,505,000] 19,039,754,000	[17,349,200,000] 16,899,300,000 【 5,069,790,000 】	[89.0] 88.8	[9,796,273] 9,970,088	[36,700,000] 33,400,000
基盤研究(B)	[17,245] 17,113	[7,770] 7,740	[45.1] 45.2	[39,156,185,000] 39,473,115,000	[34,318,900,000] 34,506,700,000	[87.6] 87.4	[4,416,847] 4,458,230	[14,900,000] 15,200,000
基盤研究(C)	[39,274] 40,520	[15,487] 16,248	[39.4] 40.1	[24,378,082,000] 25,289,114,950	[20,156,386,000] 20,943,262,950	[82.7] 82.8	[1,301,504] 1,288,975	[3,600,000] 3,600,000
萌芽研究	[18,175] 18,330	[3,855] 4,014	[21.2] 21.9	[7,082,014,000] 6,917,010,000	[5,558,000,000] 5,507,600,000	[78.5] 79.6	[1,441,764] 1,372,098	[3,700,000] 3,700,000
若手研究(A)	[1,547] 1,776	[626] 783	[40.5] 44.1	[5,383,366,000] 6,222,956,000	[4,538,400,000] 5,337,000,000 【 1,601,100,000 】	[84.3] 85.8	[7,249,840] 6,816,092	[21,600,000] 21,400,000
若手研究(B)	[23,177] 24,473	[10,935] 11,567	[47.2] 47.3	[17,862,912,000] 18,420,924,956	[14,581,536,790] 15,170,290,956	[81.6] 82.4	[1,333,474] 1,311,515	[3,500,000] 3,600,000
若手研究(スタートアップ)	[—] 3,996	[—] 803	[—] 20.1	[—] 1,105,965,000	[—] 1,000,000,000	[—] 90.4	[—] 1,245,330	[—] 1,500,000
奨励研究	[2,809] 3,077	[861] 840	[30.7] 27.3	[716,600,000] 710,607,000	[540,000,000] 538,650,000	[75.4] 75.8	[627,178] 641,250	[980,000] 1,000,000
特別研究促進費 (年複数回応募の試行)	[—] 549	[—] 98	[—] 17.9	[—] 375,371,000	[—] 280,700,000	[—] 74.8	[—] 2,864,286	[—] 15,900,000
研究成果公開促進費	[1,464] 1,607	[790] 803	[54.0] 50.0	[3,789,661,000] 3,721,894,418	[3,050,410,000] 3,025,600,000	[80.5] 81.3	[3,861,278] 3,767,870	[54,500,000] 61,100,000
特別研究員奨励費	[5,575] 5,438	[5,575] 5,438	[100.0] 100.0	[5,879,290,000] 5,640,392,287	[5,393,958,962] 5,352,602,287	[91.7] 94.9	[967,526] 984,296	[3,000,000] 3,000,000
学術創成研究費	[173] 159	[107] 100	[61.8] 62.9	[8,105,581,000] 7,444,179,000	[7,871,000,000] 7,318,500,000 【 2,195,550,000 】	[97.1] 98.3	[73,560,748] 73,185,000	[150,000,000] 115,200,000
合 計	[125,392] 132,554	[52,120] 54,564	[41.6] 41.2	[184,132,115,000] 184,812,376,611	[158,891,791,752] 161,188,706,193 【 12,448,080,000 】	[86.3] 87.2	[3,048,576] 2,954,122	[177,500,000] 311,300,000

(注1) []内は、前年度を示す。
(注2) 【 】内は、間接経費(外数)。

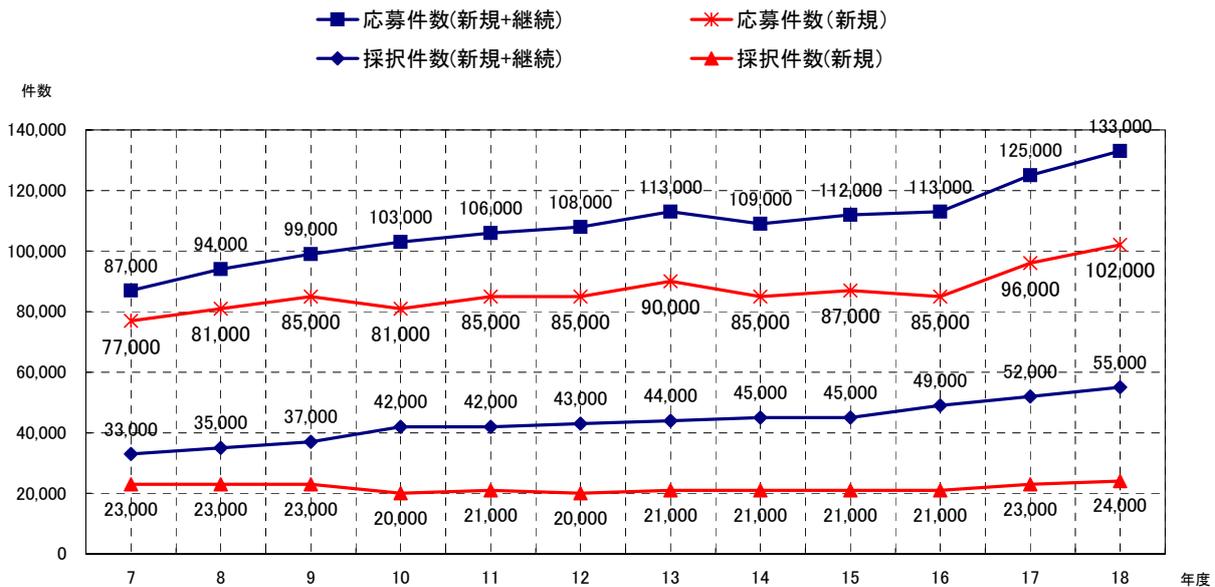
2. 予算額等の推移

○予算額の推移



年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
予算額(億円)	924	1,018	1,122	1,179	1,314	1,419	1,580	1,703	1,765	1,830	1,880	1,895
対前年度伸び率(%)	12.1	10.2	10.2	5.1	11.5	8.0	11.3	7.8	3.6	3.7	2.7	0.8

○応募・採択の状況



○採択率・充足率(新規分)の状況

年度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
採択率(%)	29.4	28.3	27.1	24.8	24.3	23.9	23.1	24.6	23.7	24.8	24.0	23.5
充足率(%)	74.9	74.6	72.3	71.5	74.7	77.2	78.2	76.1	76.2	76.5	76.4	77.5

(注) 各年度における当初配分時の数字である。

3 平成18年度研究種目一覧

(文部科学省が交付を行うもの)

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
特別推進研究	国際的に高い評価を得ている研究であって、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究 (期間3～5年、1課題5億円程度を目安とするが、制限は設けない)
特定領域研究	我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取組が必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定して機動的かつ効果的に研究の推進を図る (期間3～6年、単年度当たりの目安1領域 2千万円～6億円程度)
萌芽研究 ※	独創的な発想、特に意外性のある着想に基づく芽生え期の研究 (期間1～3年、1課題 500万円以下)
若手研究(A)・(B) ※	37歳以下の研究者が1人で行う研究 (期間2～3年、応募総額によりA・Bに区分) (A) 500万円以上3,000万円以下 (B) 500万円以下
特別研究促進費	緊急かつ重要な研究課題の助成、年複数回応募の試行(研究助成に関する実験的試行)
研究成果公開促進費	
研究成果公开发表	研究者グループ等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成

※印の研究種目等の公募、審査については、日本学術振興会が行う

(日本学術振興会が交付を行うもの)

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
基盤研究	1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究 基盤研究(S) (期間5年、1課題 5,000万円以上1億円程度まで) 1人又は複数の研究者が共同で行う独創的・先駆的な研究 (期間2年～4年、ただし、企画調査を行うものは1年) (応募総額によりA・B・Cに区分) (A) 2,000万円以上 5,000万円以下 (B) 500万円以上 2,000万円以下 (C) 500万円以下
若手研究(スタートアップ)	研究機関に採用されたばかりの研究者が1人で行う研究(期間2年、年間150万円以下)
奨励研究	教育・研究機関の職員、企業の職員又はこれら以外の者で科学研究を行っている者が1人で行う研究 (期間1年、1課題 100万円以下)
研究成果公開促進費	
学術定期刊行物	学会又は、複数の学会の協力体制による団体等が、学術の国際交流に資するため定期的に刊行する学術誌の助成
学術図書	個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成
データベース	個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、学術情報システム等を通じ公開利用を目的とするものの助成
特別研究員奨励費	日本学術振興会の特別研究員(外国人特別研究員を含む。)が行う研究の助成(期間3年以内)
学術創成研究費	科学研究費補助金等による研究のうち特に優れた研究分野に着目し、当該分野の研究を推進する上で特に重要な研究課題を選定し、創造性豊かな学術研究の一層の推進を図る (推薦制 期間5年)

4 平成19年度科学研究費補助金 系・分野・分科・細目表

系	分野	分科	細目名	細目番号
総合・新領域系	総合領域	情報学	情報学基礎	1001
			ソフトウェア	1002
			計算機システム・ネットワーク	1003
			メディア情報学・データベース	1004
			知能情報学	1005
			知覚情報処理・知能ロボティクス	1006
			感性情報学・ソフトコンピューティング	1007
			情報図書館学・人文社会情報学	1008
			認知科学	1009
			統計科学	1010
		生体生命情報学	1011	
		神経科学	神経科学一般	1101
			神経解剖学・神経病理学	1102
			神経化学・神経薬理学	1103
			神経・筋肉生理学	1104
		実験動物学	実験動物学	1201
		人間医工学	医用生体工学・生体材料学	1301
			医用システム	1302
			リハビリテーション科学・福祉工学	1303
		健康・スポーツ科学	身体教育学	1401
			スポーツ科学	1402
	応用健康科学		1403	
	生活科学	生活科学一般	1501	
		食生活学	1502	
	科学教育・教育工学	科学教育	1601	
		教育工学	1602	
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1701	
	文化財科学	文化財科学	1801	
	地理学	地理学	1901	
	複合新領域	環境学	環境動態解析	2001
			環境影響評価・環境政策	2002
			放射線・化学物質影響科学	2003
			環境技術・環境材料	2004
		ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学	2101
			ナノ材料・ナノバイオサイエンス	2102
			マイクロ・ナノデバイス	2103
		社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201
			自然災害科学	2202
		ゲノム科学	基礎ゲノム科学	2301
			応用ゲノム科学	2302
		生物分子科学	生物分子科学	2401
資源保全学		資源保全学	2501	
地域研究		地域研究	2601	
ジェンダー		ジェンダー	2701	

系	分野	分科	細目名	細目番号
人文社会科学系	人文学	哲学	哲学・倫理学	2801
			中国哲学	2802
			印度哲学・仏教学	2803
			宗教学	2804
			思想史	2805
			美学・美術史	2806
		文学	日本文学	2901
			ヨーロッパ語系文学	2902
			各国文学・文学論	2903
		言語学	言語学	3001
	日本語学		3002	
	英語学		3003	
	日本語教育		3004	
	外国語教育		3005	
	史学	史学一般	3101	
		日本史	3102	
		東洋史	3103	
		西洋史	3104	
		考古学	3105	
	人文地理学	人文地理学	3201	
	文化人類学	文化人類学・民俗学	3301	
	社会科学	法学	基礎法学	3401
			公法学	3402
			国際法学	3403
			社会法学	3404
			刑事法学	3405
			民事法学	3406
			新領域法学	3407
		政治学	政治学	3501
		国際関係論	3502	
		経済学	理論経済学	3601
			経済学説・経済思想	3602
			経済統計学	3603
			応用経済学	3604
			経済政策	3605
			財政学・金融論	3606
			経済史	3607
		経営学	経営学	3701
		商学	3702	
		会計学	3703	
社会学		社会学	3801	
	社会福祉学	3802		
心理学	社会心理学	3901		
	教育心理学	3902		
	臨床心理学	3903		
	実験心理学	3904		
教育学	教育学	4001		
	教育社会学	4002		
	教科教育学	4003		
	特別支援教育	4004		

系	分野	分科	細目名	細目番号	
理工系	数物系	数学	代数学	4101	
			幾何学	4102	
			数学一般(含確率論・統計数学)	4103	
			基礎解析学	4104	
			大域解析学	4105	
		天文学	天文学	4201	
			素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	4301	
		物理学	物性Ⅰ	4302	
			物性Ⅱ	4303	
			数理物理・物性基礎	4304	
			原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ	4305	
			生物物理・化学物理	4306	
		地球惑星科学	固体地球惑星物理学	4401	
			気象・海洋物理・陸水学	4402	
			超高層物理学	4403	
			地質学	4404	
			層位・古生物学	4405	
		プラズマ科学	岩石・鉱物・鉱床学	4406	
			地球宇宙化学	4407	
		化学	基礎化学	プラズマ科学	4501
	物理化学			4601	
	有機化学			4602	
	複合化学		無機化学	4603	
			分析化学	4701	
			合成化学	4702	
			高分子化学	4703	
			機能物質化学	4704	
	材料化学		環境関連化学	4705	
			生体関連化学	4706	
			機能材料・デバイス	4801	
	工学		応用物理学・工学基礎	有機工業材料	4802
				無機工業材料	4803
				高分子・繊維材料	4804
				応用物性・結晶工学	4901
		薄膜・表面界面物性		4902	
		機械工学	応用光学・量子光工学	4903	
			応用物理学一般	4904	
			工学基礎	4905	
			機械材料・材料力学	5001	
			生産工学・加工学	5002	
		電気電子工学	設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5003	
			流体工学	5004	
			熱工学	5005	
			機械力学・制御	5006	
			知能機械学・機械システム	5007	
	土木工学	電力工学・電気機器工学	5101		
		電子・電気材料工学	5102		
		電子デバイス・電子機器	5103		
		通信・ネットワーク工学	5104		
		システム工学	5105		
建築学	計測工学	5106			
	制御工学	5107			
	土木材料・施工・建設マネジメント	5201			
	構造工学・地震工学・維持管理工学	5202			
	地盤工学	5203			
材料工学	水工水理学	5204			
	交通工学・国土計画	5205			
	土木環境システム	5206			
	建築構造・材料	5301			
	建築環境・設備	5302			
プロセス工学	都市計画・建築計画	5303			
	建築史・意匠	5304			
	金属物性	5401			
	無機材料・物性	5402			
	複合材料・物性	5403			
総合工学	構造・機能材料	5404			
	材料加工・処理	5405			
	金属生産工学	5406			
	化工物性・移動操作・単位操作	5501			
	反応工学・プロセスシステム	5502			
基礎生物学	触媒・資源化学プロセス	5503			
	生物機能・バイオプロセス	5504			
	航空宇宙工学	5601			
	船舶海洋工学	5602			
	地球・資源システム工学	5603			
生物科学	リサイクル工学	5604			
	核融合学	5605			
	原子力学	5606			
	エネルギー学	5607			
	遺伝・ゲノム動態	5701			
人類学	生態・環境	5702			
	植物生理・分子	5703			
	形態・構造	5704			
	動物生理・行動	5705			
	生物多様性・分類	5706			
基礎生物学	構造生物化学	5801			
	機能生物化学	5802			
	生物物理学	5803			
	分子生物学	5804			
	細胞生物学	5805			
生物科学	発生生物学	5806			
	進化生物学	5807			
	人類学	5901			
	生理人類学	5902			

系	分野	分科	細目名	細目番号	
生物系	農学	農学	育種学	6001	
			作物学・雑草学	6002	
			園芸学・造園学	6003	
			植物病理学	6004	
			応用昆虫学	6005	
		農芸化学	植物栄養学・土壌学	6101	
			応用微生物学	6102	
			応用生物化学	6103	
			生物生産化学・生物有機化学	6104	
			食品科学	6105	
		林学	林学・森林工学	6201	
			林産科学・木質工学	6202	
		水産学	水産学一般	6301	
			水産化学	6302	
		農業経済学	農業経済学	6401	
			農業土木学・農村計画学	6501	
		農業工学	農業環境工学	6502	
			農業情報工学	6503	
		畜産学・獣医学	畜産学・草地学	6601	
			応用動物科学	6602	
		境界農学	基礎獣医学・基礎畜産学	6603	
			応用獣医学	6604	
		医歯薬学	薬学	臨床獣医学	6605
				環境農学	6701
				応用分子細胞生物学	6702
	化学系薬学			6801	
	物理系薬学			6802	
	基礎医学		生物系薬学	6803	
			創薬化学	6804	
			環境系薬学	6805	
			医療系薬学	6806	
			解剖学一般(含組織学・発生学)	6901	
	境界医学		生理学一般	6902	
			環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	6903	
			薬理学一般	6904	
			医化学一般	6905	
			病態医化学	6906	
	社会医学		人類遺伝学	6907	
			人体病理学	6908	
			実験病理学	6909	
			寄生虫学(含衛生動物学)	6910	
			細菌学(含真菌学)	6911	
	内科系臨床医学		ウイルス学	6912	
			免疫学	6913	
			医療社会学	7001	
			応用薬理学	7002	
			病態検査学	7003	
	外科系臨床医学	衛生学	7101		
		公衆衛生学・健康科学	7102		
		法医学	7103		
内科学一般(含心身医学)		7201			
消化器内科学		7202			
歯学	循環器内科学	7203			
	呼吸器内科学	7204			
	腎臓内科学	7205			
	神経内科学	7206			
	代謝学	7207			
看護学	内分泌学	7208			
	血液内科学	7209			
	膠原病・アレルギー・感染症内科学	7210			
	小児科学	7211			
	胎児・新生児医学	7212			
基礎生物学	皮膚科学	7213			
	精神神経科学	7214			
	放射線科学	7215			
	外科学一般	7301			
	消化器外科学	7302			
歯学	胸部外科学	7303			
	脳神経外科学	7304			
	整形外科学	7305			
	麻酔・蘇生学	7306			
	泌尿器科学	7307			
看護学	産婦人科学	7308			
	耳鼻咽喉科学	7309			
	眼科学	7310			
	小児外科学	7311			
	形成外科学	7312			
基礎生物学	救急医学	7313			
	形態系基礎菌科学	7401			
	機能系基礎菌科学	7402			
	病態科学系菌学・歯科放射線学	7403			
	保存治療系菌学	7404			
看護学	補綴理工系菌学	7405			
	外科系菌学	7406			
	矯正・小児系菌学	7407			
	菌周治療系菌学	7408			
	社会系菌学	7409			
看護学	基礎看護学	7501			
	臨床看護学	7502			
	地域・老年看護学	7503			

5 「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧

総合・新領域系

分野	分科	細目名	キーワード	細目番号
総合領域	情報学	情報学基礎	計算理論、言語理論、プログラム理論、計算量理論、アルゴリズム理論、暗号系、情報数理、数理論理学、離散構造	1001
		ソフトウェア	アルゴリズム、データ構造、プログラム言語、コンパイラ、オペレーティングシステム、ソフトウェア工学、ソフトウェアエージェント	1002
		計算機システム・ネットワーク	〔計算機システム〕 計算機アーキテクチャ、ハードウェア設計、設計自動化、並列計算機、データベースマシン、情報機器	1003
			〔情報ネットワーク〕 分散システム、情報ネットワーク、情報通信システム、セキュアネットワーク、ネットワークコンピューティング、ネットワークエージェント、安全性・信頼性	
		メディア情報学・データベース	〔データベース・メディア・情報システム〕 データベース、コンテンツ、マルチメディア情報処理、情報システム、WWW、モバイルシステム、情報検索、グラフィクス、可視化情報学、芸術情報	1004
			〔ユーザインターフェイス〕 ヒューマンインターフェイス、ユーザモデル、グループウェア、バーチャルリアリティ、ウェアラブル機器	
		知能情報学	探索・論理・推論アルゴリズム、学習と発見、知識ベース・知識システム、人工知能アーキテクチャ、知能情報処理、自然言語処理、知識発見とデータマイニング	1005
		知覚情報処理・知能ロボティクス	〔知覚情報処理〕 パターン認識、画像情報処理、音声情報処理、コンピュータビジョン、情報センシング、センサ融合・統合、センシングデバイス・システム	1006
			〔知能ロボティクス〕 知能ロボット、行動環境認識、モーションプランニング、感覚行動システム、自律システム、デジタルヒューマンモデル、アニメーション、実世界情報処理、物理エージェント、インテリジェントルーム	
		感性情報学・ソフトコンピューティング	〔感性情報学〕 感性原理、感性情報処理、感性素材計測・評価、感性官能計測・評価、感性社会学、感性デザイン、感性データベース	1007
			〔ソフトコンピューティング〕 ニューラルネットワーク、遺伝アルゴリズム、ファジイ理論、カオス、フラクタル、複雑系、確率的情報処理	
		情報図書館学・人文社会情報学	〔情報図書館学〕 図書館学、情報図書館学、図書館情報システム	1008
			〔人文社会情報学〕 文学情報システム、歴史情報システム、情報社会学、社会情報システム、法情報学、法律情報システム、情報経済学、経営情報システム、教育情報システム	
		認知科学	認知心理学、比較認知心理学、認知哲学、心の理論、感情とその計算機モデル、社会認知科学、脳認知科学、認知言語学、行為と行動の相互作用	1009
統計科学	調査・実験計画、多変量解析、時系列解析、分類・パターン認識、統計的推測、計算機集約的統計、統計的予測・制御、モデル選択、工業統計、医薬生物統計、行動計量分析、数理ファイナンス、データマイニング、空間・環境統計、統計システム、統計教育	1010		
生体生命情報学	〔生物情報科学〕 バイオインフォマティクス、ゲノム情報処理、プロテオーム情報処理、コンピュータシミュレーション、システム生物学	1011		
	〔生命体システム情報学〕 生体情報、ニューロインフォマティクス、脳型情報処理、人工生命システム、生命分子計算、DNAコンピュータ			

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(総合領域)	神経科学	神経科学一般	分子・細胞神経科学、発生・発達・再生神経科学、神経情報処理、認知神経科学、神経内分泌学、行動神経科学、非侵襲的脳活動計測、計算論的神経科学、神経心理学、言語神経科学	1101
		神経解剖学・神経病理学	〔神経解剖学〕 神経伝導学、神経回路網、神経組織学、分子神経生物学、神経微細形態学、神経組織細胞化学、神経発生・分化・異常、神経再生・神経可塑性、神経実験形態学、脳画像解剖学	1102
			〔神経病理学〕 神経細胞病理学、分子神経病理学、神経変性疾患、脳発達障害、老化性痴呆疾患、脳循環障害、脳代謝性疾患、中毒性疾患、脳腫瘍、脊髄疾患、筋・末梢神経疾患	
		神経化学・神経薬理学	分子・細胞・神経生物学、神経系の発達と老化、神経伝達物質と受容体、細胞内情報伝達、精神・神経疾患の病態と治療、神経損傷の再生・修復、神経機能の可塑性、中枢・末梢神経薬理学	1103
		神経・筋肉生理学	〔神経生理学〕 ニューロン・シナプス機能、感覚系神経生理学、運動系神経生理学、自律神経生理学、高次神経機能	1104
	〔筋肉生理学〕 骨格筋生理学、心筋生理学、平滑筋生理学			
	実験動物学	実験動物学	環境・施設、感染症、凍結保存、安全性、病態モデル、育種遺伝、発生工学、動物実験倫理、動物実験技術	1201
	人間医工学	医用生体工学・生体材料学	〔医用生体工学〕 医用・生体画像、生体システム、生体情報・計測、バイオメカニクス、人工臓器工学、生体物性、生体制御、医用光・熱工学、医用マイクロ・ナノマシン、フィジオーム	1301
			〔生体材料学〕 医用材料、歯用材料、生体機能材料、細胞・組織工学、生体適合材料、インテリジェント材料、バイオコンジュゲイト、再生医工学材料、薬物伝達システム	
		医用システム	超音波医科学、検査・診断システム、低侵襲治療システム、遠隔治療システム、臓器保存・治療システム、医療情報システム、コンピュータ外科学、医用ロボット	1302
		リハビリテーション科学・福祉工学	〔リハビリテーション科学〕 リハビリテーション医学、障害学、運動療法学、物理療法学、作業療法学、言語聴覚療法学、医療社会福祉学、人工感覚器	1303
	〔福祉工学〕 健康・福祉工学、生活支援技術、介護支援技術、社会参加、バリアフリー			
	健康・スポーツ科学	身体教育学	〔身体の仕組みと発達メカニズム〕 教育生理学、身体システム学、生体情報解析、脳高次機能学、身体発育発達学、感覚と運動発達学	1401
			〔心身の教育と文化〕 感性の教育、身体環境論、運動指導論、体育科教育、フィットネス、身体運動文化論、身体性哲学、死生観の教育、身体心理学、情動の科学、野外教育、舞踏教育、女子教育、成年・老年期の体育、武道論、運動適応生命科学	
		スポーツ科学	〔スポーツ科学〕 スポーツ哲学、スポーツ史、スポーツ心理学、スポーツ経営学、スポーツ教育学、トレーニング科学、スポーツ工学とバイオメカニクス、コーチング・トレーニング、スポーツ・タレント、障害者スポーツ、スポーツ社会学、スポーツ環境学、スポーツ文化人類学	1402
〔スポーツ医学〕 スポーツ生理学、スポーツ生化学、スポーツ栄養学、エネルギー代謝と活性酸素、運動とトレーニングの分子機構、スポーツ障害、ドーピング				
応用健康科学	〔健康教育〕 健康教育、ヘルスプロモーション、安全推進・安全教育、保健科教育、ストレスマネジメント、喫煙・薬物乱用防止教育	1403		
〔健康推進活動〕 保健健康管理、保健健康情報、生活習慣病、栄養指導、運動処方と運動療法、心身の健康、加齢・老化、レジャー・レクリエーション				

総合・新領域系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(総合領域)	生活科学	生活科学一般	[家政一般、衣・住生活、家政教育] 生活情報化、衣生活、衣環境、住生活、住環境、生活財、生活造形、家政・家庭科教育、生活素材、生活文化	1501
			[生活経営、家庭・家族関係] 家庭経済と家庭経営、消費購買活動、家族関係、ライフスタイル、高齢者生活、介護、保育と福祉	
	食生活学	食生活学	[食品と調理] 調理と加工、食品と貯蔵、食嗜好と評価、食素材、調理と機能性成分、フードサービス、食文化、テクスチャー、食品と咀嚼性	1502
			[食生活と健康] 健康と食生活、食と栄養、食教育、食習慣、食行動、食情報、特殊栄養食品、食と環境、食事計画、家族と食生活、食生活の評価、フードマネージメント	
	科学教育・教育工学	科学教育	自然科学教育(数学、理科、物理・化学・生物・地学、情報)、実験・観察、科学教育カリキュラム、環境教育、産業教育、技術教育、工学教育、科学高等教育、科学技術教育史、科学的社会的認識、科学と社会、科学技術政策	1601
		教育工学	カリキュラム・教授法開発、教材情報システム、授業学習支援システム、マルチメディアと教育、分散協調教育システム、遠隔教育、eラーニング、コンピュータ・リテラシー、メディア教育、ヒューマン・インターフェイス、学校建築・設備	1602
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	科学社会学、生命倫理、科学技術史、医学史、土木技術史、産業考古学、科学基礎論・技術論、サイエンススタディーズ	1701
文化財科学	文化財科学	年代測定、古環境、材質分析、製作技法、産地同定、保存科学、遺跡探査、文化財、動植物遺体・人骨	1801	
地理学	地理学	土地利用・景観、人間環境システム、地域間関係論、地域計画、数理計量地理学、地域区分・地誌・地理教育、地理学史・方法論、地理学一般、地形、気候、水文、自然地域・環境システム、地図、地理情報システム、リモートセンシング	1901	
複合新領域	環境学	環境動態解析	環境変動、物質循環、環境計測、環境モデル、環境情報、地球温暖化、地球規模水循環変動、極域環境監視、化学海洋、生物海洋	2001
		環境影響評価・環境政策	[環境影響評価] 陸圏・水圏・大気圏影響評価、生態系影響評価、影響評価手法、健康影響評価、次世代環境影響評価、極域の人間活動 [環境政策] 環境理念、環境経済、環境マネジメント、環境活動、環境と社会、合意形成	2002
	放射線・化学物質影響科学	放射線・化学物質影響科学	[放射線影響科学] 放射線生物影響、放射線作用機構、環境放射線、電離放射線障害、放射線疫学、次世代放射線影響、防護	2003
			[化学物質影響科学] トキシコロジー、人体有害物質、微量化学物質汚染評価、内分泌かく乱物質	
	環境技術・環境材料	環境技術・環境材料	[環境技術] 環境保全技術、環境修復技術、省資源技術、省エネルギー技術、リサイクル技術、環境負荷低減技術	2004
			[環境材料] 循環再生材料設計、循環再生加工、循環材料生産システム、人間生活環境、グリーンケミストリー	
	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学	[化学系] ナノ構造化学、クラスター・微粒子、ナノ反応場、単分子操作	2101
			[物理系] ナノ構造物性、メソスコピック物理、ナノプローブ、量子情報、ナノトライボロジー	
		ナノ材料・ナノバイオサイエンス	[ナノ材料] ナノ材料創製、ナノ材料解析、ナノ材料評価、ナノ表面界面、ナノ多機能材料、ナノ計測、ナノ構造形成・制御	2102
			[ナノバイオサイエンス] DNAデバイス、ナノカプセル、分子マニピュレーション、タンパク質チップ、1分子生理・生化学、1分子生体情報学、1分子科学一般、1分子ナノ計測	
マイクロ・ナノデバイス	マイクロ・ナノデバイス	[マイクロデバイス・マイクロマシン] MEMS、マイクロファブリケーション、マイクロ光デバイス、マイクロ化学システム、マイクロメカニクス	2103	
		[ナノデバイス] ナノデバイス造形、ナノ制御、分子デバイス、単量子デバイス、ナノマシン		

総合・新領域系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(複合新領域)	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	〔社会システム工学〕 社会工学、社会システム、政策科学、開発計画、経営工学、経営システム、OR、品質管理、インダストリアルエンジニアリング、モデリング、ロジスティックス、マーケティング、ファイナンス	2201
			〔安全システム〕 安全システム、安全工学、危機管理、都市・社会防災、火災・事故、安全情報・環境整備、社会の防災力（避難、パニック、情報伝達、ハザードマップ）	
		自然災害科学	〔地震・火山防災〕 地震動、液状化、活断層、津波、火山噴火、火山噴出物・土石流、地震災害、火山災害、被害予想・分析・対策、建造物防災	2202
			〔自然災害〕 気象災害、水災害、地盤災害、土砂流、濁水、雪氷災害、自然災害予測・分析・対策、ライフライン防災、地域防災計画・政策、復旧・復興工学、災害リスク評価	
	ゲノム科学	基礎ゲノム科学	〔基礎ゲノム生物学〕 動物ゲノム、植物ゲノム、微生物ゲノム、オルガネラゲノム、ゲノム多様性、ゲノム構造、ゲノム発現、ゲノム進化・再編、ゲノム機能、システムゲノム、ゲノムネットワーク、ゲノム調節	2301
			〔基礎ゲノム情報科学〕 バイオインフォマティクス	
		応用ゲノム科学	〔応用ゲノム生物学〕 産業動物ゲノム、産業植物ゲノム、産業微生物ゲノム、ゲノム資源、機能ゲノミクス、ゲノム工学、染色体工学、オルガネラ工学、構造ゲノミクス、プロテオーム、プロファイリング、翻訳後修飾、プロテオーム構造機能解析	2302
			〔応用ゲノム情報科学〕 ゲノムデータベース、バイオインフォマティクス、機能予測、分子設計、ゲノム創薬	
	生物分子科学	生物分子科学	天然物有機化学、二次代謝産物、生物活性物質、生体高分子、化学修飾、生体機能関連物質、活性発現の分子機構、構造活性相関、生合成、生物活性分子の設計・合成、コンビナトリアル化学、機器分析、化学生態学、プロテオミクス	2401
	資源保全学	資源保全学	〔生物保全学〕 保全生物、生物多様性保全、系統生物保全、生物遺伝子資源保全、細胞保全、生体組織保全、微生物保全、種子保全、配偶子保全	2501
〔物質保全学〕 特殊化学物質保全、特殊薬品保全、環境標準物質保全、純粋金属保全				
地域研究	地域研究	ヨーロッパ、南北アメリカ、東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジア、アフリカ（含アフリカ史）、オセアニア（含オセアニア史）、世界、地域間比較研究、地域協力、空間経済学	2601	
ジェンダー	ジェンダー	ジェンダー、性別役割、性差、女性学・男性学、思想、比較文化、身体性、表現、社会政策、法・政治、経済・労働、科学・技術、人間開発、人間発達、医療・生命科学	2701	

人 文 社 会 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号	
人文学	哲学	哲学・倫理学	哲学原論・各論、倫理学原論・各論、西洋哲学、西洋倫理学、日本哲学、日本倫理学、比較哲学	2801	
		中国哲学	中国哲学、中国仏教、道教	2802	
		印度哲学・仏教学	印度哲学、仏教学全般	2803	
		宗教学	宗教学、宗教史、宗教社会学、宗教人類学、宗教民俗学、宗教心理学、宗教哲学、比較宗教学、宗教現象学、宗教と医療	2804	
		思想史	社会思想史、日本思想史、比較思想史	2805	
		美学・美術史	美学、美術史、芸術諸学	2806	
	文学	日本文学	日本文学、古代文学、中世文学、近世文学、近代文学、漢文学	2901	
		ヨーロッパ語系文学	英米文学、仏文学、独文学、ロシア東欧文学、南欧文学、ラテンアメリカ文学、その他ヨーロッパ語系各国文学、ヨーロッパ語系文献学、西洋古典学	2902	
		各国文学・文学論	中国文学、アフリカ文学、東南アジア文学、その他の各国文学、文献学、文学論、比較文学	2903	
	言語学	言語学	音声学、音韻論、文字論、統語論、形態論、辞書論、意味論、語用論、談話研究、社会言語学、心理言語学、言語の生物学的基盤、歴史言語学、仏語学、独語学、中国語学、その他の語学	3001	
		日本語学	国語学、音声、音韻、文字、文法、語彙、意味、文章、文体、方言、言語生活、日本語史	3002	
		英語学	英語学、音声、音韻、文字、文法、語彙、語形成、意味、文体、英語史、英語の多様性、英語学史	3003	
		日本語教育	日本語教育制度、教師論、教授法、学習理論、教材・教具論、母語教育、第二言語教育、対照言語研究、コミュニケーション教育、異文化コミュニケーション、日本事情、日本語教育史	3004	
		外国語教育	外国語教育制度、教育論、教育内容、教授法・学習理論、第二言語習得理論、教材・教具論、外国語教育史、異文化コミュニケーション、英語教育	3005	
	史学	史学一般	世界史、文化交流史、比較歴史学、比較文明論、史料学	3101	
		日本史	古代史、中世史、近世史、近・現代史	3102	
		東洋史	朝鮮史、中国史、東南アジア史、南アジア史、西アジア史、内陸アジア史	3103	
		西洋史	西欧史、東欧史、南欧史、北欧史、南北アメリカ史	3104	
		考古学	考古学、先史学	3105	
	人文地理学	人文地理学	環境適応、空間行動、立地、分布パターン、土地利用、産業配置、集落、生活様式、景観、地域性、地域区分、地域構造・地域システム、地域政策、地誌、絵図・地図、地理情報システム	3201	
	文化人類学	文化人類学・民俗学	文化人類学、民俗学、民族学、社会人類学、比較民俗学、物質文化研究、先史・歴史研究、芸能・芸術研究、宗教儀礼研究、開発研究、ジェンダー研究、医療研究、人口・移住研究、少数者研究、生活・生態研究	3301	
	社会科学	法学	基礎法学	法哲学・法理学、ローマ法、法制史、法社会学、比較法、外国法、法政策学、法と経済	3401
			公法学	憲法、行政法、租税法、国法学、立法学、憲法訴訟、比較憲法、憲法史、行政組織法、行政手続法、行政救済法、国際税法、裁判法	3402
			国際法学	国際公法、国際私法、国際人権法、国際機構法、国際経済法	3403
			社会法学	労働法、経済法、社会保障法、教育法	3404
			刑事法学	刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策、少年法	3405
民事法学			民法、商法、民事訴訟法、法人、企業組織法、金融法、証券法、保険法、国際取引法、倒産法、紛争処理法制、民事執行法	3406	
新領域法学			環境法、医事法、情報法、知的財産法、EU法、法とジェンダー、法学教育・法曹論	3407	

人 文 社 会 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(社会科学)	政治学	政治学	政治理論、政治思想史、政治史、日本政治分析、政治過程論、選挙研究、行政学、比較政治	3501
		国際関係論	国際理論、外交史・国際関係史、対外政策論、安全保障論、国際政治経済、国際レジューム論、国際統合論、国際協力論、国際交流論、トランスナショナル・イシュー、グローバル・イシュー	3502
	経済学	理論経済学	ミクロ経済学、マクロ経済学、経済理論、経済制度	3601
		経済学説・経済思想	経済学説、経済学史、経済思想、経済思想史、社会思想、社会思想史	3602
		経済統計学	統計制度、統計調査、統計史、統計学説史、人口統計、所得・資産分布、国民経済計算、計量経済学	3603
	(経済学)	応用経済学	国際経済学、労働経済学、産業論、産業組織論、都市経済学、環境経済学、医療経済学、地域経済学	3604
		経済政策	経済政策、経済事情、日本経済、社会保障、経済体制、経済発展、政策シミュレーション	3605
		財政学・金融論	財政学、公共経済学、金融論、ファイナンス	3606
		経済史	経済史、経営史	3607
	経営学	経営学	企業経営、経営管理、事業組織、経営財務、経営情報	3701
		商学	マーケティング、消費者行動、流通、商業、保険	3702
		会計学	財務会計、管理会計、会計監査、簿記、国際会計	3703
	社会学	社会学	社会学理論・学説史、社会学研究法・社会調査法・数理社会学、社会構造・変動論、社会集団・組織論、階級・階層・社会移動、家族、地域社会・村落・都市、産業・労働、文化・社会意識、社会的コミュニケーション・社会情報、性・世代、社会問題・社会運動、差別問題、環境社会学、国際社会・エスニシティ	3801
		社会福祉学	社会福祉論、社会福祉史、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、貧困問題、社会福祉援助技術、ソーシャルワーク、福祉ボランティア、福祉NPO、社会福祉教育・実習、地域福祉、介護福祉、国際社会福祉、女性福祉	3802
	心理学	社会心理学	自己過程、社会的認知・感情・態度・信念、社会的相互作用・対人関係、対人コミュニケーション、集団・リーダーシップ、集合現象、産業・組織、文化、社会問題、環境問題、メディア・電子ネットワーク、人事、作業、消費者問題	3901
		教育心理学	生涯発達、母子関係、発達障害、パーソナリティ、学習過程、教授法、学級集団・経営、教育評価、教育相談、カウンセリング、学生相談	3902
		臨床心理学	心理的障害、犯罪・非行、心理アセスメント、心理療法、心理学的介入、心理検査、セルフコントロール、心理面接過程、事例研究、セルフヘルプグループ、セラピスト論、地域援助、健康開発、心理リハビリテーション、健康心理学	3903
		実験心理学	生理、感覚・知覚、注意・意識、学習・行動分析、記憶、思考、言語、動機づけ、情動、行動、データ解析法	3904
	教育学	教育学	教育理論、教育思想、教育史、カリキュラム論、学習指導論、学力論、教育方法、教育評価、教育行政、学校経営、学校教育、就学前教育、生涯教育、社会教育、家庭教育	4001
		教育社会学	教育社会学、教育経済学、教育人類学、教育政策、比較教育、人材開発・開発教育、学校組織・学校文化、教師・生徒文化、青少年問題・少年非行、教育問題、学力問題、多文化教育、ジェンダーと教育、教育調査法	4002
		教科教育学	カリキュラム構成・開発、教材開発、各教科の教育（国語、算数・数学、理科、社会、地理・歴史、公民、生活、音楽、図画工作・美術工芸、家庭、技術）、教科外教育（総合的学習、道徳、特別活動）、専門教科の教育（工業、商業、農業、水産、看護）、生活指導・生徒指導、進路指導	4003
		特別支援教育	特殊教育、障害者教育、学習困難、学習障害、情緒障害、行動障害、乳幼児虐待、養育放棄、子育て支援、学童保育、学校不適応、教育相談・カウンセリング	4004

理 工 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号	
数物系科学	数学	代数学	数論、代数幾何、群論、環論、代数一般	4101	
		幾何学	微分幾何、複素多様体、位相幾何、複素解析幾何、微分トポロジー	4102	
		数学一般（含確率論・統計数学）	数学基礎論、確率論、統計数学、応用数学、組合せ論、情報数理、離散数学、数値数学、数理モデル	4103	
		基礎解析学	複素解析、実解析、関数方程式、関数解析、確率解析、代数解析	4104	
		大域解析学	関数方程式の大域理論、変分法、非線形現象、多様体上の解析、力学系、作用素環、可積分系	4105	
	天文学	天文学	光学赤外線天文学、電波天文学、太陽物理学、位置天文学、理論天文学、X線γ線天文学	4201	
	物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	素粒子物理、核物理、宇宙線、加速器、粒子測定技術、宇宙物理、相対論・重力波	4301	
		物性I	半導体、メゾスコピック系・局在、光物性、表面・界面、結晶成長、誘電体、格子欠陥、X線・粒子線、フォノン物性	4302	
		物性II	磁性、磁気共鳴、強相関係、高温超伝導、金属、超低温・超伝導、量子液体・固体、分子性固体・有機導体	4303	
		数理物理・物性基礎	統計物理学、物性基礎論、数理物理、可積分系、非平衡・非線形物理学、応用数学、力学、流体物理、不規則系、計算物理学	4304	
		原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ	原子・分子、量子エレクトロニクス、量子情報、放射線、プラズマ、ビーム物理、放電	4305	
		生物物理・化学物理	高分子・液晶、化学物理、生物物理、ソフトマターの物理	4306	
	地球惑星科学	固体地球惑星物理学	地震現象、火山現象、地殻変動・海底変動、地磁気、重力、観測手法、テクトニクス、内部構造、内部変動・物性、月・衛星・小惑星、惑星形成・進化、地震災害・予測	4401	
		気象・海洋物理・陸水学	気象、海洋物理、陸域水循環・物質循環、水収支、地球環境システム、地球流体力学、気候、惑星大気	4402	
		超高層物理学	太陽地球システム、惑星間空間、地球惑星磁気圏、地球惑星電離圏、地球惑星上層大気、宇宙プラズマ、地磁気変動、プラズマ波動	4403	
		地質学	地層、地殻、環境地質、テクトニクス、地質時代、地球史応用地質、惑星地質学、第四紀学	4404	
		層位・古生物学	層序、古環境、化石、系統・進化・多様性、古生態、古生物地理、機能形態、古海洋	4405	
		岩石・鉱物・鉱床学	地球惑星物質、地球惑星進化、地殻・マントル・核、マグマ、天然・人工結晶、元素分別濃集過程、鉱物資源、メタロジェニー	4406	
		地球宇宙化学	元素分布、同位体、物質循環、地殻・マントル化学、隕石化学、大気圏・水圏・生物圏化学	4407	
		プラズマ科学	プラズマ科学	プラズマ基礎、プラズマ応用、プラズマ計測、プラズマ物理、放電、反応性プラズマ、宇宙・天体プラズマ、核燃焼プラズマ、プラズマ化学	4501
	化学	基礎化学	物理化学	分子構造、結晶構造、電子状態、分子動力学、化学反応、溶液、分子分光、励起分子素過程、電気化学、放射線化学、電子・エネルギー移動、表面・界面	4601
			有機化学	構造有機化学、反応有機化学、合成有機化学、有機元素化学、有機光化学、物理有機化学、理論有機化学	4602
			無機化学	金属錯体化学、有機金属化学、無機固体化学、溶液化学、核・放射化学、クラスター、低次元化合物、層間化合物、元素集積体、超分子	4603

理 工 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号	
化学	複合化学	分析化学	試料処理、化学分析、生物学的分析、核利用分析、分離分析、化学センサー、チップ分析、クロマトグラフィー、機器分析、表面分析、組織解析、状態分析、環境分析、生体分析、分析値評価	4701	
		合成化学	選択的合成・反応、有機金属触媒、ファインケミカルズ、不斉合成、触媒設計・反応、環境調和型反応、反応場、自動合成、生物的合成手法、コンビナトリアル手法	4702	
		高分子化学	高分子合成、重合、高分子反応・分解、不斉重合、重合触媒、高分子構造、高分子物性、機能性高分子化学、生体関連高分子、高分子薄膜・表面、高分子錯体、環境関連高分子	4703	
		機能物質化学	光物性、電気・磁気的性質、分子素子、センサー、分子認識、超分子、液晶・結晶、膜・集合体、表面・界面、電気分解、機能触媒	4704	
		環境関連化学	グリーンケミストリー、リサイクル化学、低環境負荷物質、生分解性物質、高原子効率反応、高機能触媒、微量環境物質評価、反応媒体、安全化学、マイクロ化学手法	4705	
		生体関連化学	核酸・蛋白質・糖化学、酵素化学、受容体化学、生体認識・機能化学、生体系類似化学、ポストゲノム創薬、生体機能材料、生物有機化学、生物無機化学、生体関連高分子化学、天然物有機化学、バイオテクノロジー	4706	
	材料化学	機能材料・デバイス	液晶材料・素子、有機EL素子、有機半導体デバイス、光学材料・素子、有機電子材料・素子、導電機能素子、電気・磁気デバイス、電池、コンデンサー	4801	
		有機工業材料	界面活性剤、染料・顔料、色材、選択的反応、新規官能基、レジスト	4802	
		無機工業材料	結晶・多結晶材料、ガラス、セメント、微粉体、層状・層間化合物、イオン交換体、無機合成、光触媒、電気化学、多孔体、焼結体、ハイブリッド材料	4803	
		高分子・繊維材料	高分子材料物性、高分子材料合成、繊維材料、ゴム材料、ゲル、高分子機能材料、天然・生体高分子材料、ブレンド・複合材料、高分子・繊維加工、高分子計算・設計	4804	
	工学	応用物理学・工学基礎	応用物性・結晶工学	金属、半導体、磁性体、超伝導体、非晶質、結晶成長、エピタキシャル成長、結晶評価、微粒子、有機分子、液晶、バイオエレクトロニクス、新機能材料、ヘテロ構造、光物性、誘電体、セラミックス	4901
			薄膜・表面界面物性	薄膜、表面、界面、プラズマプロセス、真空、ビーム応用、走査プローブ顕微鏡、電子顕微鏡	4902
応用光学・量子光学			光、光学素子・装置・材料、画像・光情報処理、視覚工学、レーザ、光エレクトロニクス、微小光学、光計測、光記録、光プロセッシング、光制御	4903	
応用物理学一般			力、熱、音、振動、電磁気、物理計測・制御、標準、トライボロジー、センサー、マイクロマシン、エネルギー変換、プラズマ、放射線、加速器、原子炉	4904	
工学基礎			数理工学（数理解析・計画・設計）、物理数学、計算力学、シミュレーション工学	4905	
機械工学		機械材料・材料力学	材料設計・プロセス・物性・評価、連続体力学、構造力学、損傷力学、破壊、疲労、環境強度、信頼性設計、生体力学	5001	
		生産工学・加工学	生産モデリング、生産システム、生産管理、工程設計、工作機械、成形加工、切削・研削加工、特殊加工、超精密加工、ナノ・マイクロ加工、精密位置決め・加工計測	5002	
		設計工学・機械機能要素・トライボロジー	設計工学、形状モデリング、CAD、創造工学、機構学、機械要素、機能要素、故障診断、安全・安心設計、ライフサイクル設計、トライボロジー	5003	
		流体工学	数値流体力学、圧縮・非圧縮流、乱流、混相流、反応流、非ニュートン流、分子流体力学、バイオフィードバック、環境流体力学、音響、流体機械、油圧機器	5004	
		熱工学	熱力学、熱物性、熱・物質移動、燃焼、温熱制御、熱機関、冷凍・空調、エネルギー利用	5005	
		機械力学・制御	運動力学、動的設計、振動学、振動解析・試験、制御機器、運動制御、振動制御、機械計測、耐震・免震設計、交通機械制御、音響情報・制御、音響エネルギー	5006	
		知能機械学・機械システム	ロボティクス、メカトロニクス、マイクロメカトロニクス、バイオメカニクス、ソフトメカニクス、精密・情報機器、精密機械システム、人間機械システム、情報システム	5007	

理 工 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(工学)	電気電子工学	電力工学・電気機器工学	電気エネルギー工学（発生・変換・貯蔵、省エネルギーなど）、電力系統工学、電気機器、パワーエレクトロニクス、電気有効利用、電気・電磁環境、照明	5101
		電子・電気材料工学	電気・電子材料（半導体、誘電体、磁性体、超誘電体、有機物、絶縁体、超伝導体など）、薄膜・量子構造、厚膜、作成・評価技術	5102
		電子デバイス・電子機器	電子デバイス・集積回路、回路設計・CAD、光デバイス・集積化、マイクロ波・ミリ波、波動利用工学、バイオデバイス、記憶・記録、表示、センシング、微細プロセス技術、インターコネクト・パッケージのシステム化・応用	5103
		通信・ネットワーク工学	電子回路網、非線形理論・回路、情報理論、信号処理、通信方式（無線、有線、衛星、光、移動）、変復調、符号化、プロトコル、アンテナ、中継・交換、ネットワーク・LAN、マルチメディア、暗号・セキュリティ	5104
		システム工学	システム情報（知識）処理、社会システム工学、経営システム工学、環境システム工学、生産システム工学、バイオシステム工学	5105
		計測工学	計測理論、センシングデバイス、計測機器、計測システム、信号処理、センシング情報処理	5106
		制御工学	制御理論、システム理論、知識型制御、制御機器、制御システム、複雑系	5107
	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	木材、鋼材、コンクリート、瀝青材料、複合材料、施工管理、プロジェクトマネジメント、社会基盤マネジメント、建設経営、建設CALS、公共調達	5201
		構造工学・地震工学・維持管理工学	設計論、鋼構造、コンクリート構造、複合構造、荷重、振動、風工学、計測、応用力学、地震動、耐震構造、地震防災、維持管理工学	5202
		地盤工学	土質力学、岩盤力学、動土質、基礎、土構造物、トンネル、斜面、施行、地盤環境	5203
		水工水理学	水理学、流体力学、水文学、河川、海岸、海洋	5204
		交通工学・国土計画	土木計画学、地域都市計画、資源・環境・防災計画、交通現象分析、交通計画、交通工学、道路工学、鉄道工学、測量、リモートセンシング、土木史、景観、土木デザイン	5205
		土木環境システム	水資源、エネルギー施設、都市環境システム、上下水道、廃棄物管理、水質	5206
	建築学	建築構造・材料	荷重論、構造解析、構造設計、コンクリート構造、鋼構造、基礎構造、構造材料、建築工法、保全技術、地震防災、構造制御	5301
		建築環境・設備	音・振動環境、光環境、熱環境、空気環境、環境設備計画、空調、給排水、火災工学、都市環境、環境設計	5302
		都市計画・建築計画	計画論、設計論、住宅論、都市・地域計画、行政・制度、建築経済、防災計画、生産管理、景観計画	5303
		建築史・意匠	建築史、都市史、環境形成史、建築論、意匠、様式、景観	5304
	材料工学	金属物性	電子・磁気物性、半導体物性、熱物性、光物性、力学物性、超伝導、薄膜物性、ナノ物性、計算材料物性、表面・界面・粒界物性、微粒子・クラスター、準結晶、照射損傷、原子・電子構造、格子欠陥、拡散・相変態・状態図	5401
		無機材料・物性	結晶構造・組織制御、力学・電子・電磁・光・熱物性、表面・界面物性、高温特性、粒界特性、機能性セラミックス、機能性ガラス、構造用セラミックス、カーボン材料、誘電体	5402
		複合材料・物性	有機・無機繊維、マトリックス材、複合効果、分散強化、長繊維強化、FRM、FRP、FRC、傾斜機能、複合粒子、複合延性、複合破壊、複合変形応力、界面破壊、反応焼結	5403
		構造・機能材料	強度・靱性・破壊・疲労・クリープ・応力腐食割れ・超塑性・磨耗、ナノ構造、磁性材料、電子・情報材料、水素吸蔵材料、燃料電池材料、熱・エネルギー材料、センサー材料、極低温材料、耐震・耐環境材料、生体・福祉材料、高温材料、アモルファス材料、インテリジェント材料、新機能材料	5404
材料加工・処理		表面・界面制御、腐食防食、塑性加工、粉末冶金、熱処理、接合、結晶制御、ナノプロセス、微細加工、プラズマ処理・レーザー加工、溶射・コーティング、メッキ、非破壊検査、薄膜プロセス、非平衡プロセス、メカニカルロイニング、精密造形プロセス、電極触媒、補修・延命処理	5405	
金属生産工学		反応・分離、素材精製、融体・凝固、鑄造、結晶育成、組織制御、高純度化、各種製造プロセス、省エネプロセス、極限環境場プロセス、エコマテリアル化、資源分離、廃棄物処理、材料循環プロセス、リサイクル、安全材料工学	5406	

理 工 系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(工学)	プロセス工学	化工物性・移動操作・単位操作	平衡・輸送物性、流動・伝熱・物質移動操作、蒸留、抽出、吸収、吸着、イオン交換、膜分離、異相分離、超高度分離、攪拌・混合操作、粉粒体操作、晶析操作、薄膜・微粒子形成操作、高分子成形加工操作	5501
		反応工学・プロセスシステム	気・液・固・超臨界流体反応操作、新規反応場、反応速度、反応機構、反応装置、材料合成プロセス、重合プロセス、計測、センサー、プロセス制御、プロセスシステム設計、プロセス情報処理、プロセス運転・設備管理	5502
		触媒・資源化学プロセス	触媒反応、触媒調製化学、触媒機能解析、エネルギー変換プロセス、化石燃料有効利用技術、資源・エネルギー有効利用技術、省資源・省エネルギー技術、燃焼技術	5503
		生物機能・バイオプロセス	生体触媒工学、生物機能工学、食品工学、医用化学工学、バイオ生産プロセス、バイオリアクター、バイオセンサー、バイオセパレーション	5504
	総合工学	航空宇宙工学	航空宇宙流体・構造・航法・制御・推進、航空宇宙システム・設計、宇宙利用	5601
		船舶海洋工学	船舶性能・構造・建造・艤装・計画・設計、船用機関・燃料、船舶生産システム、海上輸送システム、海洋流体工学、構造力学、海洋環境、海洋資源、海洋探査・機器、海中・海底工学、極地工学	5602
		地球・資源システム工学	応用地質、地殻工学、リモートセンシング、地球計測、地球システム、資源探査、資源開発、資源評価、資源処理、廃棄物地下保存・処分、地層汚染修復、深地層開発、素材資源、自然エネルギー、資源経済	5603
		リサイクル工学	廃棄物発生抑制、再利用、再生利用、再資源化、有価物回収、固固分離、素材クリーニング、適正処分の技術とシステム、製品LCA、環境配慮設計、グリーンプロダクション、ゼロエミッション	5604
		核融合学	磁場核融合、慣性核融合、プラズマ閉込め・安定性、低放射化材料、燃料・ブランケット、電磁・マグネット、核融合システム工学、安全・生物影響	5605
		原子力学	放射線理工学、加速器・ビーム工学、同位体理工学、炉物理・核データ、燃料・材料・化学、熱流動・構造、原子力計測、安全・リスク・信頼性、燃料サイクル、バックエンド、新型原子炉、保健物理・環境安全、原子力社会環境	5606
		エネルギー学	エネルギー生成・変換、エネルギー輸送・貯蔵、エネルギー節約・効率利用、エネルギーシステム、環境調和	5607

生物系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号	
生物学	基礎生物学	遺伝・ゲノム動態	分子遺伝、細胞遺伝、集団遺伝、進化遺伝、人類遺伝、遺伝子多様性、ゲノム構築・機能・再編・発現・維持、発生遺伝、行動遺伝	5701	
		生態・環境	個体群、生物社会、種間関係、群集、生態系、進化生態、行動生態、自然環境、生理生態、分子生態	5702	
		植物生理・分子	色素体機能（光合成など）、成長生理、オルガネラ、環境応答、全能性、代謝性、植物分子	5703	
		形態・構造	動物形態、植物形態、微生物形態、形態形成、組織形態、実験形態、微細構造、顕微鏡技術	5704	
		動物生理・行動	代謝生理、行動生理、動物生理・化学	5705	
		生物多様性・分類	分類群、分類体系、進化、多様性、分類形質、系統、種分化、自然史	5706	
	生物科学	構造生物化学	糖質と脂質、タンパク質と酵素、核酸、遺伝子及び染色体、生体膜及び受容体、細胞間マトリックス、細胞小器官、生体物質の機器分析、翻訳後修飾、分子認識、変性、フォールディング、生体分子立体構造解析及び予測、NMR、質量分析、高分解能電子顕微鏡解析、中性子解析、構造生物学、X線結晶解析	5801	
		機能生物化学	酵素の作用機作と調節、酵素異常、遺伝子の情報発現と複製、生体エネルギー変換、生体微量元素、ホルモンと生理活性物質、細胞情報伝達機構、免疫生化学、糖鎖生物学、膜輸送と輸送タンパク質	5802	
		生物物理学	タンパク質・核酸の構造・動態・機能・運動・輸送、生体膜・受容体・チャンネル、光生物、細胞情報・動態、脳・神経系の情報処理、理論生物学・バイオインフォマティクス、構造生物学、フォールディング、構造・機能予測、1分子計測・操作、バイオイメージング、非平衡・複雑系	5803	
		分子生物学	生体高分子構造・機能、遺伝情報複製・転写装置・再編・制御、染色体構築・機能・分配、細胞集合、核分裂周期	5804	
		細胞生物学	細胞構造・機能、生体膜、細胞骨格・運動、細胞内・細胞間情報伝達、細胞周期、細胞分化、細胞質分裂、核構造	5805	
		発生生物学	細胞分化、形態形成、細胞認識、受精、生殖細胞、遺伝子発現調節、発生遺伝、発生進化	5806	
		進化生物学	生命起源、真核生物起源、オルガネラ起源、多細胞起源、分子進化、形態進化、機能進化、遺伝子進化、進化生物学一般、比較ゲノム、実験進化学	5807	
	人類学	人類学	形態人類学、先史人類学、生体機構学、分子人類学、生態人類学、霊長類学、進化的人類学、歯牙人類学、加齢人類学、ホミニゼーション、応用人類学	5901	
		生理人類学	生理的多型性、環境適応能、全身的協働、機能的潜在性、テクノ・アダプタビリティ	5902	
	農学	農学	育種学	植物育種・遺伝、育種理論、遺伝資源、植物分子育種	6001
			作物学・雑草学	食用作物、工芸作物、飼料作物、栽培、雑草、野生植物資源	6002
園芸学・造園学			果樹、野菜、花卉、園芸利用、施設利用、造園、景観	6003	
植物病理学			病態、感染生理、宿主認識、毒素、遺伝子、病害防除、病害抵抗性	6004	
応用昆虫学			応用昆虫、応用動物、昆虫利用、昆虫病理、養蚕・蚕糸	6005	
農芸化学		植物栄養学・土壌学	植物成長・生理、栄養代謝、代謝調節、土壌分類、土壌物理、土壌化学、土壌生物、土壌環境	6101	
		応用微生物学	微生物学、発酵生産、微生物分類、微生物遺伝・育種、微生物代謝、微生物機能、微生物利用学、環境微生物、抗生物質生産、微生物生態学、微生物制御学	6102	
		応用生物化学	動物生化学、植物生化学、酵素利用学、細胞培養、組織培養、遺伝子工学、生物工学、代謝工学、物質生産、細胞応答、情報伝達、微量元素	6103	
		生物生産化学・生物有機化学	生物活性物質、細胞機能調節物質、農薬科学、植物成長調節物質、情報分子、生合成、天然物化学、生物無機化学、物理化学、分析化学、有機化学	6104	
		食品科学	食品化学、食糧化学、食品生化学、食品物理学、食品工学、食品機能学、食品保蔵学、食品製造学、栄養化学、栄養生化学、食品安全性	6105	

生物系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(農学)	林学	林学・森林工学	森林生産、森林生態・保護・保全、森林生物、森林管理・政策、森林風致、森林利用、緑化・環境林、治山・砂防、崩壊・地すべり・土石流、水資源涵養・水質	6201
		林産科学・木質工学	組織構造・材形成、材質・物性、パルプ・紙、リグニン、抽出成分・微量成分、化学加工、保存・木質文化、乾燥・機械加工、接着・木質材料、強度・木質構造、居住性・感性	6202
	水産学	水産学一般	分類、発生、形態、生理、生態、漁業、資源・資源管理、増養殖、遺伝・育種、魚病、水圏環境・保全、海藻、プランクトン、微生物	6301
		水産化学	タンパク質、脂質、糖質、酵素、エキス成分、ビタミン、色素、生物活性物質、食品加工、食品衛生、微生物、生物工程	6302
	農業経済学	農業経済学	農業経営、農業政策、農業経済、農業金融、農業会計、農業史、農業地理、国際農業、農業地域計画、農村社会	6401
	農業工学	農業土木学・農村計画学	水理、水文、土壌物理、土質力学、応用力学、施設、材料・施行、灌漑排水、農地整備、農村計画、測量、情報処理	6501
		農業環境工学	農業生産環境、生物環境変動予測・制御、生物環境調節、生物工場、閉鎖系生物生産システム、生体計測、生物環境情報・リモートセンシング、農業情報、農作業システム、農作業情報、農業労働科学、生産・流通施設、自然エネルギー、生物生産機械、ポストハーベスト工学、バイオプロセッシング	6502
		農業情報工学	画像処理・画像認識、非破壊計測、インターネット応用、バイオインフォマテイクス、コンピュータシミュレーション、コンピュータネットワーク、知識処理、バイオメカトロニクス、バイオロボティクス、バイオセンシング、GPS/GIS、精密農業	6503
	畜産学・獣医学	畜産学・草地学	草地生態、草地利用、草地管理・保全、畜産物利用、畜産バイオマス、家畜福祉、野生動物保全、家畜生産システム、飼料、飼養、家畜管理	6601
		応用動物科学	育種、繁殖、生産機能制御、発生工学、クローン家畜、生物製剤、生体利用	6602
		基礎獣医学・基礎畜産学	遺伝、発生、生理、形態、行動、生態、薬理、生体情報、寄生体生物	6603
		応用獣医学	家畜衛生、獣医公衆衛生、毒性学、疾病予防・制御、野生動物、動物福祉、人畜共通感染症	6604
		臨床獣医学	内科、外科、臨床繁殖・産科、診断、検査、治療、予後、病理・病態	6605
	境界農学	環境農学	環境分析、環境汚染、環境修復、環境浄化、水域汚染、資源循環システム、バイオマス、遺伝子資源、生物環境、資源環境バランス、地域農学	6701
応用分子細胞生物学		遺伝子・染色体工学、タンパク質・糖鎖工学、代謝工学、オルガネラ工学、細胞工学、発生・分化制御、細胞間相互作用、分子間相互作用、バイオセンサー、細胞機能、分子情報、機能分子設計	6702	
医歯薬学	薬学	化学系薬学	有機化学、合成化学、生体関連物質、天然薬物学、有機反応学、ヘテロ環化学	6801
		物理系薬学	物理化学、分析化学、製剤学、情報薬品科学、同位体薬品化学、コンピュータ科学、生物物理化学、生物分子構造学	6802
		生物系薬学	生化学、分子生物学、免疫化学、薬理学、細胞生物学、神経生物学、構造生物学	6803
		創薬化学	医薬品化学、医薬分子設計、生物活性物質、医薬分子機能学、ゲノム創薬	6804
		環境系薬学	環境衛生学、環境化学、環境動態学、食品衛生学、栄養化学、微生物科学、薬用資源学、中毒学、レギュラトリーサイエンス	6805
		医療系薬学	病院薬学、医療薬剤学、薬物動態学、医薬品情報学、薬効解析学、医薬品安全性学、薬物代謝学、臨床化学、ドラッグデリバリー、オーダーメイド医療	6806

生物系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号
(医歯薬学)	基礎医学	解剖学一般 (含組織学・発生学)	1 肉眼解剖学、機能解剖学、臨床解剖学、比較解剖学、画像解剖学、形質人類学、発生学・形態形成学、先天異常学・奇形学、実験形態学、解剖学教育	6901
			2 組織学、細胞微細形態学、細胞分化・組織形成、細胞組織化学、分子形態、顕微鏡技術	
		生理学一般	分子生理学、細胞生理学、組織・器官生理学、システム生理学、一般生理学	6902
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	環境生理学、体力医学、栄養生理学、適応・協同生理学、生体リズム、発達・成長・老化	6903
		薬理学一般	腎臓、循環、骨格筋・平滑筋、消化器、炎症・免疫、生体活性物質、中枢・末梢神経	6904
		医化学一般	生体分子医学、細胞医科学、臨床遺伝医科学、発生医学、再生医学、加齢医学、高次生命医学	6905
		病態医化学	異常代謝学、分子病態学、分子遺伝子診断学、分子腫瘍学、分子病態栄養学	6906
		人類遺伝学	分子遺伝学、細胞遺伝学、薬理遺伝学、遺伝生化学、遺伝疫学、遺伝診断学、遺伝子治療学、遺伝カウンセリング、生命倫理学	6907
		人体病理学	脳・神経、消化器、呼吸器、循環器、泌尿生殖器、骨・筋肉、血液、分子病理、地理病理、腫瘍、診断病理学、細胞診断、テレパソロジー、環境病理	6908
		実験病理学	動物、細胞、分子、超微形態、腫瘍、炎症、中毒病理、発生病理、疾患モデル動物	6909
		寄生虫学(含衛生動物学)	寄生虫、原虫、昆虫、哺乳類、分子、疫学、発生、遺伝	6910
		細菌学(含真菌学)	病原性、感染免疫、疫学、遺伝、分類	6911
		ウイルス学	分子、細胞、個体疫学、病原性、診断、プリオン、ワクチン	6912
		免疫学	抗原、抗体、補体、サイトカイン、細胞、接着分子	6913
	境界医学	医療社会学	病院管理学、医療管理学、医療情報学、バイオエシックス、医学史、医学教育学、医療経済学、リスクマネジメント	7001
		応用薬理学	臨床薬理学、薬物治療学、医薬品副作用、薬物輸送学、ファーマコゲノミクス、同位体医療薬学、機器医療薬学	7002
		病態検査学	臨床検査医学、臨床病理学、臨床化学、免疫血清学、臨床検査システム	7003
	社会医学	衛生学	環境保健、予防医学、産業衛生、環境疫学、分子遺伝疫学、医学統計、生命倫理、環境中毒、産業中毒、環境生理、地球環境、災害事故、人間工学、交通医学、食品衛生	7101
公衆衛生学・健康科学		地域保健、母子保健、学校保健、成人保健、保健栄養、健康管理、健康教育、医療行動学、人口問題、国際保健学、保健医療行政、病院管理学、医療情報学、介護保険	7102	
法医学		法医学、医の倫理、犯罪精神医学、矯正医学、保険医学、診療録管理学、法医鑑定学、アルコール医学、法歯学、DNA多型医学、法医病理学	7103	

生物系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号		
(医歯薬学)	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)	心療内科学、ストレス科学、東洋医学、伝統薬物、代替医療、総合診療、プライマリーケア	7201		
		消化器内科学	1	消化器学(食道、胃、小腸、大腸)、消化管内視鏡学	7202	
			2	肝臓病学、膵臓病学、胆道学		
		循環器内科学	1	心臓病態学	7203	
			2	血管病態学		
		呼吸器内科学	呼吸器病学、縦隔疾患学、胸膜疾患学、呼吸生理学		7204	
		腎臓内科学	腎臓学、高血圧学、水・電解質代謝学、人工透析学		7205	
		神経内科学	神経病態生化学、神経病態薬理学、神経病態免疫学、臨床神経生理学、臨床神経形態学、臨床神経分子遺伝学、臨床神経心理学		7206	
		代謝学	糖尿病学、動脈硬化学、代謝異常学		7207	
		内分泌学	内分泌学、生殖内分泌学		7208	
		血液内科学	血液内科学、血栓・止血学、輸血学、小児血液学、造血幹細胞移植学、血液免疫学、免疫制御学		7209	
		膠原病・アレルギー・感染症内科学	膠原病学、リウマチ学、アレルギー学、臨床免疫学、感染症学		7210	
		小児科学	1	発達小児科学、成育医学、小児神経学、小児内分泌学、小児代謝・栄養学、小児循環器学、小児呼吸器学、遺伝・先天異常学、小児保健学、小児社会医学	7211	
			2	小児血液学、小児腫瘍学、小児免疫・アレルギー・膠原病学、小児感染症学、小児腎・泌尿器学、小児消化器病学		
		胎児・新生児医学	出生前診断、胎児医学、先天異常学、新生児医学、未熟児医学		7212	
		皮膚科学	皮膚診断学、皮膚病理学、性病学、レーザー治療学、皮膚生理学、皮膚腫瘍学、色素細胞学、皮膚感染症		7213	
		精神神経科学	精神薬理学、精神生理学、精神病理学、社会精神医学、児童精神医学、老年精神医学、司法精神医学、神経心理学		7214	
		放射線科学	1	画像診断学(含放射線診断学、核医学)	7215	
			2	放射線治療学		
		外科系臨床医学	外科学一般	1	外科総論、移植外科学、人工臓器学、血管外科学、脾門脈外科学	7301
				2	実験外科学、内分泌外科学、乳腺外科学、代謝栄養外科学	
			消化器外科学	1	食道外科学、胃十二指腸外科学、小腸大腸肛門外科学	7302
				2	肝臓外科学、胆道外科学、膵臓外科学、脾門脈外科学	
			胸部外科学	心臓大血管外科学、呼吸器外科学、縦隔外科学		7303
			脳神経外科学	頭部外傷学、脳腫瘍学、脳血管障害学、脳血管内外科学、機能脳神経外科学、小児脳神経外科学、脊髄・脊椎疾患学		7304

生物系

分野	分科	細目	キーワード	細目番号	
(医歯薬学)	(外科系臨床医学)	整形外科科学	1 脊椎脊髄病学、筋・神経病学、骨・軟部腫瘍学、四肢機能再建学、理学療法学、運動器リハビリテーション学	7305	
			2 関節病学、リウマチ病学、骨・軟骨代謝学、小児運動器学、運動器外傷学、スポーツ医学		
		麻酔・蘇生学		麻酔学、蘇生学、周術期管理学、疼痛治療学	7306
		泌尿器科学	1 泌尿器科学	7307	
			2 副腎外科学、腎移植、アンドロロジー		
		産婦人科学	1 産科学、生殖医学	7308	
			2 婦人科学、婦人科腫瘍学、更年期医学		
		耳鼻咽喉科学		耳鼻咽喉学、頭頸部外科学、気管食道学	7309
		眼科学		眼科学、神経眼科学、眼光学	7310
		小児外科学		先天性消化器疾患学、先天性心大血管外科学、胎児手術学、小児泌尿器科学、小児呼吸器外科学、小児腫瘍学	7311
		形成外科学		再建外科学、創傷治癒学、マイクロサージェリー学、組織培養・移植学、再生医学	7312
		救急医学		集中治療医学、外傷外科学、救急蘇生学、急性中毒学、災害医学	7313
	歯学	形態系基礎歯科学		口腔解剖学（含組織学・発生学）、口腔病理学、口腔細菌学	7401
		機能系基礎歯科学		口腔生理学、口腔生化学、歯科薬理学	7402
		病態科学系歯学・歯科放射線学		実験腫瘍学、免疫・感染・炎症、歯科放射線学一般、歯科放射線診断学	7403
		保存治療系歯学		保存修復学、歯内療法学	7404
		補綴理工系歯学		歯科補綴学一般、有床義歯学、冠橋義歯学、歯科インプラント学、歯科用材料・歯科理工学	7405
		外科系歯学	1 口腔外科学一般（含病態検査学）、歯科麻酔学	7406	
			2 臨床腫瘍学		
		矯正・小児系歯学		歯科矯正学、小児歯科学、小児口腔保健学	7407
歯周治療系歯学		歯周免疫機能学、歯周外科学、歯周予防学	7408		
社会系歯学		口腔衛生学（含公衆衛生学・栄養学）、予防歯科学、歯科医療管理学、歯科法医学、老年歯科学、歯科心身医学	7409		
看護学	基礎看護学		看護学概論、看護哲学、看護技術、看護倫理学、災害看護、看護教育学、看護管理学、看護行政学	7501	
	臨床看護学		重篤・救急看護学、周手術期看護学、慢性病看護学、リハビリテーション看護学、がん看護学、ターミナルケア、母性・女性看護学、助産学、小児看護学、家族看護学	7502	
	地域・老年看護学		地域看護学、精神看護学、老年看護学、公衆衛生看護学、在宅看護、訪問看護	7503	

問合せ先

1 この公募に関する問い合わせは、研究機関を通じて下記に照会してください。

(1) 公募の内容に関すること：文部科学省研究振興局学術研究助成課

電話 03-5253-4111(代表)

区 分	担当係	内線・直通	
公募要領全般	研究費総括係	内線：4091	直通：03-6734-4091
特別推進研究、特別研究促進費	科学研究費第一係	内線：4095、4328	直通：03-6734-4095
特定領域研究	科学研究費第二係	内線：4087、4316	直通：03-6734-4087

(2) 電子申請システムの利用に関すること：独立行政法人日本学術振興会総務部システム管理課

・土日休日を除く9：30～17：30

コールセンター 0120-556739 (フリーダイヤル)

・上記以外の電話 03-3263-1902、1913

2 この公募要領に記載している内容は、文部科学省のホームページでご覧いただけます。
また、応募書類の様式は、次のホームページからダウンロードすることができます。

文部科学省のホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm